

II 「ベトナム漢喃研究院・国家図書館所蔵家譜目録」 解題

凡 例

- 一、本解題は、ベトナム漢喃研究院と国家図書館所蔵の家譜をまとめたものである。
- 二、漢喃研究院所蔵家譜は『漢喃遺産』、国家図書館所蔵家譜はノーム保存財団（Nôm Preservation Foundation）の説明をもとに作成した。
- 三、[] 中の数字は、「III 「ベトナム漢喃研究院・国家図書館所蔵家譜目録」 一覧」の通番と対応する順番である。この通番は、概ね『漢喃遺産』の並び順（表題の漢越語（漢字のベトナム語読み）のアルファベット順）に従っている。
- 四、「[通番] / 『漢喃遺産』の順番 / 表題（漢） / 表題（越） / 整理番号：成書年代に関する記述」の順にまとめた。改行して、筆者が閲覧した家譜の目次をゴシック体で記した。再び改行して、成書年代に関わる解題を作成した（解題が無い場合は『漢喃遺産』の記述に従うということを意味する）。

[16] 285 蓬幕社阮家譜誌 Bông Mạc xã Nguyễn gia phả chí A. 1457 : 阮文
暉が嗣徳4年（1851）に序文作成。

表紙○・阮家登科録官籍（2-4頁）・車幕総蓬幕社阮家譜序（5-6
頁）・阮氏家譜（5-60頁）・演譜序並書（61-111頁）

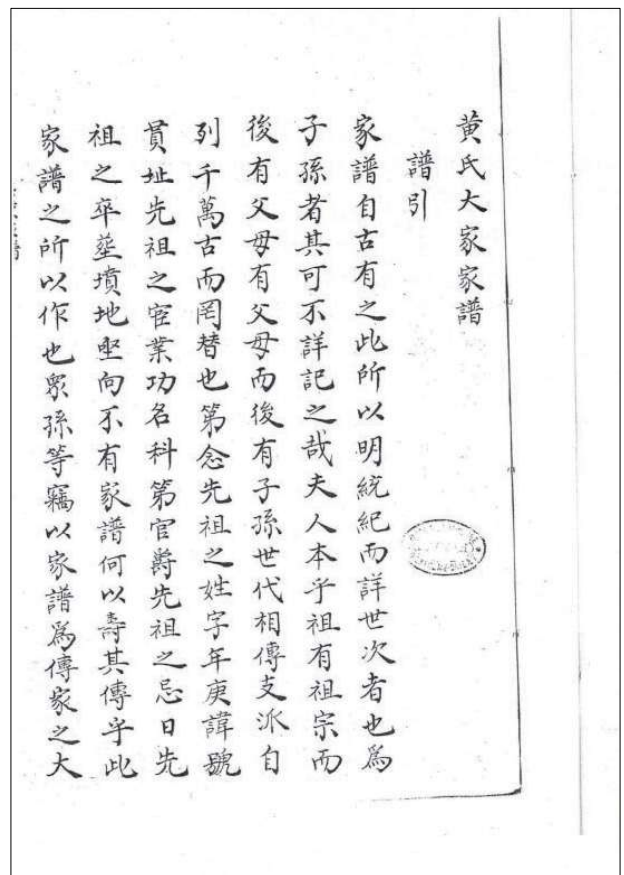
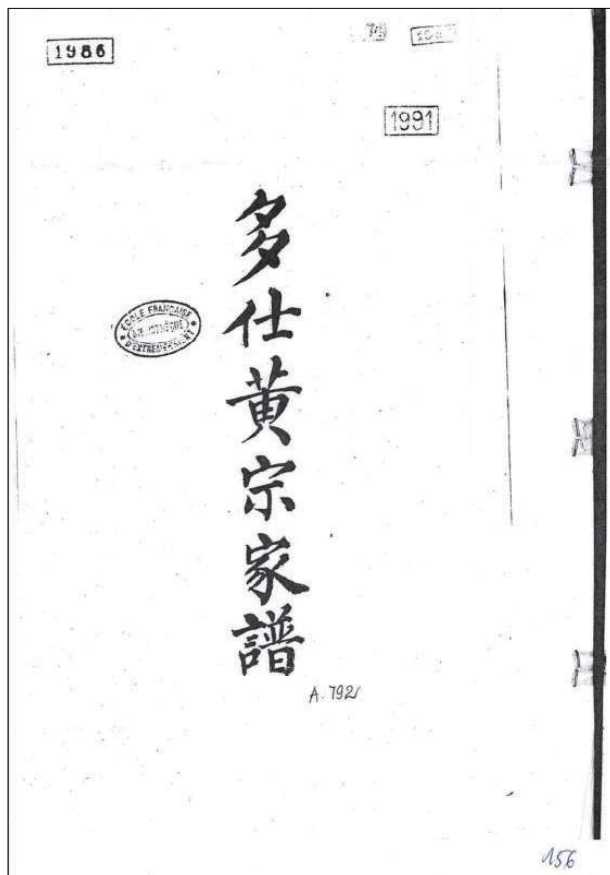
「車幕総蓬幕社阮家譜序」は、嗣徳4年（1851）に十二代祖阮文暉が書
き、十三代祖の阮文長が写した。十五代孫儒生、阮文仁が続編を書き、
十七代まで扱う。十代祖の頃に体裁が以前と異なるようになる。

- 六、**赤色**は省略、**青色**は重複を意味する。主に「始祖から子孫への系譜」ではない個人の行状や年譜、文集や祭文類、家系を辿れないものや登科録などのもの、字喃で書かれたものなどは省略した（「I まえがき」を参照されたい）。

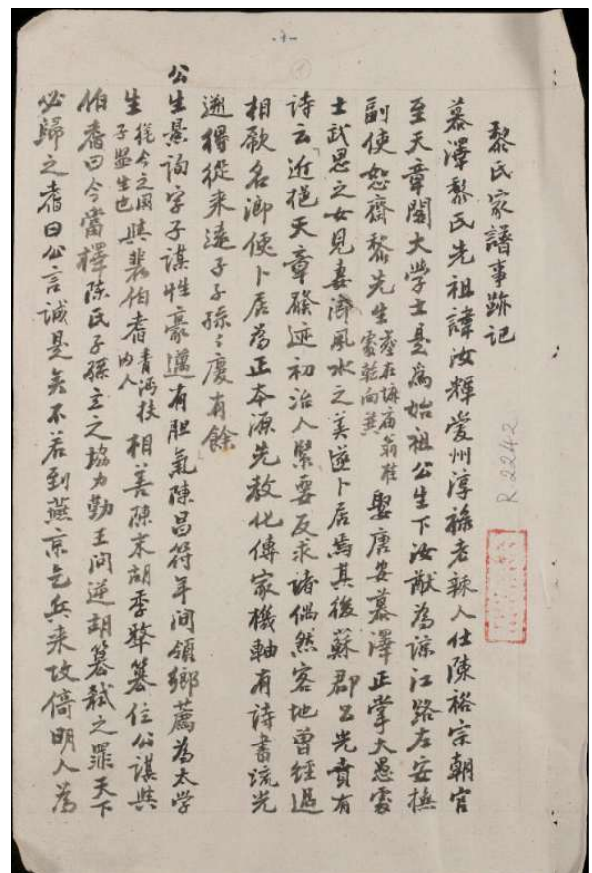
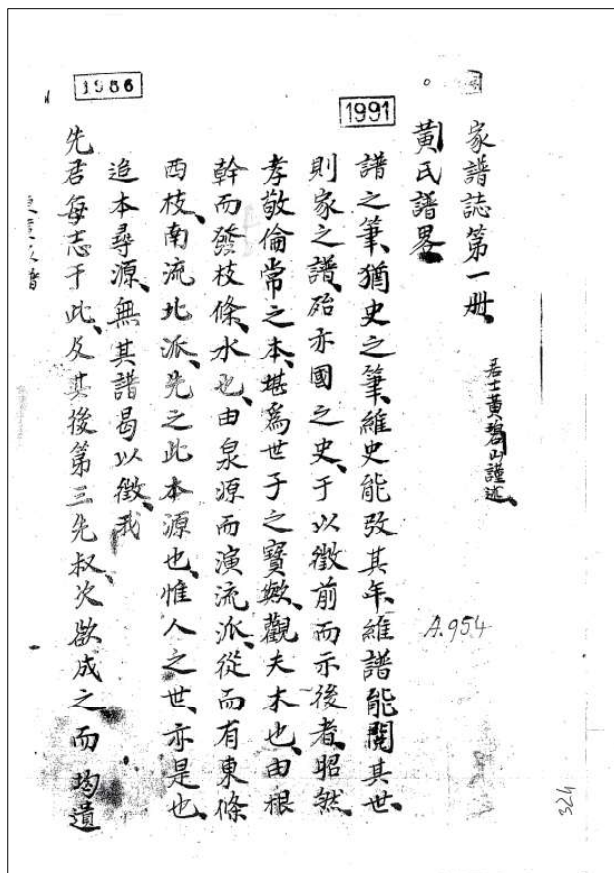
- 七、書名は史料の表紙（カバーではない）に従い、表紙がない場合は小題として記載されているものを題目とした。本文内に書名の記載がない場合は、「無題」とした。『漢喃遺産』に記載された題目と一致しない場合は、打消し線を引き、実物の題目に従った。

- 五、成書年代に関する『漢喃遺産』の用語は以下のように翻訳した。

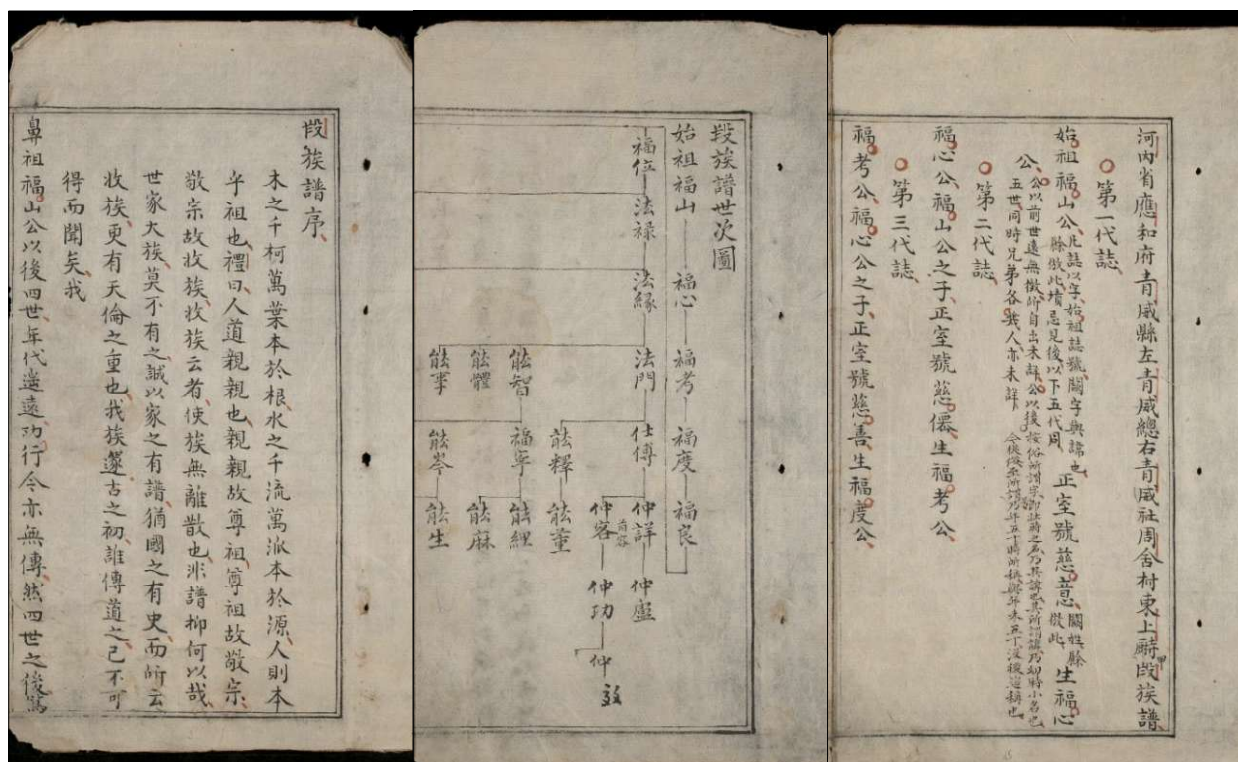
biên chép	記録	hiệu biên	校編	sao lại	書き写す
biên soạn	編纂	hiệu đính	校訂	sao chép	書き写す
biên tập	編集	hiệu chỉnh	校正	sao lục	抄録
bổ sung	補充	in	印刷	soạn	撰述
chép	筆写	kiểm duyệt	検閲	tham đính	校閲
chép lại	再写	ký tên	署名	tr.	頁
dề tựa	序文をつ ける	khảo đính	校訂	tra cứu	調査
		lược biên	略編	trùng đính	重訂
ghi chép	記録	nhuận sắc	潤色	tục biên	続編を書く
ghi lại	再録	phụng	捧げる	viết	作成
duyet	校閲	sao	写す	viết lại	再書



表紙がある場合、表紙に従った。[33]『多仕黄宗家譜』の表紙（左）と3頁（左）



表紙がない場合は小題として記載されているものを題目とした。[68]『東黄家譜』（左）と[325]『慕沢黎氏家譜事跡記』（右）の最初の頁。



[322]『段族譜』(左から5、11、15頁)のように、題目に統一性が保たれている例もあるが、表紙の題目と本文中の題目が一致しない場合も少なくない。

2795. QUAN XUYỀN ĐỒ TỘC PHẢ 蘭川杜族譜

Đồ Nghiêm 杜殿 編 tập. Chép năm Gia Long thứ nhất (1802).
1 bản viết. 48 tr., 18 x 13.
A.2036.

Gia phả họ Đỗ ở l. Quan xuyên, ph. Khoái Châu, t. Hưng Yên: thể
thứ các đời, danh hiệu, khoa hoạn, tuổi thọ, tiểu sử, phần mộ, ngày ki...
của các vị tổ. Họ này có Đỗ Bảo đồ Giám sinh, Đỗ Thành Đoàn đồ TS
đều thuộc triều Lê.

Généalogie.

Généalogie de la famille Đỗ, du village de Quan Xuyên, préfecture de
Khoái Châu, province de Hưng Yên: générations, noms et titres, lauréats
aux examens, âges, biographies, tombeaux, jours anniversaires, etc Đỗ
Bảo reçu étudiant de l'État sous la dynastie des Lê, Đỗ Thành Đoàn
docteur sous la même dynastie.

1352 蘭川杜族譜

今存嘉隆元年(1802)抄本一種

48頁, 高18公分, 寬13公分

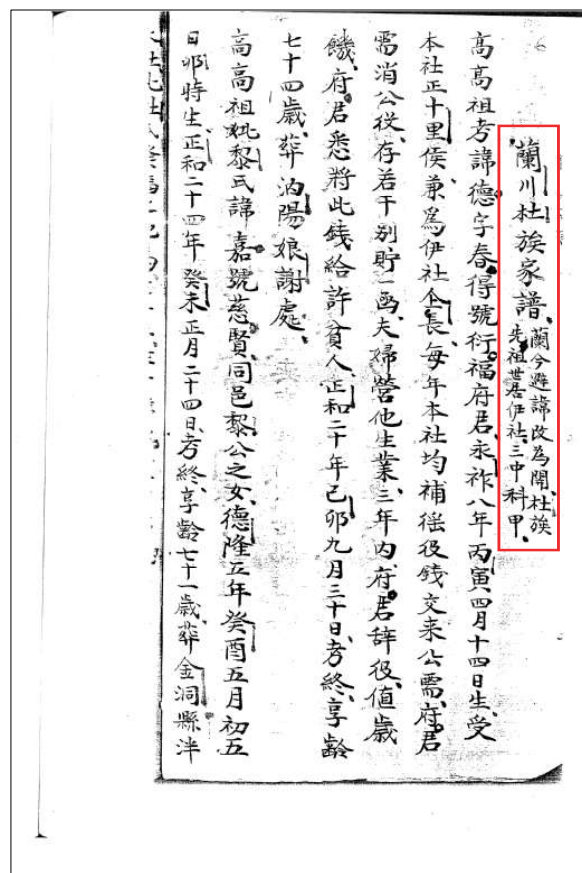
興安省快州府蘭川社杜族的家譜, 杜殿編
修

按此書內容包括族人世次、名諱、科宦、
年壽、小史、墳墓及忌日等資料, 族人於黎
朝時有監生杜寶、進士杜成尹等

原目編爲2795號

漢文書

A.2036



『漢喃遺産』に記載された題目と一致しない場合、打消し線を引き、実物の題目に従った。『漢喃遺産』(上)と『漢喃文献』(下)の解説と[244]『蘭川杜杜族譜』の6頁。避諱により「蘭」が「関」となっていると書かれている(注40を参照されたい)。

漢喃研究院

A

- [1] 5 安沿陳氏家譜 An Diên Trần thị gia phả A. 945 : 秀才陳光が嗣徳6年(1853)に撰述。
表紙○・安沿社陳氏家譜序(2-4頁)・譜誌(5頁)・列先諱號(6-17頁)・列先忌日(19-26頁)・第一代…
…(27-38頁)・二代(39-48頁)・生徒公遺文(49-92頁)・三代(93-112頁)・遺文(113-186頁)・四代(187-
196頁)・墳墓考(197頁)
「安沿社陳氏家譜序」は陳光が書いた。家譜によれば、陳光(1807~?、1837年秀才)は五代孫に当たる。
その息子陳裕(六代孫)が書き写したものである。
- [2] 11 安朗尚書公家譜 An (Yên) Lăng Thượng thư công gia phả A. 1605 : なし。
表紙×・富舎都臺官(1-2頁)・安朗尚書公家譜(3-8頁)・統編顯考雅慎府君(9-18頁)+附録(詩文等)
未詳。しかし「実→寔」、「時→辰」のような阮朝の避諱は見当たらない。また景興年間の双注において
「国朝制文……」と論じていることから、少なくとも阮朝成立以前に書かれたものであると考えられる。
- [3] 28 安山范相公世譜 An Sơn Phạm tướng công thế phả A. 1605 : なし。
表紙×・安山范公世譜序(1-2頁)・前編跋(2頁)・正編説(3頁)・范相公行状(3-19頁)・安山范相公遺
文(20-80頁)
「安山范公世譜序」は維新八年甲寅(1914)に書かれた。五代祖の書斎の生没年は1844~1912年である。
その息子世代により書かれたと考えられる。
- [4] 30 安泰坊西村阮族家譜 An Thái phường Tây thôn Nguyễn tộc gia phả A. 3169 : なし。
表紙○・第三本支(3-10頁)・曾祖遺訓(10-12頁)
未詳。始祖「七代高祖」から「四代曾祖」までの記録。曾祖である皐は戊午年に生まれ乙亥年に死んだ。
祖、考代の記録はない。「故黎朝」という表現から阮朝に書かれたものであると考えられる。
- [5] 31 安泰武家実録統編 An (Yên) Thái Vũ gia thực lục tục biên VHb.284 : なし。
表紙○・武家寔録統編(3-24頁)
未詳。武有信は1807年に挙人に合格し、明命11年(1830)に死んだ。その正室阮氏は明命21年(1840)
に死んだ。有信の息子世代により1840年以降作成されたと考えられる。

B

- [6] 57 巴陵武族譜 Ba Lăng Vũ tộc phả A. 1109 : 阮伯諧が黎景興18年(1757)に編集し、序文を書いた。
玄孫である武発が紹治4年(1844)に書き写した。
表紙○・巴陵武族譜(3-78頁)
「四支小宗堂譜」によれば、武発は三代祖に当たり、生没年は1805~1862年である。その次男である卓
とその正室の生没年はそれぞれ1836~1905年と1836~189年である。家譜最後の人物はその次室阮・慈娟
であり、その生没年は1843~1913年である。卓の息子世代により編纂されたと考えられる。
- [7] 92 拜恩阮族家譜 Bái Ân Nguyễn tộc gia phả A. 651 : 永盛元年(1705)の写本に基づいて、明命21年
(1840)に阮徳秀が撰述。
表紙○・本序録目(3-5頁)・阮族世系(5-8頁)・無題(9-16頁)・録乙支世系(17-28頁)・祝文
(28-31頁)
「本序録目」は永盛元年(1705)に阮徳秀が序文を書いた。「阮族世系」に明命21年(1840)に「承嗣
孫纂述家譜」とあり、「大宗甲支正長字承嗣阮徳輝奉祀」という情報から、阮徳輝が承嗣孫にあたると思
われる。系譜の中に、阮徳輝の名前は見当たらない。
- [8] 155 鉢場社阮族家譜実録 Bát Tràng xã Nguyễn tộc gia phả VHv. 1349 : 知県阮有功が編纂。東閣学士阮
錦が続いて編纂。儒生阮登弘が記録。二通の引。正和7年(1686)と保泰9年(1728)の文章。

表紙○・阮族家譜実録（1-101 頁）・孤姪登域拝（102-104 頁）・勅命類（105-122 頁）・鉢場造亭記（123-126 頁）・造亭記演音（127-131 頁）

表紙に「次子知県阮有功」が正和 7 年（1686）撰写し、保泰 9 年（1728）に「次孫東閣学士阮錦」が続いて編集し、次曾孫の儒生中式の阮登鉉が承録したとある。「孤姪登域拝」は明命 10 年（1829）に世庶孫阮潤が作成。

- [9] 217 閉門家譜 *Bế môn gia phả* Paris. SA. HM. 2220 : 閉朗瑋が維新 9 年（1915）に記録。

コピーなし。

- [10] 262 平望阮氏甲派家譜 *Bình Vọng Nguyễn thị giáp phái gia phả* A. 634 : 鏡齋阮鉞が編集。玉堂阮琮が明命 9 年（1828）に校正。松軒阮哲勛が明命 10 年（1829）に序文を作成。

コピーなし。

- [11] 263 平望阮族乙派庶支譜 *Bình Vọng Nguyễn tộc ất phái chi phả* A.634/1-4: 石庵阮琅が成泰 19 年（1907）に撰述。秀才阮叔淡と举人阮師皇が校正。阮琮、陳輝璞、阮哲勛、阮琅の原序がある。

表紙○・正編卷一（1-67 頁）・附編卷二：逸事・墳墓・文章・告身（1-116 頁）・附編卷三：慶挽著作（1-98 頁）

※卷一（Q1）はない。恐らく「卷一」に序文・凡例などがあると思われるが、判断できない。「卷二」は、嫡孫举人阮琅（1816~1868）が編集したもので、庶曾孫の阮叔淡と阮師黄が校正したと思われる。「卷二」が（乙派の）「正編卷一」となっており、（一軒公の三男であり）本支（乙派？）一代祖潔実（1760~1790）から始まり、そのひ孫（四代祖）師尹（1838~1894）まで扱っている。三代祖の石庵は、嗣徳元年（1848）举人である。

- [12] 264 平望阮族丙派譜 *Bình Vọng Nguyễn tộc bính phái phả* A. 634 : 鏡齋阮鉞が明命 13 年（1832）に編集。阮琮が校正。陳澹齋輝璞が序文を作成。阮琮が誌を作成。

コピーなし。

- [13] 265 平望阮族丁派譜 *Bình Vọng Nguyễn tộc đinh phái phả* A. 1003 : 阮友善が編集し、阮友愛が校閲。

表紙○・平望阮族譜正譜第三支世譜卷上（3-52 頁）・卷下（54-168 頁）。

表紙に「丁派第三九世孫勸〔友善〕」が輯編し、欽〔友愛〕が参訂、謹〔友信〕が繕書したとある。編纂者の一人である阮友善の妻が甲辰年（1904）に死んだ。

- [14] 266 平望陳氏家譜 *Bình Vọng Trần thị gia phả* A. 979 陳公意（字は希道）が撰述。

表紙○・平望陳氏家譜序（3-6 頁）・家式示後（7-11 頁）・一世次以下（13-69 頁）・陳族甲派次支世次（71-75 頁）・本家列位姑猛（77-78 頁）・外家汝氏三忌（79-81 頁）・一附外家阮氏三忌（82-83）・囑書（85-124 頁）

維新 6 年（1912）に陳方春により編集。「一世次以下」は維新 6 年に陳方春が書いた。しかし序を書いたと思われる希道（福謹、1817~1883）は、方春の伯父である。

- [15] 281 貝溪狀元家譜 *Bối Khê Trạng nguyên gia phả* A. 1046 : 重複（[332] R. 1983）¹³

- [16] 285 蓬幕社阮家譜誌 *Bồng Mạc xã Nguyễn gia phả chí* A. 1457 : 阮文暉が嗣徳 4 年（1851）に序文作成。

表紙○・阮家登科録官籍（2-4 頁）・車幕総蓬幕社阮家譜序（5-6 頁）・阮氏家譜（5-60 頁）・演譜序並書（61-111 頁）

「車幕総蓬幕社阮家譜序」は、嗣徳 4 年（1851）に十二代祖阮文暉が書き、十三代祖の阮文長が写した。十五代孫儒生、阮文仁が続編を書き、十七代まで扱う。十代祖の頃に体裁が以前と異なるようになる。

¹³ ただし、[332] と異なり 附録（『歴朝憲章類誌』・『大越鼎元仏録』・壯元公対策・『公余捷記』）を添付している。

[17] 289 裴門世系 Bùi môn thế hệ A. 1195 : なし。

記号なし。

[18] 290 裴氏家譜 Bùi thị gia phả A. 1002 : 裴溥（字は文幾甫）が撰述し、嘉隆 7 年（1808）と明命 11 年（1830）に序文作成。

表紙○・序・続書序・卷一・卷二。

庶支孫裴溥が嘉隆 7 年（1808）に「序」、明命 11 年（1830）に「続書序」を書いた。卷一（Q1）には、始祖の監簿寛福（1464~1551）から考である卯軒（1776~1836）までにわたる 8 代の家系がある。卯軒は、溥である。裴溥が嘉隆 7 年（1808）と明命 11 年（1830）に書いた序文があるものの、裴溥が「考」とされている。その息子世代による編纂か。同慶丙戌年（1886）までの紀年があることにも注意。

※ [265] 『盛烈東邑裴氏甲支列祖行状』も見ること。

[19] 291 裴氏略譜 Bùi thị lược phả A. 773 : 裴駢（字は直甫）が編纂。

表紙×・参考朝代年紀（1-6 頁）・青池裴氏家譜略記（6-9 頁）・裴氏歴代列先世次位号（9-11 頁）・裴氏家譜略記（13-72 頁）

「十二世次裔孫」は直甫裴駢が、成泰 9 年（1897）に写した。この族譜は、景興 30 年（1769）進士である裴壁（1744~1802）が書いたものを、庶玄孫の裴溥が「拝抄」したものである。ただ、家譜の中で裴溥は裴壁を「曾伯祖」としている。

[20] 292 雲耕裴氏譜 Vân Canh Bùi thị phả A. 1047 : 举人裴春沂が撰述。

表紙○・裴氏譜序（3-4 頁）・大宗祠堂（5-9 頁）・正引（11-13 頁）・裴氏譜編（14-29 頁）・乙支祠堂（30-31 頁）・裴氏乙支譜（32-58 頁）・裴氏合族自第八代以下世次（59-66 頁）

十四代に当たる裴春沂は、嗣徳 20 年（1867）に举人となった人物であり、彼の長男、春済が同慶 3 年（1888）の举人である情報もあることから、1888 年以降に編纂されたものであると思われる。春沂が書いたものを春済が写した可能性がある。

[21] 292 裴氏譜編 Bùi thị phả biên A. 1048 : 同上。

表紙○・序（3-5 頁）・正引（5-6 頁）・旁引（6-7 頁）・裴氏譜編（8-40 頁）・敕（41-48 頁）・大宗祠堂（49-50 頁）・歳辰簡便儀文（51-58 頁）・春祭儀節（59-87 頁）・策文、題名碑・敕（88-100 頁）・裴乙支譜編（106-121 頁）・裴家甲支分支（122-130 頁）

[20] 『雲耕裴氏譜』は、七代の廷員の次男以下を扱うとしたら、この家譜は、長男系の支派を詳しく書く。廷員の六代孫である登{日+岩}が族長となっている。その従弟、登日の生没年は 1795~1852 年であり、1852 年が年代の分かる最後のものである。雲耕裴氏譜より早い時期に編纂された可能性がある。

[22] 293 裴族家譜 Bùi tộc gia phả VHv. 1356 : なし。

表紙○・本文（5-7 頁）・附録長支（9-17 頁）・祭祖文（19-24 頁）・本支以下（25-28 頁）

「本支以下」の情報によれば、始祖の虚無は、編纂者を基準に八代祖である。祖の弟である徳義が、乙卯秀才である。「秀才」という名称は 1825 年以降使われるため、乙卯は 1855 年あるいは 1915 年となる。父親の温直が、丙戌年に生まれ癸卯年に死んだ。その場合、1766~1843 年か、1826~1903 年となる。年度の確定はできないが、いったん阮朝と推定する。

C

[23] 545 章陽杜譜 Chương Dương Đỗ phả A.1157 : 礼門殿において、嗣徳庚辰年（1880）に印刷。

表紙○・祠堂碑記（3-6 頁）・章陽杜家世譜序（7-8 頁）・世次追録（9-29 頁）・備記（30-45 頁）

「章陽杜家世譜序」は杜達が嘉隆己巳年（1809）に書いた。嗣徳庚辰年（1880）に印刷されている。九代祖礼掌公（1797?~1848?）は、明命 6 年（1825）に举人となった人物であり、『国朝郷科録』には杜名浹とされている。杜達と杜名浹との関係は不明である。ここでは印刷された年とする。

D

- [24] 696 瑤舍村阮族世譜 Dao Xá thôn Nguyễn tộc thế phả Vhv.1386 長孫阮文述が保大 17 年（1942）に書き写した。

表紙○・序・以下歴代世次

長孫阮文述が保大 17 年（1942）に書いた。『漢喃遺産』に阮福平の時に移住とあるが、移住したのは阮福平ではなく、その長男である（生下三男立為甲乙丙三支。後甲支移于清化省瑤舍村、乙丙二支在河内原貫）。

- [25] 701 遺愛社陳家譜記 Di Ái xã Trần gia phả kí A.681：なし。

表紙×・遺愛社進士官家譜（1-5 頁）・忌臘各節文（5-15 頁）

祖父（福盛）と父（福良）だけの家譜。福良は、竜徳 2 年（1733）に進士となった陳謨（1694~1790）である。福良には息子一人と、娘二人がいたが、息子が作成したと思われる。

- [26] 708 貽沢堂譜記 Di Trạch đường phả kí A. 1294：前軍文翰阮輝瀛が編集し、円庵阮輝潤が校正した。嘉隆 1、2、3 年（1802、1803、1804）に呉桂香、高輝耀と阮光宅が序文あるいは跋を書いた。

表紙○・重修貽沢堂譜序（3-4 頁）・後序（5-13 頁）・貽沢堂後譜序（13-14 頁）・貽沢堂家譜条約（15-19 頁）・貽沢堂家譜世系則例（19-22 頁）・貽沢堂譜記（23-117 頁）・貽沢堂各支女子遂次附列于左（117-126 頁）・世次絵図（127-131 頁）

「重修貽沢堂譜序」は六世支孫阮輝瀛が嘉隆元年（1802）の八月に、「後序」は呉桂香などが同年の孟秋に書いた。「貽沢堂後譜序」は、次支阮光宅が菊月（9 月）に書いた。阮光宅は、家譜中には「六世輝宅」とあり、生没年は 1767~1819 年である。六代まで収録されていることから、七代目が書いたのか。

- [27] 729 延河譜記 Diên Hà phả kí A. 42：黎昭統元年（1787）に編纂。

表紙×・延河譜記（1-2 頁）・穎城侯事实（2-8 頁）・附録刑部尚書黎侯事实（9-11 頁）
行状類。

- [28] 739 尹氏家譜 Doãn thị gia phả A. 784 尹署と尹蘊が編纂。紹治 3 年（1843）に尹蘊が序文を作成。尹元が抄録。

表紙○・繼修家譜識言（3-8 頁）・繼修家譜凡例（9-10 頁）・尹氏合族世次之図（11-16 頁）・累世登科録（17-21 頁）・尹氏家譜序（22-27 頁）・尹氏家譜約述（28-117 頁）・奉編鄉詔支奉事（119-124 頁）・長支在祖貫安治社譜録以下（125-128 頁）・恭追祠堂長支（128-130 頁）・安治社尹氏家譜目録（131-135 頁）・安治社尹氏世科（136-142 頁）・安治社尹氏家譜約述（143-150 頁）・家系図（151-156 頁）・次支尹義（157-177 頁）

「繼修家譜識言」は、庶孫の蘊と元が紹治 3 年（1843）に書いた。「尹氏家譜序」は、庶孫の珪が嘉隆 15 年（1816）に書いた。「尹氏家譜約述」は、景興 45 年（1784）に第四支の曙と篆が作成した。蘊（1795~1850）は、明命 9 年（1828）に挙人となった。曙と篆は、それぞれ景興 29 年（1768）と同 38 年（1777）の郷貢である。「恭追祠堂長支」と「安治社尹氏家譜約述」は、皇朝維新 5 年（1911）に、十四代の尹文仁（長支）と族長尹大念によって書かれた。ここでは、「繼修家譜識言」を基準とする。

- [29] 786 楊家世譜 Dương gia gia phả A. 682：楊伯恭が序文を作成。

表紙○・楊家世系叙譜記（3-5 頁）・楊家世系図引（5-7 頁）・楊家文集（9-172 頁）
文集類。

- [30] 798 楊族家譜 Dương tộc gia phả A. 1657：重複（[39] A. 1000）

- [31] 798 楊族家譜 Dương tộc gia phả A. 1108：重複（[39] A. 1000）

Đ

- [32] 803 多牛阮堂家譜 Đa Ngưu Nguyễn đường gia phả A. 665：阮嘉謨が嗣徳 33 年（1880）に撰述。

表紙○・阮堂家譜（3-26 頁）

編者の阮嘉謨と家系との関係が不明瞭である。嗣徳 33 年（1880）に書いた。

- [33] 804 多仕黄宗家譜 Đa Sĩ Hoàng tông gia phả A. 792 : 嘉隆 14 年（1815）に、この宗族の甲正が署名。

表紙○・黄氏大家家譜：譜引（3-8 頁）・黄宗家譜実録（9-52 頁）・本支世次相伝実録（53-152 頁）・附録外諱忌（153-154 頁）・伯支祖考忌日列後（155 頁）・黄宗碑記（156-161）

「黄宗碑記」の最後（161 頁）に嘉隆 14 年（1815）に「黄正甲上下共記」とある。ただ十七代祖の名享の次男、名詔の妻は阮氏松である。氏松について「阮朝開国功臣鎮撫官之後裔也」と書かれている。この家譜が嘉隆 14 年に書かれたら、「阮朝」の表現はおかしく、開国して間もない時に「開国功臣」の「女子」でも「孫女」でもない「後裔」が妻になるのもおかしい。嘉隆 14 年はあくまで「黄宗碑記」が書かれた年であろう。

- [34] 805 多士黎族家譜 Đa Sĩ Lê tộc gia phả VHv. 236 : 玄溪海真黎玉珠が維新甲寅年（1914）に編集。芳溪阮桂が序文を作成。

表紙○・附録先祖家譜序（3-4 頁）・附録嘉軒公譜序（5-6 頁）・多士黎族家譜序（7-9 頁）・歴代先祖諡号（11-12 頁）・黎族一世始祖諡号……（本文）（12-79 頁）

表紙は「維新甲寅」（1914）とあるが、三つの序はそれぞれ乙酉年（1765?1825?）・乙卯（1795?1855?）・維新甲寅年に書かれた。次孫玄溪海珍黎玉珠が「附録先祖家譜序」を、壻孫清化芳溪阮桂と黎玉珠が「多士黎族家譜序」を書いた。

- [35] 806 台峰鄧氏家譜 Đài (Thai) Phong Đặng thị gia phả VHv. 2955 : 孫台皆が編集し、成泰 9 年（1898）に序文を作成。次男叔許が補充した。高春育が成泰戊戌年（1898）に序文を書いた。

表紙×・台峰鄧氏家譜序（1-9 頁）・合編世次昭穆便覽図（11-18 頁）・正編（19-37 頁）・具編哀輓聯文諸作（38-44 頁）・附編別派世次卷四（45-47）

編者の鄧台譜（1841~?）は、嗣徳 31 年（1878）に挙人となった人物であり、その息子、鄧台認（元謹）も同慶 3 年（1888）に挙人に合格している。「台峰鄧氏家譜序」は鄧台譜が成泰 9 年（1898）に、「具編哀輓聯文諸作」は鄧台認が書いた。

- [36] 824 大姥阮族譜 Đại Mỗ Nguyễn tộc phả A.757 : 阮貴協が編纂。

表紙×・大姥社阮族譜（1 頁）・上巻（2-6 頁）・正巻（7-50 頁）・第四支世譜（51-55 頁）・大族別先忌日本支分給作以下（56-57 頁）

「第四支世譜」は、阮貴協が「皇朝參拾柒年五月初八日」に書いた。「第四支世譜」は、国師公位大王である式欽（1693~1766、1714 年郷貢）の第四男懋（1748~1800）から始まる。懋には、三人の妻がいたが、息子は継室范氏珩の間で生んだ恵（1767~1832）だけである。恵が阮貴協であるかどうかは判然としないが、少なくとも懋の死後に書かれたとしたら皇朝は阮朝を意味することになる。そして、阮朝の年号で 37 年も続いた年号は皆無である。阮朝が始まって 37 年目という意味なら、1838 年となる。

- [37] 825 大姥阮族三大王譜記 Đại Mỗ Nguyễn tộc tam đại vương phả kí VHv.1337 : 1. 何宗勳と嚴伯珽が永祐 2 年（1736）に書いた「探花国老致仕太宰大王譜記」（阮貴徳）。2. 汝廷と黎伯喬が景興 7 年（1746）に書いた「右司講大王廟碑記」（阮貴恩）。3. 阮嘉璠が明命 8 年（1827）に書いた「第三世大王事蹟記」（阮貴能）。4. 「阮族別支譜記」。※VHv. 1337 には、裴輝簡と裴輝昭が嗣徳 19 年（1866）に編纂した『裴氏家譜』が添付。

表紙×・探花国老致仕太宰大王譜記（1-10 頁）・右司講大王廟碑記（11-20 頁）・第三世大王事蹟記（21-31 頁）・阮族別支譜記（33-35 頁）・（忌日）（37-38 頁）・裴氏家譜記（39-68 頁）・附記外家列先諱日（69-76 頁）・不明（77 頁）

「探花国老致仕太宰大王譜記」は、何宗勳（1697~1766、1724 年進士）・嚴伯珽（1683~1755、1733 年進士）が永祐 2 年（1736）、「右司講大王廟碑記」は、汝建瓚（1703~1774、1736 年進士）・黎有喬（1691~1760、1718 年進士）が景興 7 年（1746）、「第三世大王事蹟記」は、阮嘉璠（不明）が作成した。

- [38] 825 大姥阮族三大王譜記 Đại Mỗ Nguyễn tộc tam đại vương phả kí VHv.1338 : 重複（[37] VHv. 1337）

- [39] 849 大南京北鎮樂道社楊氏世譜 Đại Nam Kinh Bắc trấn Lạc Đạo xã Dương thị thế phả A.1000 : 楊溜（五代）が編集。楊瀛（九代）が再写。

表紙○・目錄（3-4 頁）・大南京北鎮樂道社楊氏世譜（5-10 頁）・楊家先祖譜記（11-12 頁）・楊門家譜実録（13-17 頁）・楊家譜記（19-23 頁）・楊家世譜原籍略記（25-27 頁）・風水図（29-31 頁）・楊氏始祖編録序（33-38 頁）・樂道楊家世家編録（39-44 頁）・附録本支事状世次（45-168 頁）・樂道楊族世譜図記（169-188 頁）・楊氏始祖丁未科壯元庭对策文（189-207 頁）・詩譜（209-303 頁）・楊氏列祖（保泰 5 年から光中 4 年まで 36 通）（305-366 頁）

「楊家譜記」には保泰 6 年（1725）の勅命が含まれている。「楊氏始祖編録序」は、五代孫の溜が景興 6 年（1745）に編集した。「樂道楊族世譜図記」は、九代孫の瀛が成泰 13 年（1901）に書き写した。

※内容と配列の異同はあるものの、[30]、[31]と同一。[30]は「十一代行行治」が書き写したものであり、202 頁に「啓定（1916）元年」に書き写したとある。

- [40] 870 大南国朝世系 Đại Nam quốc triều thế hệ A.38 : なし。

表紙×・大南国朝世系：「十九世祖右校尉阮公律」から「十一世祖昭勲靖王」まで（1-58 頁）・「太祖嘉裕皇帝諱漢」から「世祖高皇帝諱映」まで（59-180 頁）

太祖以降の記述は『大南寔録』前編の記述と一致する。最後のページ（180 頁）に「十一年正月辛卯建山陵于定門。……七月帝命阮文誠武貞等次定律例凡三百九十条。……」とある。これは同書の正編第一紀、卷四十四と四十五の記述である。

- [41] 896 大宗裴氏家譜 Đại tông Bùi thị gia phả A.958 : 宗子裴総が編集。Paris.Sa.HM.2176 : 景興 34（1773）に再写。

表紙○・修家譜引（3-7 頁）・修書凡例（9-13 頁）・大宗裴氏家譜（15-90 頁）・哀辞並序（90-95 頁）・題哀辞後（96-97 頁）・歴世外家（99-116 頁）・墳擇図説（117-145 頁）・歴世文章（147-210 頁）・歴世勅命（211-237 頁）

「修家譜引」は、裴壁（1744~1802、1769 年進士）が景興 44 年（1783）に書いた。「題哀辞後」は、范阮攸（1740~?、1779 年進士）によって景興癸卯（1783）に書かれた。編纂者の「宗子」裴総は、温良（1702~1736）と阮・慈宣（1711~1783）の間で生まれた。裴総の生没年は不明であるが、三十歳に「挙於郷乃一得」したという。

- [42] 919 譚氏家稽 Đàm thị gia kê VHv.1355¹⁴ : 譚公倣が永盛 14 年（1718）に序文を作成。譚慎徳が明命 13 年（1832）に続編を書き、序文を作成。

表紙○・譚氏家稽纂続編序（3-5 頁）・譚氏家稽序（7 頁）譚氏家稽録（3-92 頁）

「譚氏家稽纂続編序」は譚慎徳が明命 13 年（1832）に執筆した。「譚氏家稽」は譚公倣が永盛 14 年（1718）に書いた。「譚氏家稽録」は始祖無心から八代祖公倣（1652~?）までの記録がある。ただ、「譚氏家稽纂続編序」には十三代祖までの家系が簡略に書かれている。十三代祖の一人は嘉隆丁卯（1807）挙人の慎佑である。慎徳との関係は家譜ではわからない。

- [43] 920 譚族歴代家譜 Đàm tộc lịch đại gia phả A.2271 : 譚福選が嗣徳 2 年（1849）に序文を作成。

表紙○・譚家宗引図（2-6 頁）・譚家宗引便覧（7-8 頁）・歴代家先墳墓便覧（9-11 頁）・歴代家先忌辰便覧（13-21 頁）・附録歴代外祖乳祖墳墓忌辰便覧（22 頁）・附録歴代猛祖姑祖墳墓忌辰便覧（23 頁）・譚家歴代譜（25-46 頁）・退軒小誌（47-57 頁）

家譜の中の最後の人物は十二代の和純であり、その生没年は 1862~1921 年であるが、家系が判然としない箇所がある。

- [44] 920 羅浮福寨譚氏家譜 La Phù Phúc Trại Đàm thị gia phả A.1060 : 同上

¹⁴ 『漢喃遺産』には VHv.1353 とあるが誤りである。

表紙×・紀年（1-20 頁）・譚家宗引図（21-25 頁）・譚家宗引図便覧（27-28 頁）・譚氏歴代家先墳墓便覧（29-31 頁）・譚氏歴代家先忌辰便覧（33-40 頁）・附録歴代外祖乳祖墳墓忌辰便覧（41-42 頁）・附録歴代猛祖姑祖墳墓忌辰便覧（43 頁）・譚家歴代譜（45-68 頁）

[43]にある「退軒小誌」は収録されておらず、編纂者の名前も見当たらない。この写本には、譚福選の生没年は書かれておらずただ 66 歳まで生きたとだけ書いてある。その弟の謨と邁は、それぞれ 1758 年と 1766 年に生まれであり、福選の長男の訓と次男の語の生没年はそれぞれ 1772~1802 年と 1795~1861 年であるから、1750 年代に生まれて 1810 年代に死んだことになる。「紀年」の最後の年は啓定 2 年（1917）である。

- [45] 949 鄧家譜記 *Đặng gia phả ký* A.633/1-3 : 1. 『鄧家譜系纂正実録』：鄧進{日+東}が編集し、呉時任が序文を作成。附録「鄧陳家譜記」には鄧族の起源（陳氏）、各世代の家系、族人の行状・詩文がある。2. 『鄧家譜記続編』：鄧文派が校訂。鄧寧軒の「続編弁説」と鄧世科の「旧本世家譜系記」には、宗族の中で有名な人々の行状がある。

表紙×・Q1：鄧族世譜序（1-5 頁）・鄧家譜外記纂正実録（7-42 頁）・奉編忌日礼品（43-46 頁）・大安場社后神口海侯夫人胡氏碑記文（47-53 頁）・陳鄧家譜記（55-77 頁）・鄧家譜系纂正実録卷之二（79-169 頁）・卷之三（171-227 頁）・Q2：卷之四（1-80 頁）・卷之五（81-120 頁）・卷之六（121-225 頁）・Q3：鄧家譜記続編／鄧家譜記目次（2-4 頁）・鄧家譜記続編弁説（5-7 頁）・旧本世家譜系記（7-9 頁）・旧家譜終卷論（9-13 頁）・世家譜系編輯（13-18 頁）・厚沢公（19-52 頁）・左司空何郡公記（53-70 頁）・鄧世科（71-72 頁）・瀛郡公（73-95 頁）・燕郡公（97-127 頁）・応郡公（129-139 頁）・策郡公（141-154 頁）・常憲侯（155-196 頁）・洪徳官制表・鄭王世次表（197-203 頁）（=655 頁）

始祖高郡公の玄孫が厚沢公（1551~1590）である。厚沢公の孫、瀛郡公は鄧世材（1592~1666）であり、鄧世科（1593~1655）は世材の弟である。世材の息子は燕郡公であり、その第五男が鄧廷弼（1699~1749）である。鄧進{日+東}は廷弼とその第五側室范・妙演より 1712 年に生まれた（第八男）。「鄧族世譜序」は、呉時任（1746~1803、1775 年進士）が作成した。鄧文派は「鄧家譜記続編」を「奉抄」した。「続編弁説」は鄧寧により景興 24 年（1763）に書かれた。常憲侯の生没年は 1759~1812? 年であることから、「鄧家譜記続編」は最終的に阮朝になって書き写されたと思われる。「鄧家譜系纂正実録」は 18 世紀後半、「鄧家譜系纂正実録」は 19 世紀前半に書かれた可能性が高い。

- [46] 949 鄧家譜系纂正実録 *Đặng gia phả hệ soạn chính thực lục* VHv.2956 : 重複（[45] A.633/1-3）

- [47] 949 鄧家譜記続編 *Đặng gia phả ký tục biên* VHv.2957 : 重複（[45] A.633/1-3）

- [48] 953 鄧范族家譜 *Đặng phạm tộc gia phả* A.3043 : なし。

表紙○・忌日墳墓（3-5 頁）・鄧范族家譜（7-52 頁）

十代祖の惟貞の生没年は 1829?~1898? 年と推定される。その弟の惟清は嗣徳壬戌科（1862）の秀才であったという。

- [49] 955 鄧氏世譜序 *Đặng thị thế phả tựa* A.2287 : 原襄安知府鄧廷が撰述。兵部尚書鄧陳嘗が校閲。

表紙×・鄧氏世譜序（1-6 頁）・鄧氏世譜序（6-13 頁）

序文のみ¹⁵

- [50] 1022 丁家族譜 *Đinh gia tộc phả* A.1209 : 裴存庵が序文を作成。丁茹が「志」を作成。

表紙○・丁家合族纂編譜志（3-13 頁）・譜序（15-19 頁）・丁宗合族纂編世譜（21-83 頁）・丁家伯宗乙堂世譜（85-97 頁）・勅命類（99-141 頁）

「譜序」を裴存庵が嘉隆元年（1802）に書いた。茹（1828 年挙人）が補正した。伯宗甲堂の記述はない。「宗」は四代祖の拔翠（1516~1589、1554 年進士）に分かれる。伯宗は、六代祖の拔土の長男、拔賢と次男、類で分かれ、それぞれ甲堂と乙堂をなす。甲堂の記述は十代までである。「丁家伯宗乙堂世譜」は、拔

¹⁵ 二番目の序は [45] A.633/1-3 と一致。

翠を「一代祖」と置き、十代祖の茹までを扱う。つまり茹は十三代に当たる。「勅命類」には正治 14 年（1571）から明命 5 年（1824）までの勅命がある。

- [51] 1025 丁族家譜 *Đinh tộc gia phả* A.809 : 挙人丁伯琚が編纂し、嗣徳 4 年（1851）に序文を作成。進士阮有造が再録。

表紙×・譜序（1-4 頁）・丁族家譜（5-72 頁）・続編（72-101 頁）・外家諱記（102 頁）・奉祠堂対聯・告文（103-230 頁）

「譜序」は、庶孫の琚（1798~1861、1841 年挙人）が嗣徳 4 年（1851）に書いたと思われる。阮有造（1809~?）は 1841 年に挙人となり、紹治 4 年（1844）に進士となった。「続編」は嗣徳辛酉（1861）に書かれたが、「続編」で琚は「祖考」となっている。「続編」によれば、阮有造は琚の長女、氏和と婚姻している。そして「考」とされている伯倣は、60 歳まで生きたとされている。琚とは親子関係であると思われるが、家系は明確ではない。ここでは、阮有造の呼び方が「進士」となっている「続編」を基準に成書年代を決める。

- [52] 1026 丁族家譜 *Đinh tộc gia phả* VHv.1346 : 丁輝聚が成泰 11 年（1899）に筆写。1. 『邯江丁族祠堂世譜』：海陽省邯江村の丁族の家譜（十代）。2. 「邯江名将列伝」。※『邯江丁族生封大王行状実録』（A.2982）を参照せよ。

表紙○・邯江丁族祠堂世譜（3-13 頁）・邯江名将列伝（15-145 頁）

「邯江名将列伝」を、丁輝聚が成泰 11 年（1899）に書き写した。家譜の中に丁輝聚は見当たらず、祖先との関係もはっきりしない。

- [53] 1035 段功族祠堂譜記 *Đoàn công tộc từ đường phả kí* A.1628 : 成泰 18 年（1905）に書かれた序文を持つ家譜。巻末には、段文勸が成泰 9 年（1897）に撰述したもう一つの序文がある。

表紙×・引序（1-2 頁）・本文（3-14 頁）・段族祠堂文譜録序（15-19 頁）・祠堂対聯（20-22 頁）

「承祠長男從九品医生段文勸」は家譜の中では功勸となっている。

- [54] 1038 段氏実録 *Đoàn thị thực lục* Paris. SA. HM. 2112 : なし。
コピーなし。

- [55] 1040 段相公家譜 *Đoàn tướng công gia phả* A.1980 : 茂林 Tá Lang 黎甫（雲耕人）が景興 11 年（1750）に撰述。

表紙○・段相公家譜（2-9 頁）・后神后仏文記（10-38 頁）・各社村各節祭文列后¹⁶（39-53 頁）
行状類。

- [56] 1047 杜得譜記 *Đồ đắc phả kí* A.1823 : 成泰 8 年（1896）に撰述された。美甫陳新嘉が序文を作成。

表紙○・序（3-6 頁）・本文（7-56 頁）

ただ、家譜の中には啓定元年（1916）までの情報を収録していることに注意。

- [57] 1048 杜金氏家譜 *Đồ kim thị gia phả* A.635 杜春和が嗣徳 26 年（1873）に序文を作成。

表紙○・杜金氏家譜序（3-4 頁）・本文（5-22 頁）・先代参督海郡公后神碑記券例附録（23-31 頁）・杜金氏続譜（33-36 頁）・裏表紙（38 頁）

嗣孫杜春和が嗣徳 26 年（1873）に序文を書いた。「杜金氏続譜」では春和が「考」として登場する。ただ続譜では忌日や墳墓などは存在せず、号や字だけがある。

- [58] 1050 杜氏世譜 *Đồ thị thế phả* A.1318 : 重複（[59] A.712）

¹⁶ 景興 20 年（1759）季秋に建立。

- [59] 1050 杜氏世譜 *Đồ thị thế phả* A.712 : 杜如志が明命 11 年 (1830) に撰述。阮迪が明命 12 年 (1831) に序文を付けた。澹齋陳玉璞が校正。秀才に合格した杜維謙のいくつかの文章と杜維遵より集められた宗族の規定。

表紙○・杜氏世譜序 (3-6 頁)・小引 (7-8 頁)・杜氏世譜目 (9-10 頁)・上巻 : 書例 (11-15 頁)・祠堂礼節 (17-34 頁)・逐月忌辰条例 (35-50 頁)・杜家世次図 (51-54 頁)・内祖世次 (55-57 頁)・外氏譜系 (59-62 頁)・中巻 : 内祖列代事録 (63-81 頁)・外祖列代事録 (82-93 頁)・広記内族各別派 (94-118 頁)・下巻 : 内祖墳墓誌 (119-144 頁)・外祖墳墓誌 (145-147 頁)・祠堂事録 (149-155 頁)・成泰十六年七月初一日嗣孫杜惟詢奉編伯考公 [公字惟謙中秀才] … 新增族内条例 (157-170 頁)・本族新增例 (171-175 頁)

内弟杜如志 (1794~?) が、明命 11 年 (1830)、次壻阮迪が明命 12 年 (1831) に執筆した。陳玉璞の生没年は 1752~1824 年であり、「外祖列代事録」に自序が添付されている。惟謙は如志の長男である。この条例は「成泰十六年 (1904)」に付けたものであるが、本文は明命 11~12 年で書かれたと理解しても差し支えないと思われる。

- [60] 1052 杜族家譜 *Đồ tộc gia phả* VHv.1843 : なし。

表紙×・家譜 (1-28 頁)・勅類 (29-50 頁)

「勅類」は、明命 21 年 (1840) から嗣徳 22 年 (1869) までの勅 (制・諭を含む) が 16 通ある。家譜の中で、「我頭考」とされる杜宗光 (1806~1863、1832 年進士) は、「賢母」とされる楊氏との間で、二人の息子 (演・貞) と二人の息子 (氏珠・氏璋) をもうけた。家譜の編纂者は、演と貞であると思われる。また、宗光の母親である、阮・慈淳の生没年が 1786~1868 であることから、1868 年以降に書かれたと推測される。

- [61] 1053 杜族家譜 *Đồ tộc gia phả* A.1913 : 成泰 7 年 (1895) に撰述された。族長杜文姜が序文を作成。

表紙○・成泰七年五月初四日為編本族行忌臘在族数干列后 (3-4 頁)・杜族家譜 (5-16 頁)・全年各節告于先祖外神詞 (17-30 頁)

- [62] 1054 杜族譜記 (無題) *Đồ tộc phả kí* (Vũ đế) A.2325 : 長孫杜維圓が景興 13 年 (1752) に序文を作成。

表紙×・序 (1-2 頁)・本文 (3-29 頁)・自第十代以下俟後続編 (30-31 頁)

- [63] 1055 杜族譜記 *Đồ tộc phả kí* A.1744 : 長族杜文睦が撰述。

表紙○・序 (3-4 頁)・本文 (附録福沢公憑給文書 (同慶 2 年・建福元年)) (5-15 頁)・附録 (17 頁)・附録長殤中殤下殤以下 (18-19 頁)・附録譜度文以下 (20-27 頁)

「附録長殤中殤下殤以下」は長族杜文睦が成泰 8 年 (1896) に作成した。表紙には「承重孫杜文睦」とある。福沢公は祖の純謹の弟である。この家譜を杜文睦が書いたとしたら、同慶 2 年 (1887) と建福元年 (1884) に憑給文書を受け取った福沢公はすでに死亡した時点となる。ここでは 1896 年にする。

- [64] 1056 杜族譜記 *Đồ tộc phả kí* A.1655 : 嘉隆 10 年 (1811) に撰述された。阮廷尋が明命 13 年 (1832) に再書。

表紙○・序 (2-4 頁)・本文 (5-15 頁)・続譜序 (16-18 頁)・続譜本文 (19-27 頁)

表紙には「嘉隆十年潤二月七月製家譜」と言うが、編纂者については書いていない。「本文」には「明命十三年 (1832)」とあり、「阮廷尋遵照前叔父之所立家譜、今已失落、仍承再撰写」とある。

- [65] 1058 杜文家譜 *Đồ văn gia phả* A.1912 : 杜文虔が明命 4 年 (1823) に撰述。

表紙○・序 (2-3 頁)・本文 (4-18 頁)

- [66] 1114 東塗杜吳家譜記 *Đông Đồ xã Ngô gia phả kí* A.1487 : 吳中和が成泰甲午 (1894) に編纂。
コピーなし。

- [67] 1115 東塗范族譜系 *Đông Đồ Phạm tộc phả hệ* A.1488 : 范伯璟が永盛 14 年 (1718) に序文を作成。
范奉が明命 10 年 (1829) に序文を作成。

コピーなし。

- [68] 1117 東黄家譜 Đông Hoàng gia phả A.954 : 居士黄壁山が明命 19 年 (1838) に編集し、序文を作成。
表紙×・黄氏略譜 (1-9 頁)・黄氏諸先合譜 (9-70 頁)・列編世次之図 (70-73 頁)・福裕翁東曦翁合譜 (74-173 頁)・附省墓条 (174-235 頁)・明命二十年己亥正月……誌跋 (236-244 頁)・続編原帳文 (245-324 頁)
始祖から黄壁山の父、東曦までは八代である。東曦 (1749~1801、1787 年進士) は『大越歴朝登科録』には黄阮署とある。
- [69] 1126 東鄂阮氏家譜 Đông Ngạc Nguyễn thị gia phả A.1818 : 郷貢明真公阮元が撰述。阮春潜が重訂。明命 11 年 (1830) の序文がある。
表紙○・序 (3-8 頁)・家譜記 (9-39 頁)・外親忌日 (39-40 頁)
「序」は、明命 11 年 (1830) に「顕考郷貢明真公阮元」が撰し、「豚兒阮春潜」が重訂した。明真公は春海 (1778~1831) であり、春潜の生没年は 1806~1865 年である。春潜は「一世祖」と記されており、その後妻の阮氏竹が同慶丁亥年 (1887) に死んだとする記録があるため、春潜の息子世代により写されたと思われる。
- [70] 1127 東鄂阮族譜系 Đông Ngạc Nguyễn tộc phả hệ A.672 : 阮廷財が抄録。
表紙○・阮族譜系凡例 (3-4 頁)・歴叙家先世次 (5-100 頁)
「歴叙家先世次」に「族長阮廷財奉祀〔奉抄〕」とある。廷財は、甲支十四代祖であり、丙辰年 (1796) に生まれた。その弟の廷依の生没年が 1799~1855 年であり、家譜に現れる最後の年は、廷財の孫、廷聚の生年である 1866 年である。廷財の没年はないから、彼が族長を務めていた時であると思われる。
- [71] 1128 東鄂阮族世譜 Đông Ngạc Nguyễn tộc thế phả A.1434 : 建福元年 (1884) に付けられた序文がある。
表紙○・阮族世譜寔録 (3-13 頁)・甲支 (15-33 頁)・乙支 (35-43 頁)・丙支 (45-65 頁)・嘱書 (67-358 頁)
「建福元年」は [72] にあるだけで、この写本にはない。ただ、家譜収録の族人の中には 20 世紀の生没年の情報も収録している。
- [72] 1128 東鄂阮族世譜 Đông Ngạc Nguyễn tộc thế phả A.652 : 同上
表紙×・東鄂阮族世譜増訂本族世譜寔録序 (1-3 頁)・阮族世譜寔録 (4-13 頁)・甲支 (13-32 頁)・乙支 (32-42 頁)・丙支 (43-83 頁)・附録我祖妣瑞香黎族世次など (83-91)
「甲乙丙三支備記」とある。建福元年 (1884) 承抄した。
- [73] 1149 東作阮氏世譜 Đông Tác Nguyễn thị thế phả A.671 : 雲孫が記録。
表紙○・寿昌東作阮氏世譜 (3-33 頁)・(各種文書 : 明命 13 年から成泰 3 年まで) (34-54 頁)
「雲孫拝書」とある。成泰 3 年 (1891) 以降に写されたのか。
- [74] 1167 徳沢阮氏家譜 Đức Trạch Nguyễn thị gia phả A.797 : なし
表紙○・譜序 (3-4 頁)・徳沢阮氏家譜 (5-49 頁)・本支家譜寔録 (49-54 頁)・本支相伝世次 (54-63 頁)・奉事先祖 (63-64 頁)
阮倣 (1674~1735) は、正和 21 年 (1700) に進士となった。彼の長兄、公偉のひ孫までの記録がある。少なくとも阮朝の写本ではないか。
- [75] 1168 唐安丹鑾范家世譜 Đường An Đan Loan Phạm gia thế phả VHv.1353 : 范廷琥が明命元年 (1820) に編集し、引を作成。正編は范廷琥が撰述。「范族世家譜系記」は范廷甲 (号は亦軒) が編集。「太僕寺卿亦軒先生年報」は潘仲藩が撰述。「太僕寺卿亦軒先生行状」は潘輝庸が撰述。
表紙○・宗図 (3-6 頁)・引 (7-11 頁)・正編 (11-95 頁)・范族世家譜系記 (97-120 頁)・太僕寺卿亦軒先生年報 (121-124 頁)・太僕寺卿亦軒先生行状 (125-141 頁)・行財面对 (141-164 頁)

「引」は、明命元年（1820）に「坦明公十一世孫范廷琥」が執筆した。「范族世家譜系記」は「太僕寺卿亦軒文雅公」が書いた。家譜によれば、亦軒（1712~1779）は范廷珪であり、彼の代三男が范廷琥（1768~1839）である。

※〔76〕は「宗図から行状」までは同一であるが、唐安丹鑾范家世譜（5-5）・逐日忌辰（7-10 頁）・奉先告辞（10-32 頁）などが追加されている。そして文字ももっとわかりやすい字体となっている。

[76] 1168 唐安丹鑾范家世譜 *Đường An Đan Loan Phạm gia thế phả* A.909 : 重複（〔75〕VHv. 1353）

G

[77] 1194 家譜戸梁 *Gia phả hộ Lương* VNv.249 : 梁文玕が辛酉年（1921）に南蛮（プノンペン）で編集。1962 年に黎思植が書き写し、呂春梅が検閲。

字喃（〔78〕VNv. 250 参考）¹⁷。

[78] 2094 家譜戸梁（梁家族譜） *Gia phả hộ Lương* (*Lương gia tộc phả*) VNv.250 : 梁文玕が辛酉年（1921）に南蛮（プノンペン）で編集。1962 年ハノイ行猷47 番で陳文逢が筆写。

表紙○・義々家譜国語（3-6 頁）・梁家世譜（7-8 頁）・本文（9-31 頁）・序（32-34 頁）・本文（35-37 頁）・保大丁卯〔門生〕黃甲拳人蔭生秀才〔泣拜〕（39-42 頁）・温如公歴史自述（43-55 頁）・外祖忌日（57-60 頁）・潘孺人行状（温女公述）（60-64 頁）・囑言（65-66 頁）・家系図（68 頁）・家譜戸梁略編（温女公述）（69-79 頁）・〔口+吞〕嘸各節（81-82 頁）・忌日祭文（83-92 頁）・裏表紙（93-94 頁）

梁文玕（1853~1927）は、嗣徳 27 年（1874）に挙人となった。「温如公歴史自述」は字喃で書かれたものである。温如は文玕の号である。

※〔77〕は最初から字喃で書かれたものであるが、この写本は漢文をベースにしている点で異なる（〔77〕と〔78〕に対する詳細な分析は〔岡田 1999〕を参照されたい）。

[79] 1195 家譜集編（1）仙田阮家世譜 *Gia phả tập biên (1) Tiên Điền Nguyễn gia thế phả* A.3075 : 忠勤公（阮儼）が編纂。伊覚甫が続編を書いた。

コピーなし。

[80] 1195 家譜集編（2）越安潘家世譜 *Gia phả tập biên (2) Việt Yên Phan gia thế phả* A.3075 : 副榜潘文雅が編集。

コピーなし。

[81] 1195 家譜集編（3）威遠阮家世譜 *Gia phả tập biên (3) Uy Viễn Nguyễn thế phả* A.3075 : なし。

コピーなし。

[82] 1232 教育社杜族譜 *Giáo Dục xã Đỗ tộc phả* VHv.2681 : なし

表紙○・本文（3-6 頁）

「杜族杜金榜全族承抄」とある。「顯祖」の仲謹は正室より三男、継室より二男を生んだ。四男（継室）が杜先興であり、「顯考」とされる。杜先興は六人の息子をもうけ、その三男が杜金榜である。「成泰 10 年（1898）」に書かれたと思われる。

H

[83] 1263 何家世譜 *Hà gia thế phả* VHb.58 : 何文亨が建福元年（1884）に書いた遺言状（何文璘が校正、潘克和が検閲）がある。

表紙×・序（1-2 頁）・世跡引（2-4 頁）・何家家譜（5-14 頁）・囑詞（15-22 頁）・囑詞（23-30 頁）

¹⁷ 「字喃とそれに対応するクオック・グー文で、一部漢文がある。」〔岡田 1999: 306〕。

二つの「嘱詞」はすべて建福元年（1884）に書かれた。この嘱詞の作成者は何文亨であり、彼の名前は『何家世譜』にはない。十一代祖の希安は 1774 年生まれ、家譜の記述上、母の墓を改葬した乙米年（1835）まで生きていた。彼を「顕祖考」と呼んでいる。何文亨は希安の孫か。

[84] 1268 河門家譜 Hà môn gia phả Paris. SA. HM. 2233 : 維新 9 年（1915）に筆写。
コピーなし。

[85] 1284 何氏家譜 Hà thị gia phả A.2604 : なし。

表紙×・家譜卷之一（1-12 頁）・卷之二（21-44 頁）・卷之四（45-66 頁）・院郡相公詩文（67-114 頁）・卷之五（115-144 頁）・卷之六（145-163 頁）・大王遺文卷之三（165-322？頁）

阮傲（1674~1735、1700 年進士）の家系。[104]『香溪阮氏丙別支家譜』と[105]『香溪阮氏家譜』を参考されたい。

[86] 1301 海貝武公族譜 Hải Bối Vũ công tộc phả A.800/1-2 : 探花郎郡公武公宰が永盛 16 年（1720）に編纂し、序文を作成。郷貢武公睦が校正。郷貢武公熟が筆写。乙支十代孫庠生阮有光が嗣徳 28 年（1875）に再書。

表紙○・海貝武公族譜序（3-7 頁）・凡例（9-11 頁）・目錄卷之上（12-13 頁）・之下（14-15 頁）・海貝武公族譜卷上（Q1）：甲支・乙支・丙支（17-100 頁）・卷下（Q2）：列諱尊字・列諱尊日・条約（20 条）・祀田・祀器・儀節・辰節祭文・本社專祀探花公祭文・本県專祀探花公祭文・祠堂落成告文・祠堂對聯・祠堂碑記・探花公履歷記・探花公題名碑記・探花公靈蹟記・探花公詩集・義齋陳進士詩集・本県賀探花公帳文（3-226 頁）

表紙に「皇朝嗣徳二十八年（1875）」・「乙支十四孫〔庠生〕有珖奉録」とある。「海貝武公族譜序」は永盛 16 年（1720）に六世孫公宰が書いた。「海貝武公族譜卷上」は、「内孫探花及弟郎郡公〔公宰〕著、〔仲弟〕郷貢戸部句稽〔玉+全〕忠子〔公睦〕校正、〔季弟〕郷貢〔公熟〕書」とある。武公宰（1684~1735、1718 年進士）、武公睦（1687~1741）、武公熟（1690~1738）兄弟が編纂したことが分かる。有珖は、公睦の玄孫である。

[87] 1303 海陽唐安獲沢阮族家譜記 Hải Dương Đường An Hoạch Trạch Nguyễn tộc gia phả kí VHV.1350 : 阮汝俊が嗣徳 7 年（1854）に編集し、序文を作成。

表紙×・序（1-2 頁）・阮族家譜略編（3-7 頁）・附録内堂配列譜靈（9-15 頁）・附録外堂武氏配偶譜靈（17 頁）・附録母家汝氏配偶譜靈（18-19 頁）・（不明）（21-26 頁）・某年月日礼前主神列于次（27-28 頁）

「孝玄孫汝俊奉校旧譜」とある。汝俊の父親、天眷（1769~1808）は、汝・慈清（1776~1828）と婚姻している。汝俊の「汝」は母親の姓であるか。「附録内堂配列譜靈」には、伯祖・叔祖、親姑だけではなく、親妹・親姪が収録されている。

[88] 1389 華棣社進士封寿喬侯阮相公家譜 Hoa Cầu xã tiến sĩ phong Thọ Kiều hầu Nguyễn công gia phả A.667 : 秀才阮必直（号は敬庵）が成泰 3 年（1891）に編集。進士阮嘉吉が序文を作成。

表紙○・世次順逆看例（3 頁）・譜内称呼官職（4 頁）・序（5-11 頁）・原序（春棣阮族家譜序）（11-14 頁）・祭文（14-13 頁）・本文（壹律：嘉隆竜輯己巳……迪軒記）（32-100 頁）

「原序」はもともと「阮嘉吉迪軒（1760~?、1787 年進士）」が書いたものを、そのひ孫にあたる「丙子科（1876）秀才阮嘉煒簿名必直」が「奉依」したものである。

[89] 1413 和平黎族世次譜記 Hòa Bình Lê tộc thế thứ phá kí A.1162 : 举人阮連が編集し、嗣徳 14 年（1861）に序文を作成。陳輝積が校訂。

表紙○・叙言（3-8 頁）・小引（9-10 頁）・世系（11-90 頁）・進士公勅文（91-100 頁）・奉頒祭文（101 頁）・進士公致仕叙和賀詩集（103-130 頁）・本族列先公保后文詞（131-134 頁）・（后神碑文類：景興 12・嘉隆 18 年・嗣徳 34 年）（135-167 頁）・奉編先祖列忌日（169-179 頁）・奉編族内祀事各節祭文（181-185 頁）・本族礼例（187-196 頁）

「叙言」は、嗣徳 14 年（1861）に「表遠孫如亭阮氏且卿漣」が「敬叙」したとある。進士公は、黎偉（嘉晏、1677~?、1710 年進士）である。「進士公致仕叙和賀詩集」は、景興 38 年（1777）に書かれたものである。阮連の名前は『国朝郷科録』に見当たらない。嗣徳 34 年（1881）に書かれた「訓導公后神碑記」を探る必要がある。

- [90] 1424 獲沢汝族譜 Hoạch Trạch Nhữ tộc phả A.677：播沢侯汝尚真が編集し、景興 6 年（1745）に序文を作成。汝玉琿が成泰丙午（1906）に再書。

表紙○・思考世録序（3-4 頁）・汝族世系（5-40 頁）・欽賜丙辰進士……（41-42 頁）・詞曰（43-47 頁）・祭文（47-56 頁）・七伝汝登科（56-58 頁）・本文（58-63 頁）

表紙に「成泰丙午（1906）仲春重抄」とある。「思考世録序」は、汝尚真（1703~1774、1736 年進士）が景興 6 年（1745）に書いた。後に汝玉琿が「依本奉抄」した。家譜の中に汝玉琿の名前はないが、汝尚真のひ孫世代まで書かれている。汝尚真の第五男璠の生没年は 1747~1813 年であり、その次男、桐の生没年は 1778~1835 年である。桐とその妻、武・妙淑の間で有軒が生まれた。武・妙淑について「附録外祖」を付けていることから、有軒の息子が玉琿ではないかと推測される。

- [91] 1430 驩州宜仙阮家世譜 Hoan Châu Nghi Tiên Nguyễn gia thế phả VHv.1852：忠勤公阮儼が編集。秀才阮伊（号は希覚）と秀才阮叔が統編を書いた。阮登と阮梅が嗣徳 6 年（1853）と保大 15 年（1940）に序文を作成。潘克寛が 1960 年に再書。

表紙○・本文（3-131）・春仙阮族世譜序（133-135 頁）・本族本支（136-149 頁）

表紙に「裔孫忠勤公阮儼編輯・耳孫秀才伊希覚甫統編・次耳孫倬統抄・次耳孫進士友由紀梅統抄編」とある。「春仙阮族世譜序」は、嗣徳 9 年（1856）に庶孫僊が書き、保第 15 年（1940）に裔孫梅が「奉統編」した。阮伊は阮儼の孫である。阮儼（1708~1775、1731 年進士）の弟は阮仲（雅軒公）であり、その第十男が僊である。僊の長男が僊であり、その孫が阮梅である。阮梅（1876~?）は 1900 年に進士となった人物である。

- [92] 1459 黄氏家譜 Hoàng thị gia phả A.639：なし。

表紙○・本文（3-4 頁）・附録兄弟（5-8 頁）

黄良一（三世祖）黄翰一（四世祖）黄午（1642~?）。午は長兄「曰助」と共に景治癸卯科（1663）で郷貢となった。「附録兄弟」には、黄曰奎（1629~?、1654 年郷貢）と黄伯僚（1717~?）の記録があるが、両者、そして編纂者との関係は不明である。

- [93] 1460 黄氏家譜 Hoàng thị gia phả A.2430：嗣徳 4 年（1851）に撰述された。黄春欣が書き写した。

表紙○・序（3-9 頁）・本文（9-22 頁）・備考（23-27 頁）・尊考（29-33 頁）

「次枝黄春忻承抄」・「嗣徳四年（1851）」とある。

- [94] 1462 黄族家譜 Hoàng tộc gia phả A.3102：なし。

コピーなし。

- [95] 1463 黄陳廟弘道経編 Hoàng Trần miếu hoàng đạo kinh biên A.2610：南定省南黙廟で成泰 17 年（1905）に印刷。

表紙○・皇朝聖諭訓迪十条¹⁸（3-18 頁）・弘道経編卷首：陳朝元朝先皇帝諭等（19-64 頁）・卷二：陳朝文武大臣烈位降著（65-114 頁）・卷三：陳朝玉譜¹⁹（115-198 頁）
神譜類。

- [96] 1463 黄陳廟弘道経編 Hoàng Trần miếu hoàng đạo kinh biên VHv.1064/1-3：同上。

¹⁸ 阮朝明命帝の勅諭。

¹⁹ 卷末に、成泰 17 年（1905）に「学生陳仲杭檢討。益生陳文燾奉檢。渾生陳輝琨奉書」とある。

表紙○・巻一：序（3-11 頁）・十条目録・敦人倫一等十条²⁰・皇朝聖諭訓迪十条（13-106 頁）・巻二（1-94 頁）、巻三（1-130 頁）
神譜類。

[97] 1466 皇朝宝牒 Hoàng triều bảo diệp A.1326 : なし。

表紙○・皇朝宝牒（3-10 頁）・近世人物²¹（10-15 頁）・無題詩四首（15-17 頁）

[98] 1466 皇朝宝牒 Hoàng triều bảo diệp A.563 : なし：重複（[97] A.1326）

[99] 1496 皇越玉譜記集 Hoàng Việt ngọc phá kí tập Paris SA.HM2145 : 子孫が嘉隆 15 年（1816）に編纂。
「御制玉譜記」²²は景興 41 年（1780）に撰述。

コピーなし。

[100] 1517 槐軒家譜 Hòe Hiên gia phả VHb.267 : なし。

表紙×・本文（1-18 頁）・不明（19-22 頁）・祭文（23-24 頁）・一族内先祖諱号忌日（25-28 頁）・祝文（29-30 頁）・忌日（32-33 頁）・各支諱号（2-5 代）（33-36 頁）・（行状）（39-40 頁）・祝文（41-52 頁）

本文の作成者は敦質である（本文中主語は「我」）。庚午年に生まれ丁末年に死んだとされる。阮朝における丁末は 1847 年と 1907 年が想定される。「辰」のような避諱を使用している点と、敦質以後の 3-4 代の記録がある点から、その生没年は 1810~1847 年であると思われる。敦質の父親、平正は己丑年（1829）に死んでおり、敦質が父の死を記録していることから、この家譜が 1829 年から 1847 年の間に書かれたことが分かる。敦質には息子林檲がいた。敦質の死後、その子孫が内容を追記していったと思われる。

[101] 1522 胡家合族譜記 Hòe gia hợp tộc phá kí A.3076 : 胡丕絵が嗣徳 5 年（1852）に編集し、序文を作成。

表紙×・（序）（3-4 頁）・長支世系-五支世系（5-55 頁）・三公支譜記（56-66 頁）・驩州胡家本支世譜（68-104 頁）

序文は「十二世孫秀才胡丕繪」が嗣徳 5 年（1852）に書いた。「三公支譜記」は「啓定 2 年（1917）」に胡士浹が書いた。「驩州胡家本支世譜」は、「十四世孫挙人弦」が書いた。壬辰科進士である胡士棟（1739~1785、1772 年進士）が景興 44 年（1783）に書いた「跋」が含まれている。弦は『国朝郷科録』の胡丕統（1876~?）であり、成泰 12 年（1900）に挙人となった。したがって、「驩州胡家本支世譜」は 1900 年以降に書かれたことが分かる。丕統は胡丕緒（1870 年挙人）の息子である。

※「長支世系-五支世系」の中に、二支世系がない。

[102] 1523 胡家世譜 Hòe gia thế phả VHv.1387 : 胡三検が同慶 3 年（1888）に序文を作成。秀才胡善幾が保大 14 年（1939）に再書。

表紙○・序・胡家源流・胡第五支族譜摘編・本家四親諱号（1-24 頁）

胡三検は 1879 年に挙人となった人物である。胡善幾は三検の三男であり、その長兄の士琳は 1912 年に挙人となった。

※[101] 『胡家合族譜記』では、柯（始祖）—烘（二代）—欣（三代）に続く。欣には長男約礼と次男安がいた。『胡家合族譜記』は約礼の家系を引いた子孫の家譜である。一方、『胡家世譜』では、欣がなく烘（二代）の長男が約礼、次男が福善である。『胡家世譜』は福善の家系を引いて子孫の家譜である。

[103] 1588 香溪累代家譜 Hương Khê lũy đại gia phả A.2598 : なし。

コピーなし。

²⁰ 「成泰十七年三月日奉擬欽統」、「南墨譜譜生等謹奉」。とある。

²¹ 阮居貞、胡宗延、吳世隣、范監瓊、鄭天賜、陳瑞、范監瓊。

²² [211] と同様のものと思われる。

- [104] 1589 香溪阮氏丙別支家譜 *Hương Khê Nguyễn tộc bính chi gia phả* A.810 : 玄孫俔が成泰 13 年 (1902) に序文を作成。
- 表紙×・譜序 (1-2 頁)・本文 (3-54 頁)・附録同清公戊戌科解元文 (54-67 頁)・詠珠峯 (68-120 頁)・同清侯遺文 (121-183 頁)・附録神溪公詩文 (184-210 頁)・附録南策公私淑遺文 (211-261 頁)・附録外家荅塘阮族乙支世次 (262-268 頁)・附録外家肇慶公女支 (268-269 頁)・忌日告文 (270 頁)・風水図 (271-272 頁)
- 阮倣 (1674~1735、1700 年進士) — (第三男) 倣 (=我丙支之始祖) — (次男) 倣 — (第三男) 洩 — 次男 (倣)。洩の長兄である倣は 1828 年に挙人となっている。ただ、家譜の中で倣は「第五代祀」・「考」とされている。
- [105] 1590 香溪阮氏家譜 *Hương Khê Nguyễn thị gia phả* A.754 : 神考が作成した景興 33 年 (1772) の序文がある。
- 表紙×・香溪阮氏家譜目次 (1-4 頁)・表紙 (香溪阮氏家譜) (5 頁)・「輿動御向道先行或会試場……」 (7-9 頁)・阮氏大家世徳之譜目録 (9-10 頁)・巻之一 : 神考旧譜序 (11-13 頁)・仙考新譜序 (13-19 頁)・陰地 (19-22 頁)・阮大家祖宗累世履歷行状 (二-六世祖) (22-61 頁)・附徳沢養祖家先 (62-67 頁)・附香溪養祖家先 (67 頁)・七世祖行状 (68-146 頁)・八世祖行状 (147-464 頁)
- 始祖何寿———— (六世) 潘佐忠 — (大四男) 阮倣 (1674~1735、1700 年進士) 一次男倣 (=仙考国師)。倣 (1713~1792、1743 年進士) の第四女の氏程の生没年が 1779~1821 年である。「神考旧譜序」と「仙考新譜序」はそれぞれ景興 33 年 (1772) と明命 6 年 (1825) に書かれた。前者は倣、後者は倣の息子が書いた可能性がある。
- [106] 1591 香墨社呉族譜 *Hương Mặc xã Ngô tộc gia phả* A.675 : 耳孫阮仲問 (字は道軒) が編集し、丙午年に序文を作成。
- 表紙○・香墨社呉族譜伝序 (3-4 頁)・阮族家譜 (5-26 頁)・外家世譜 (26-27 頁)
- 阮仲{人+問}は「儒生中式」と名乗っている。ただ顕伯祖の肆恩と顕祖考の進恩はそれぞれ壬子科・甲子科举人であると称しているが、『国朝郷科録』には三人とも見当たらない。「阮族家譜」の最後に「呉篤慶奉編紹治丙午」とあるため、丙午年は 1846 年である可能性がある。
- K
- [107] 1670 溪桑黄族譜 *Khê Tang Hoàng tộc phả* A.756 : 黄仁が編纂。紹治 3 年 (1843) に記録。
- 表紙○・序 (3-6 頁)・本文 (7-30 頁)・附録外家諸靈位 (30-32 頁)・行礼儀節 (33-37 頁)・「刑部叅事黄相公 [字福謙] 詩草」等 (37-52 頁)
- (高祖) 福成一 (曾祖) 重一 (祖) 郎一 (顕考) 圓の記述の最後に「嗣徳二十七年 (1874) 二月日長孫黄侶奉編私譜為記」とある。圓の長男であり、侶の父親である仁は丁未と戊申年に秀才であった。侶の記述の最後に「咸宜元年 (1885) 九月十五日、次支次孫黄倩奉編、次支世次私譜為記」とある。圓の弟である保 (福謙) は、1807 年挙人であり、生没年は 1764~1833 である。家譜は彼を「顕祖」と称し、その次男の検 (1824~1886) を「顕考」と称している。しかし検の長男と次男はそれぞれ倣と倩である。倣の生没年は 1845~1883 年であるから、その弟の倩が 1885 年に書いた可能性がある。「族長黄仁恭録世次」とあるが、仁は家譜の中に現れない。
- [108] 1683 曲江郷譜記 *Khúc Giang hương phả kí* A.842 : 成泰 5 年 (1893) に撰述。秀才江文詩が編集。
- 表紙×・本社城隍馮聖王廟在漢山陽 (1-14 頁)・廟世畧誌 (15-16 頁)・廟制畧誌 (17-18 頁)・附録神廟對聯 (18-21 頁)・附録落成文 (21-25 頁)・先農壇・香盞寺・朝元壇・王妃庵・飛來竹・本社神後・題寺云 (26-33 頁)・銳江城記 (35-37 頁)・題銳江橋詩など (38-44 頁)・曲江十二宗譜序 (45-46 頁)・十四族引 (47 頁)・黄坐師伝 (48-62 頁)・趙氏族譜 (63-88 頁)・附録制度趙文逢詩並国音文 (89-102 頁)・趙氏乙支譜 (103-180 頁)・趙丙支譜 (181-188 頁)・趙丁支譜 (188-194 頁)・杜氏族譜 (195-202 頁)・阮氏族譜 (203-217 頁)・附録竹松傳道伝 (218-235 頁)・阮氏族譜 (236-241 頁)・阮支乙支 (241-251 頁)・裴氏族譜 (251-264 頁)・江氏族譜 (265-287 頁)・甲派次支世系 (288-299 頁)・江氏乙支世

譜（300-332 頁）・乙支次支世系畧（333-340 頁）・丙支世譜（341-353 頁）・丙支次支世系畧（354-356 頁）・江氏丁支世譜（357-388 頁）

「本社城隍馮聖王廟在漢山陽」は「成泰 5 年（1893）に「秀才江文詩」が「奉録」した。「廟制畧誌」は「成泰 15 年癸卯（1903）」に書かれた。「曲江十二宗譜序」は「秀才江元²³詩」が「奉草」した。この序文によれば、曲江社に名儒十二宗門があって、それぞれ家譜を持っていた。そこで「余遂忘其拙陋、爰集諸族家譜、摘其事狀之有乖於監戒、言行之有補於將來、編成一譜、顏曰曲江鄉譜」とある。

- [109] 1723 金鑑統編（鄭氏世譜） Kim giám tục biên (Trịnh thị thế phả) VHV.373 : 鄭胥が撰述。阮有璨が 1959 年に再写。

表紙×・（本文）（1-61 頁）・附陵寢廟墓図（63-70 頁）

61 頁に嘉隆 2 年（1803）正月に「欽攷繼守鄭祀長族鄭楫收拾各支譜記…」とある。鄭楫（1775~1819）は、晏都王鄭槌（1749~1791）の四男である。

- [110] 1739 金閨社杜甲支家譜 Kim Quan xã Đỗ giáp chi gia phả A.3127 : 杜文恰が編集し、保大 17 年（1942）に序文を作成。

表紙○・序（3-4 頁）・附原譜（4-5 頁）・本文（5-24 頁）

「附原譜」は、戊辰恩科（1862）秀才沿が「撰写」した。沿の息子が文恰である。しかし家譜の中では文恰が「顕考」としており、文恰の生没年は 1882~1941 年である。

- [111] 1740 金山家譜 Kim Sơn gia phả A.943 : 阮茂材が編集し、正和庚子（1691）に序文を作成。阮署が記録。

表紙○・金山家譜歴代家先序（3-4 頁）・金山家譜（5-7 頁）・歴代高曾祖考諱名忌日（8-57 頁）・附録：詩文（57-138）

最後のページに「庚子年（1691）十月吉日家譜成。保泰壬寅年（1722）五月初八……孫署拜写」とある。家譜の中に茂材（1616~1688）の孫である茂盛（1668~1722）は、1691 年進士に合格した人物であり、その長男が署である。

- [112] 1761 京北如琮張氏貴戚世譜 Kinh Bắc Như Quỳnh Trương thị quý thích thế phả A.959 : 黎貴傑が編集し、景興 40 年（1779）に跋を作成。

表紙○・欽奉…（2-3 頁）・廟祠奉事（3-4 頁）・祠宇奉事（4-5 頁）・奉抄（勅類：保泰・景興 2 年・44 年）（6-15 頁）・跋（16-18 頁）・京北如琮張氏貴戚世譜略編（19-22 頁）・京北如琮張氏貴戚世譜次系（23-52 頁）・甲支別譜（53-75 頁）・乙支別譜（76-106 頁）・丙支別譜（107-125 頁）・張氏別譜（126-135 頁）・張氏列祖祀事碑文（136-229 頁）・奉録本族貴女（230-266 頁）・奉編至天宮祀器（267-286 頁）・奉編祠宇祭器（287-295 頁）・奉編祭祀儀節（295-317 頁）・奉編十二年行譴天神（318-320 頁）・奉編本族券約各条（38 条）（321-358 頁）・奉編祀田（359-367 頁）

「祠宇奉事」は保泰 7 年（1726）に庚辰科（1700）進士鄧廷相が、景興 2 年（1741）に丁未科（1727）進士阮暉が作成した。「跋」は景興 40 年（1779）に「族婿延河官員黎貴傑、孫儒生中式句稽曄忠子張暎」が執筆した。鄧廷相と阮暉は、『大越歷朝登科録』に阮廷相（1632~?）と阮德暉（1700~1775）とある。黎貴傑は黎貴惇（1726~1784、1752 年進士）の息子である。張暎は始祖德潤の九代孫に当たる。

L

- [113] 1792 羅溪阮氏家譜 La Khê Nguyễn thị gia phả A.1039 : 阮光練が嗣德 36 年（1883）に編纂。

表紙○・譜序（3-5 頁）・阮氏小宗永寧家譜（7-74 頁）

「譜序」に「孫阮光練謹序」と「嗣德 36 年（1883）」とある。光練は明命 5 年（1824）に生まれ、1883 年時点では秀才であった。

²³ おそらく江文詩と江元詩は同一人物であろう。『漢喃遺産』は、ただ「文」と「元」が形態的に似ていることを指摘しているが、「文」が男性を現わすテンデム（tên đẽm、中字）であり、「元」が支派を現わすテンデムである可能性もある。

[114] 1801 羅浮福寨阮族譜 La Phù Phúc Trại Nguyễn tộc phả A.1097：阮文騰が編集。

表紙○・羅浮福寨阮族世系宗引譜（3-16 頁）・羅浮福寨阮族歷代譜（19-28 頁）・阮族歷代譜（29-76 頁）・附録：墳墓（77-78 頁）・祠堂忌田便覽（79-90 頁）

阮文騰は嗣徳癸丑（1853）に生まれた。家譜の中には嗣徳年間に亡くなった族人の記録があり、嗣徳 24 年（1871）が最後の記録である。

[115] 1805 樂道社歷朝登科考 Lạc Đạo xã lịch triều đăng khảo VHv.2339²⁴：重複（[39] A.1000）

[116] 1809 来月阮氏家譜 Lai Nguyệt Nguyễn thị gia phả VHv.1336：阮光浹が景興甲戌（1754）に撰述。阮光深が続編を書いた。

表紙○・本族大小宗譜序（3-6 頁）・本族大小宗図（7-14 頁）・本族譜小引（15-16 頁）・本族大小宗引（16-19 頁）・附録家譜歷朝品爵例（20 頁）・本族大小宗譜（21-82 頁）・阮朝官銜礼（84 頁）・「阮光深生下男女及夫諸名氏……」（85-86 頁）

「本族大小宗譜序」は、阮光浹が景興甲戌（1754）に書き、「小宗之小宗嫡孫阮光深」が続編を書いた。「本族大小宗引」は、小宗之小宗長子儒生阮名揚が「奉題」した。光浹の父親は名潤であり、その長兄は名儒である。名儒の六代祖が光深である。家譜の中に啓定 9 年（1924）の勅封が含まれている。

[117] 1810 来早社阮譜 Lai Tảo xã Nguyễn phả A.655：阮泰が嗣徳 21 年（1868）に撰述。

表紙○・序（3-6 頁）・本文（7-22 頁）・附録高祖妣李氏譜蹟（23-26 頁）

「阮派泰謹誌前世高曾祖考妣諱日」とある。嗣徳 21 年（1868）とは、「顕考」の偶が作成した「奉先考記叙詞」の作成年度である。偶の妻である黎氏は、雲耕社の黎名炤（1841 年挙人）の長女である。黎氏は丁酉年（1837）に生まれた。偶の生没年は、乙酉-辛卯であり、1825~1891 年であると推測できる。派泰が作成した序は「戊戌（1898）」であり、家譜の記述には成泰 2 年（1890）に父母の神主を作ったという記録がある。

[118] 1818 藍山事跡歷代帝王所記（1）阮家世譜 Lam Sơn sự tích lịch đại đế vương sở kí (1) Nguyễn gia thế phả VHv.1305：保大 11 年（1936）に撰述。保大 19 年（1944）に書き写した。

表紙○・新輯家記序（3-4 頁）・新輯家記序（5-8 頁）・（本文）（9-47 頁）・阮相公碑記（49-53 頁）・勅類（弘定 12 年~景興 44 年）（55-64 頁）

年譜類²⁵。

[119] 1818 藍山事跡歷代帝王所記（2）胡大族譜 Lam Sơn sự tích lịch đại đế vương sở kí (2) Hồ đại tộc phả VHv.1305：同上。

表紙○・胡族譜跋（3-5 頁）・（本文）（6-22 頁）

表紙に「景興癸卯四十四（1783）」とある。「胡族譜跋」は、「賜壬辰科正進士特進金紫英榮祿大夫入侍行參從戸部左侍郎瑤川伯」が「皇朝景興萬萬年之四十四癸卯」に編纂した。瑤川伯は、胡士棟（1739~1785、1772 年進士）であると思われる。しかし、「太初祖胡相公」に啓定五年（1920）に発行された勅封が収録されているので、1920 年以降の写本であると思われる。

※ [101] 『胡家合族譜記』を参照。

[120] 1827 蘭香²⁶溪阮族譜 Lan Hương Khê Nguyễn tộc phả VHv.1339/1：なし。

²⁴ 表紙×・樂道社歷朝登科録（1-2 頁）・始祖狀元文（3-25 頁）・楊族家譜図記（27-76 頁）・楊始祖編録序（77-79 頁）・楊家世次編録（81-141 頁）・本族図記世次紀錄（143-148 頁）・風水図（150-151 頁）・蓼林社祖地（153-159 頁）・楊家譜記附録本族各支別居形状（161-165 頁）・却説（167-173 頁）・楊門先祖譜記（175-176 頁）・楊門家譜実録（177-180 頁）。

²⁵ 阮文階（1555~1628）の年譜。子孫は官職を持った人のみ列挙する。

²⁶ 『漢喃遺産』と『漢喃文献』には「蘭」となっているが、史料は「香」とある。

表紙×・補上卷世譜²⁷（1-6 頁）・阮家世徳之譜卷之二（7-13 頁）・登科録庭試榜（勅 3 通）（15-23 頁）・蘭亭碑記（25-27 頁）・仙考詩集（28-35 頁）・公郡公作制文具官銜（勅 4 通）（35-39 頁）・祭文・対聯・詩集・帳文など（40-172 頁）
文集類。

[121] 1827 香溪阮族譜 *Hương Khê Nguyễn tộc phả* VHV.1339/2 : 重複。[120] VHV. 1339/1 を原稿用紙に書き写したもの²⁸。

[122] 1859 黎惟族家譜 *Lê duy tộc gia phả* A.3153 : なし

表紙×・是月太后自北還之間……（1-2 頁）・承抄祠堂対聯銘跡（3-5 頁）・陞特進金紫……（6 頁）・黎惟族家譜（7-48 頁）

黎惟亶（1743~1813、1775 年進士）の著作。「歳次庚午年承抄」の庚午年は 1810 であるか。

[123] 1862 黎皇玉譜 *Lê hoàng ngọc phả* A.678 : 黎文休が編集。景興 41 年（1780）に付けられた御製序文。

表紙○・御製玉譜序（3-4 頁）・黎皇玉譜集記（5-102 頁）

3 頁に「黎文休編集」とあるが、一般に「黎文休」という名前は『大越史記』の著者として有名である（生没年は 1230~1322 年）。そのため『漢喃遺産』は、仮名か、偶然に名前が一致した可能性について述べた。ただし、5 頁に「賜甲辰科第二甲第三名進士出身特進金紫光禄大夫充国史館総裁臣黎文休薰沐百拝奉編」とある。景興 41 年（1780）以前の甲辰科は 1724 年であるが、この試験で第二甲進士は陳名穎（1690~?）と梁阮鉉（1693~?）しかない。

「御製玉譜序」の主語は「朕」であり、「朕惟昔者」から始まり、「於是、名之曰玉譜、仍命四宝以為之序」で終わる。その次に、「景興四十一年十一月冬至に知謹序」が来る。ここで朕は、顓宗（在位 1740~1786）であろうか。本文は、昭統帝（在位 1786~1788）まで続く。最後のページ（102 頁）に「黎皇玉譜卷二終」とある。阮朝の写本であると思われる。

[124] 1876 黎太祖襟誌 *Lê Thái Tổ tạp chí* A.3128 : なし

家譜（1-2 頁）・太和九年被杜寿丈…（3-5 頁）・清華又安山南等処…（6-9 頁）・当境太保貴玉郡公峻徳上等神福神大王譜記（11-14 頁）・南越黎朝史記録（15-20 頁）・寿春府三弄雜紙（10 通の文書）（21 頁）

神譜類。

[125] 1881 黎族家廟新譜丙支伝葉 *Lê tộc gia miếu tân phả bính chi truyền diệp* A.637 : 重複（[126] A. 638）

[126] 1881 黎族家廟新譜 *Lê tộc gia miếu tân phả* A.638 : 黎俊が景興 42 年（1781）に編集。

表紙×・家系図（1 頁）・歴代家先諱字号（2 頁）・黎族丙支家譜（3-7 頁）・附載列祖殤亡（8-9 頁）・祭家先法章（9-16 頁）・歴代家先墓儀節（17-20 頁）・祝文式（21-24 頁）・黎族家廟新譜卷之一（25-26 頁）・黎族家廟新譜卷之二（27-31 頁）・黎族家廟新譜卷之三（33-42 頁）

「祭家先法章」の最後に「景色四十二年（1781）二月初十日写約文」とあり、この祭祀と財産に関わる約文に書名したのは「甲支十世孫族長黎俊」、「乙支九世孫知県黎倘」、「九世孫丙支長黎佶」である。俊は景興 23 年（1762）に三場に合格した。倘の父親である弥敬は正和甲子年（1684）に郷貢となった。佶の父親であり、家譜において「顓考」と称される福寛は保泰丙午科（1726）で生徒となった。

※[125] の表紙に「皇朝景興四十一年」に「丙支[八世孫黎偉奉写]」とある。家譜の成書年代を 1781 年と特定しても差し支えないと思われる。[125] と文字や目次の順番において若干の差はあるものの、ほぼ同一の写本であると思われる。

²⁷ 何文禎、何文祥、何明礼など、阮倣（1674~1735、1700 年進士）と血縁関係がある人を集めただけで、始祖からの系譜を現わしたものではない。

²⁸ フランス極東学院による筆写作业とその問題点については[グエン・ティ・オワイン 2023]を参照されたい。

[127] 1882 黎族家譜 Lê tộc gia phả A.649 : なし。

表紙○・雲耕社厚愛村黎大族家譜序(3-4 頁)・本文(5-24 頁)・雲耕社厚愛村黎族大宗譜記(序)(25-33 頁)・本文(34-68 頁)・附編黎族祠堂對聯(69-70 頁)・府編黎族祠堂祭文(70-71 頁)・黎族祠堂記(71-74 頁)・府編丹鳳県遺愛社外族陳家譜記(75-81 頁)

「雲耕社厚愛村黎大族家譜序」は、寺卿官が「戊申仲春」に書いた。「雲耕社厚愛村黎族大宗譜記(序)」は、次支十三世孫号雲庵が「嘉隆 9 年(1810)」に作成した。ただ、家譜の中で「顕考」とされる輝植について「我父生於己丑六月……至阮嗣徳二年己未……卒享齡八十一歳」としている(己未は嗣徳 12 年(1859)であるが、己丑年(1769)年から享年を計算すると 1849 年である。では「己酉」と書くのが正しいだろう)。

[128] 1883 黎族家譜 Lê tộc gia phả A.1855 : 黎球が成泰 10 年(1898)に筆写。

表紙×・黎族家譜小引(1-3 頁)・黎族譜記(5-50 頁)

「青派県知県黎球」とある。ただ家譜の中で、黎球を顕考と称しており、成泰 10 年(1898)に亡くなったとする。「小引」を作成した後、亡くなったと思われる。そして球には 1 男 4 女がいて、廷圭が父親の行状を書いたと思われる。そこには、成泰 15 年(1903)の改葬の記録がある。

[129] 1884 黎族家譜 Lê tộc gia phả VHv.499 : 黎玉瓚が嗣徳 21 年(1868)に筆写。

表紙○・奕世明鑑前編叙(3-6 頁)・墳墓図(7-10 頁)・奕世明鑑前編卷之一(11-37 頁)・黎家宗族世次総説前編(新補)(39-55 頁)・黎族大宗小宗男女婦人名善編(十世)(57-58 頁)・周年忌日節例日祝辞(59-66 頁)・奕世明鑑卷之二：祠堂・祭文(67-91 頁)

「奕世明鑑前編叙」は、黎玉瓚が嗣徳 21 年(1868)に書いた。この年は玉瓚が挙人となった年である。しかし家譜の中で、玉瓚は「九代祖」となっており、十代までの記録がある。玉瓚の第四男の何珥が成泰 15 年(1903)に挙人に合格した情報がある。

[130] 1885 黎族譜記 Lê tộc phá kí A.2807 : 黎陳倣が嘉隆 9 年(1810)に編集。

表紙×・其業本根留伝家法…(1-5 頁)・序(6 頁)・広威府先豊県青梅社梅斎村黎族家譜(7-41 頁)・太保黎相公香火田池土宅(42-43 頁)・太保甸郡公祠堂(44-56 頁)・祖甸郡公仕途歴受内外各職(勅類：正和 5 年-景興 25 年)(57-137 頁)・顕祖黎宗偉譚仁字英令事跡(139-143 頁)・本族郷貢三農県知県黎陳倣詳抄碑内及附紀旧家譜(145-155 頁)・青梅総思徳碑記(156-164 頁)・耆英会長春湖碑記(165-170 頁)

「序」に当たるページ(6 頁)に嘉隆 8 年(1810)に「族長儒生中式黎陳倣窃念我祖……」とある。甸郡公は、黎英俊(1671~1736)であり、1694 年に進士となった人物である。英俊の第五男、宗述(1706~1762)の長男が黎陳倣であり、陳倣は 1741 年生まれた。

[131] 1886 黎宗正派記 Lê tông chính phái kí VHv.2616 : 黎伯長によれば、黎有恰による写本を杜輝僧が保大 9 年(1934)に書き写した。

表紙×・黎宗正派記(3-15 頁)・黎太宗忌日(16-17 頁)・黎宗正派本家忌日諱字与墳墓何処顯伝列記(17-30 頁)・上宰演国公争口記(31-35 頁)・演国公行状(35-48 頁)・黎朝褒封御制(48-51 頁)・縁記本支家譜(51-55 頁)・本支忌日列編(55-57 頁)・功德事跡(57-61 頁)・不明(63 頁)・三宝田碑銘(64-75 頁)・歴代帝王年紀(77-82 頁)・成泰辛卯……黎叔奉編(83-89 頁)・杜輝僧承抄依如正本(91 頁)

「嗣孫黎有恰」が保大 9 年(1934)に「承抄原本」した。

[132] 1936 李氏家譜 Lí (Lý) thị gia phả A.1057 : 李文馥が明命 2 年(1821)に編集。

表紙×・李氏家譜序(1-4 頁)・家譜引(5-6 頁)・李氏家譜(7-40 頁)

「李氏家譜序」は、世嗣翰林院編修兼国史館編修李文馥(1785~1849、1819 年挙人)が明命 2 年(1821)に書いた。「李氏家譜」は李文馥が辛巳年(1821)に書いた。

[133] 2004 苓塘阮族家譜 Linh Đường Nguyễn tộc gia phả A.1009 : なし。

表紙×・苓塘阮族高曾祖妣各支（1-4 頁）・二代丁支顯祖考勅制各道（5-16 頁）・肇慶公府祠碑（17-29 頁）・元旦告家先文（29-37 頁）

「二代丁支顯祖考勅制各道」には、景興 27 年（1766）から景興 40 年（1779）までの 4 通の勅がある。

[134] 2005 苓塘阮家世譜別録 *Linh Đường Nguyễn tộc gia phả biệt lục* A.1010 : なし。

表紙×・苓塘阮家世譜丙支別録（1-14 頁）・丁支（15-50 頁）・附録女支（51-59 頁）・恭録諱字（60 頁）・丁大王第六男〔今是長支〕（61 頁）

※[133] は「甲支」系統の六代祖が「顯考」と称されるが、[134] では「甲支」がなく「丙支」・「丁支」・「女支」系統の支派祖からの情報が記されている。[133] の六代祖が[134] では「顯考祖」と称される。

[135] 2093 梁家世譜 *Lương gia thế phả* VHB.57 : 12 代孫日省が編集し、明命 6 年（1825）に序文を作成。

表紙○・梁家大宗小宗譜序（3-13 頁）・奉写家譜歴代諡号（15-22 頁）・第一支（22-62 頁）・第二支（63-68 頁）・第三支（69-126 頁）・裏表紙（128 頁）

「梁家大宗小宗譜序」は、「大宗之庶支十二世孫乙酉科（1825）秀才日省（1794~1832）」が明命 6 年（1825）に書いた。しかし日省本人を含め十四代までの記録が収録されている。裏表紙には、「1958/7/25」と梁潘瑞の名前があるが、潘瑞は成泰 18 年（1906）に挙人に合格した人物である。

[136] 2113 劉氏譜記 *Lưu thị phả kí* A.2147 : 乙未科（1775）進士劉暉（号は可齋）が景興 42 年（1781）に序文を作成。

表紙○・忠献公譜序（3-45 頁）・本文：前譜記・後譜記（19-32 頁）

「忠献公譜序」は、次孫乙未（1772）進士の劉暉（1742~1797）が景興 42 年（1781）に作成した。「前譜記」は同年書かれた。劉暉の兄は文毅（暉、1742~1797、1772 年進士）であり、「後譜記」は、文毅の孫である劉揆（1811-?）が書いたのではないと思われる。揆は、明命 16 年（1835）に進士となった人物であり、揆の父母の生没年がそれぞれ 1777~1825 年と 1778~1843 年である。

M

[137] 2117 鄭氏家譜 *Mạc thị gia phả* A.1321 : 重複（[138] A.39）

[138] 2117 鄭氏家譜 *Mạc thị gia phả* A.39 : 武世營（字は慎微）が嘉隆 17 年（1818）に編集。幕僚による編纂²⁹。

[139] 2139 卯榘陳族譜 *Mão Cầu Trần gia phả* A.680 : なし。

表紙○・序（3-6 頁）・本文（6-60 頁）

紹治 4 年（1844）に「第二支光釧命終。嫡嗣光稠奉拋祖編抄録」とある。光稠は光釧の次男である。

[140] 2149 茂良阮氏家譜 *Mậu Lương Nguyễn thị gia phả* A.753 : 十代孫阮求人が編纂し、成泰 11 年（1899）に序文を作成。

表紙○・序（3-4 頁）・附甲支丁支祖先事録（19-36 頁）・阮氏旧譜序（37-40 頁）・阮家新譜序（40-42 頁）・阮族世系（42-60 頁）・祖先の行状（尚書公を含む 5 人）（61-92 頁）・阮氏譜系第三支（93-95 頁）・譜後序（96 頁）・我支奉事自四世祖（97-184 頁）

「序」は、「十四世孝裔孫阮求」が成泰 11 年（1899）に執筆した。「阮氏旧譜序」は、「玄孫阮良」が嗣徳 35 年（1882）に書いた。「阮家新譜序」は、成泰 4 年（1891）に正本に依拠し写したものである。

「附甲支丁支祖先事録」は、黎朝癸亥科進士について述べているが、関係ははっきりしない。第五代の福

²⁹ 作者の武世營は、鄭氏の幕僚であり、西山朝により鄭氏が滅亡した後、阮福映に重用される。武世營は、①大徳に酬するため、そして②鄭天賜（1706~1780）の孫である鄭公榆（?~1833）の頼みと、朝廷の論旨を受けたので、家譜を著述した〔陳荊和 1956〕。

行を戊辰科進士と記述しているが『大越歴朝登科録』には見当たらない。その他、「祖先の行状」に収録されている人物も関係がよくわからない。

- [141] 2153 美芝世譜 *Mĩ (Mỹ) Chi thế phả* A.654 : なし。

表紙×・序 (1-3 頁)・美芝世譜 (5-71 頁)・附記 (72-105 頁)

「附記美芝譜後」(97-105 頁)には、「顕考」浥とその妻、陳・妙純の生没年があり、それぞれ 1793~1865 年と 1798~1861 年である。浥と妙純の間で「灝」が生まれた。また浥には継室、陳・慈祥 (1798~1861) がいて、彼女との間に「遂？」が生まれた。丙寅年 (1866) に行われた慈祥の改葬記録がある。

- [142] 2183 慕沢黎氏譜 *Mộ Trạch Lê thị phả* A.658 : なし。

表紙○・黎氏家譜事録記 (3-56 頁)・第文式 (56-55 頁)・附録 (67-115 頁)

- [143] 2184 慕沢世譜 *Mộ Trạch thế phả* A.985 : 景興 46 年 (1785) に編集。

慕沢武氏家譜記 (3-4 頁)・(本文) (4-13 頁)

登科録。

- [144] 2186 慕沢武氏世沢堂家譜 *Mộ Trạch Vũ thị Thế Trạch đường gia phả* A.3136 : 武芳蘭が編集し。武頤軒が校正。啓定 5 年 (1920) に筆写。

表紙×・慕沢武族世系事蹟並序記 (1-6 頁)・表紙 (7 頁)・慕沢武氏族世次引記 (8-19 頁)・世沢堂世次譜系 (20-73 頁)・世沢堂碑記 (74-79 頁)・致仕碑義 (79-89 頁)・世沢堂内族先達官爵 (90-93 頁)・諱日祭文 (94-102 頁)・世沢堂通年……祭文 (103-108 頁)・囑書 (109-110 頁)・朱文公家礼儀節 (111-113 頁)

表紙に「啓定 5 年 (1920)」とある。「慕沢武族世系事蹟並序記」は景興 30 年 (1770) に書かれたものである。「世沢堂世次譜系」は、遠孫武春晋が啓定 5 年 (1920) に書いたものである。「世沢堂碑記」は陽徳元年 (1672) に建てられた。

- [145] 2187 慕沢武族八派譜 *Mộ Trạch Vũ tộc bát phái phả* A.660 : なし。

表紙○・甲支・乙支・丙支・丁支・戊支・己支・庚支・辛支 (3-248 頁)

※武族始祖と八派の派祖との代数は判然としない。各支ごとに世代数は異なる。

- [146] 2187 慕沢武族世系事蹟 *Mộ Trạch Vũ tộc thế hệ sự tích* VHV.1324 : 重複 ([148] A.3132)

- [147] 2187 慕沢武族五支譜 *Mộ Trạch Vũ tộc ngũ chi phả* A.659 : 重複 ([148] A.3132)

- [148] 2188 慕沢武族世系事蹟 *Mộ Trạch Vũ tộc thế hệ sự tích* A.3132 : 武芳蘭と武世儒が編集。武宗海と武輝斑が潤色。

表紙○・南越国略記 (2 頁)・序 (3-9 頁)・唐沢武族譜系續編卷壺 : 五支 (11-202 頁)※武族と関わる家譜はすべて「第三支十五代孫蘭庵武芳蘭、第五支十五代孫恒軒武世儒、己派十代孫武宗海編輯、己派十代孫頤軒武輝斑潤色」と付す。

「序」によれば、丁亥年 (1767) に書き始め、己丑年 (1769) に完成したという。しかし、一支十四代、二支十七代、三支十九代、四支十五代、五支十八代までの記録があるため、少なくとも 4-5 世代を経た時点のものと思われる。「派」は [145] 『慕沢武族八派譜』における八派のことである。武族は五支と八派で構成されるが、その家系は必ずしも整合的ではない。

- [149] 2189 慕沢武族積善堂譜記 *Mộ Trạch Vũ tộc Tích Thiện đường phả kí* A.661 : 武文才が編集。明命 14 年 (1833) に筆写。

表紙×・積善堂系序 (1-16 頁)・凡例 (17-21 頁)・神祖大王 (22 頁)・積善堂譜 (23-56 頁)・善慶堂譜 (57-100 頁)・附録 : 第二支別派 (101-142 頁)

「積善堂系序」によれば、「末裔梁塘遯叟武文材」が 明命 14 年 (1833) に作成したと書いてあるが、「梁塘」は 1841 年から 1886 年の間に用いられた地名である。元の名称は、「華塘」であったが、紹治帝

の生母の名前が「胡氏華」であったため、「梁」に変わった。また、「塘」は 1886 年から同慶帝の諱だったので、「玉」に変わった。したがって「梁塘」の地名は、1841 年から 1886 年の間に用いたことになる。

N

- [150] 2229 南定省春長府葛川総朗陵社武族譜記 Nam Định tỉnh Xuân Trường phủ Cát Xuyên tổng Lăng Lăng xã Vũ tộc phả kí VHv.1211 : 成泰 19 年 (1907) に再書。

表紙○・(本文) (5-42 頁)・祭祖儀節 (43-44 頁)・春祭文 (45 頁)・「事之如存稠常千古徹、享之有所忠孝一心生」 (47 頁)

表紙の見返しに「成泰拾玖年七月十五日承抄譜諱事昔依依旧譜。原前率隊長族文武甲長武曰霽承抄追思奉祀」とある。鼻祖武先翁諱貴公から武貴公諱曰載と正室阮氏行までの数百人に及ぶ人々の諱・字・号が書かれている。ただ、並べられているだけで父母・兄弟関係は分からない。

- [151] 2233 南河記聞集 Nam Hà kí văn tập VHv.1759 : なし。
文集類。

- [152] 2233 南河記聞集 Nam Hà kí văn tập VHv.2663 : 重複³⁰ ([151] VHv. 1759)

- [153] 2235 南河捷録 Nam Hà tiệp lục A.586 : 黎亶が編集し、総跋を作成した。
文集類。

- [154] 2332 嚴姓家稽 Nghiêm tính gia kê A.3061 : 嚴益謙が撰述。

表紙×・嚴姓家稽序 (1-2 頁)・本文 (3-43 頁)・祝文? (字喃) (49-50 頁)

「嚴姓家稽序」に「黎景統元年 (1498)」に嚴益謙 (1459~1499、1490 年進士) が書いたとある。十七代祖である敬簡公 (1787~1860) は、乙酉科 (1825) で挙人となった。『国朝郷科録』に嚴名撰とあると思われる。その三男の継室である阮・慈儀は成泰癸巳 (1893) に 62 歳で死亡しているから、生没年は、1832~1893 年となる。彼女は 6 男 4 女を生んだが、第五男である寿期公は丁丑年に生まれ、55 歳で辛未年に死んだため、その生没年は 1877~1931 年となる。

- [155] 2360 吳家忌日 Ngô gia kị nhật A.3170 : 吳文川が明命 7 年 (1826) に序文をつけた。

表紙×・忌日 (1-2 頁)・顯祖、姑、叔等 (3-6 頁)・序 (7-8 頁)・今貴号宮嬪 (9-10 頁)・顯考 (11-12 頁)・忌日 (13-14 頁)・外祖 (15-16 頁)・忌日 (17-19 頁)

家譜の記述によれば、吳文川は安然先生の第三男である。しかし、家系において安然の関係ははっきりしない。

- [156] 2361 吳家世譜 Ngô gia thế phả VHv.1345 : 午峯公 (吳時仕) が景興 16 年 (1755) に序文を作成。吳甲豆が編集。乙酉年 (1885?) に再書。

表紙○・宗統伝聞記 (3-5 頁)・世譜総序 (5-10 頁)・凡例 (11-15 頁)・吳家世譜寔録 (17-97 頁)・跋 (99-101 頁)・行状畧説 (101-115 頁)・崇恩広記 (117-122 頁)・附編 : 五代・四代・正曾・少曾・祖・考妣の家譜 (123-133 頁)・家祠告文式 (134-137 頁)・裏表紙 (138 頁)

表紙と裏表紙に「歳在乙酉」とある。「宗統伝聞記」は明命 9 年 (1828) に「曾祖淑海陽学政徵甫公」が書いた。「世譜総序」は景興 16 年 (1755) に高祖午峯公が書いた。「吳家世譜寔録」は「十六代孫辛卯舉人安樂知県吳甲豆」が書いた。ただ吳甲豆 (1853~1929) が挙人となったのは、辛卯年 (1891) である。

- [157] 2365 吳氏家譜 Ngô thị gia phả A.774 : 吳慎が建福元年 (1883) に編集。

³⁰ 『漢喃遺産』によれば、1964 年に阮榜が VHv.1759 をもとに書き写した。

表紙×・呉氏家譜目次（1-2 頁）・呉氏家譜続編序（3-7 頁）・続編凡例（7-9 頁）・呉氏家譜編録（9-134 頁）・附録徳重府君長支一派（135-139 頁）・附録外氏譜（140-161 頁）

「呉氏家譜続編序」は、「古溪呉慎」が建福元年（1883）に作成した。慎の父親、玠（1798~1839）は嘉隆 18 年（1819）に挙人となった。家譜によれば、慎は壬午年に生まれ丙戌年に死んだため、その生没年は 1822~1886 年となる。慎の次男、国瑞は建福元年（1884）に挙人となった。

- [158] 2365 呉氏家譜 Ngô thị gia phả A.646 : 呉西山が編纂。呉惟成が再写。
コピーなし。

- [159] 2365 呉氏家譜 Ngô thị gia phả A.245 : 呉温甫が序文をつけた。呉仲珪が再写。
コピーなし。

- [160] 2366 呉氏世譜 Ngô thị thế phả VHv.1385 : 呉文翠が編集し、保大 11 年（1936）に序文を作成。
表紙×・家系図（1-2 頁）・呉家族尊諱字（3-4 頁）・不明（5-7 頁）・呉家譜序（8-12 頁）・呉家功臣歴事黎朝先後世次略編（13-32 頁）・呉家功臣世系：家系図（23-31 頁）・天葬案地論（32-39 頁）・呉家譜前編（39-42 頁）・呉家譜正編（43-112 頁）

- [161] 2367 呉族家譜 Ngô tộc gia phả A.925 : なし。
表紙○・呉族家譜序（3 頁）・列先忌（5-12 頁）・呉族家譜世次（13-211 頁）
最後の世代である十八代祖、安宅の生没年が 1785~1841 年である。安宅の子孫により編纂されたのか。

- [162] 2368 呉族追遠壇譜 Ngô tộc truy viễn đàn phả A.647 : 陳名案、范甲天、武輝璫が序文と讃を作成。武禎、阮謹謀、黎梁慎が跋を「辛亥年（1791）」と「壬子年（1792）」に作成。
表紙○・呉族追遠壇序①（3-5 頁）・呉族追遠壇序②（5-9 頁）・追遠壇贊並序（9-13 頁）・追遠壇祭説（13-16 頁）・追遠壇図引（17-18 頁）・呉族追遠壇碑記（19-97 頁）・活人寿茶記並詩（98-102 頁）・呉族追遠壇譜跋（103-107 頁）・追遠壇升侑議（109-111 頁）
「呉族追遠壇序①」は辛亥年（1791）に「前朝進士副都御史定嶺侯陳名案」が書いた。「呉族追遠壇序②」は「翰林院校理兼史館纂修范琯天」が書いた。「追遠壇贊並序」は武輝璫が書いた。「追遠壇祭説」は武禎が壬子年（1792）に書いた。「追遠壇図引」は阮謹が書いた。「呉族追遠壇碑記」収録の丹岳先生・雲斎先生・午峯先生の行状はそれぞれ黎仲穎・陳名案・呉仲珪が壬子年に書いた。「呉族追遠壇譜跋」は黎梁慎が癸丑年（1793）に書いた。「呉族追遠壇碑記」は始祖福基から「顕考」午峯までを扱う。午峯は呉時仕（1726~1780、1766 年進士）である。「呉族追遠壇碑記」は呉時任（1746~1803、1775 年進士）を基準としていることが分かる。「呉族追遠壇碑記」（32 頁）に「皇越光中万万年之四（1791）」とある。

- [163] 2398 阮公姓家譜 Nguyễn công tính gia phả A.1217 : 阮嘉偉が撰述。阮佑俊が調査。長族阮迪進が啓定 4 年（1919）に捧げる。
表紙○・序（3-4 頁）・目録（5 頁）・太宗図（6-15 頁）・太宗譜上卷（16-33 頁）・本支宗図（34-63 頁）・正譜（65-132 頁）・下卷小宗図（132-137 頁）・祠堂対聯（137-138 頁）・阮家事蹟（139-142 頁）・奏類・勅類（嘉隆元年-15 年、福泰 4 年）（143-164 頁）・裏表紙（165 頁）
「序」は、阮嘉偉が「筆撰」し、阮佑俊が「参考」した。嘉偉と佑俊は 18 世紀後半の人物である。裏表紙に「啓定四年（1919）拾壹拾二日奉抄婺球社阮公姓家譜長族阮迪進記、旧里長阮迪口記、阮迪紀記、奉開本族勅文家譜郷政阮迪禩記」とある。

- [164] 2400 阮惟家譜 Nguyễn Duy gia phả A.755 : なし。
表紙×・阮惟家譜目次（1 頁）・序（3-5 頁）・本文（6-29 頁）・第八祖考水原訓導詩集（31-35 頁）・代擬諸家対聯及帳（37-52 頁）・第七祖妣登七旬賀集（53-58 頁）・辛卯科祖中挙人賀集（59-72 頁）・庚子科挙人小宗賀集（73-94 頁）・再選社両家同科賀集（95-114 頁）・阮進挙人賀集（115-130 頁）
辛卯科（1891）と庚子科（1900）の挙人とは、阮惟瓊（1865~1903）と阮惟璫である。惟瓊の父親、福理（1820~1870）の次室、阮・慈純が成泰甲辰（1904）に死んでおり、これが年号が分かる最後の年である。

- [165] 2401 阮大家世徳之譜卷之一 Nguyễn đại gia thế đức chi phả quyển chi nhất A.2647 : なし。
表紙×・神考大王遺文（1-14 頁）・正和二十一年庚辰科進士題名記（14-18 頁）・攷郡公爵制文（19-20 頁）・榮封福神大王及加封口字与登秩各勅文共七道（21-26 頁）・祠堂對聯（26-27 頁）・觀徳堂奉事對聯（27-28 頁）・本族恭進加厚田土詞（28-29 頁）・仙考國師遺文（29-38 頁）・景興四年癸亥會試科（38-52 頁）……簿序文（121-121 頁）
文集類。
- [166] 2404 阮次支家譜 Nguyễn thứ chi gia phả VNV.186 : 阮文輪が撰述。
表紙×・猛祖猛叔祖姑奉編（1 頁）・「蓋聞……」（阮廷匄の墳墓記）（3-9 頁）・猛祖猛叔猛姑奉編（11-12 頁）・阮族次支家譜（13-16 頁）・gia phả họ Nguyễn（17-24 頁）
「阮廷匄の墳墓記」は、阮文輪が成泰元年（1889）に書いた。「阮族次支家譜」は阮文冬が書いた。gia phả họ Nguyễn は「蓋聞……」をローマ字で転写したものである。阮文輪の名は家系の中に現れない。
- [167] 2405 阮廷族家譜世系集 Nguyễn đình tộc gia phả thế hệ tập VHv.2428 : 16 代孫の阮廷会（錦堂逸士）が保大己巳（1929）に編纂。陳文逢が 1962 年に書き写した。
表紙○・本家奉事平村外祖考妣（2 頁）・逐月列編内外祖先忌日（3-4 頁）・本國省府總社村号（5-6 頁）・編修阮廷族世譜世系集序説（7-12 頁）・編修阮廷族〔仲氏小支〕世譜上集（13-64 頁）・奉画阮廷族歷代各支世次生人世系図下集（65-109 頁）・詩（111 頁）・行狀（112-114 頁）・裏表紙（115 頁）
「編修阮廷族〔仲氏小支〕世譜上集」は、「十六世孫……阮廷会」が保大 4 年（1929）に書いた。陳文逢が 1962 年に書き写し、呂春梅が検閲した。陳文逢らはただ書き写しただけであると思われる。そのため、阮廷会が書いた年を基準とする。
- [168] 2406 阮廷族譜歌 Nguyễn đình tộc phả ca VNV.270 : 阮汝撰が撰述。陳文逢が 1962 年に書き写した。
表紙×・記念年月日心想先徳祖是皇我本祖一門…（2 頁）・本國省府總社村号（3-4 頁）・表紙○（5 頁）・本祖文内（7-12 頁）・阮廷族世譜解歌（13-75 頁）・阮廷族家譜演歌完（76-86 頁）・文昌陰陽演歌（87-94 頁）……裏表紙（109 頁）
歌類。
- [169] 2407 阮徳族簿 Nguyễn đức tộc bạ VHv.1838 : 阮如梅が保大 16 年（1941）に筆写。
条例（3-16 頁）・祭祀各節以下（16-18 頁）・儀節以下（18-20 頁）・本族諸祭文（20-26 頁）・向上諸忌祭儀節（26-27 頁）・春祭田（27-28 頁）・后諱田（28-29 頁）・新買田（30 頁）・（作成日・作成者）（31-34 頁）
家規類。
- [170] 2409 阮堂甲世支譜 Nguyễn đường giáp thế chi phả A.910 阮必達が撰述し、嗣徳 19 年（1866）に序文を作成。武文奉の序文を黎玉閏が同慶戊子（1888）に再書。
表紙○・阮堂世譜序（3-6 頁）・又序（7-9 頁）・本文（11-54 頁）・生年紀（54-56 頁）・恭録本堂先諱日（57-58 頁）・旁親（59）・外親（60 頁）・附録忌后（61-63 頁）・甲内条例（64-74 頁）・祭祖各節文（75-79 頁）
「阮堂世譜序」は、秀才阮必達が嗣徳 19 年（1866）に作成した。「又序」には「舉人本総仁域社若道武文奉序」とある。「外親」は、「同慶戊子（1888）春門生九品黎玉閏」が書き、「右頭伯考秀才公阮」が「撰定」した。
※家譜の主語は「我」であり、阮必達を指す。
- [171] 2409 阮堂世譜 Nguyễn đường thế phả A.668 : 重複（[170] A.910）
- [172] 2410 阮家家譜 Nguyễn gia gia phả VHv.2376 : 阮光署が編集し、嗣徳 21 年（1868）に序文を付けた。
第十七代の阮廷鶴が保大 16 年（1941）に筆写。裴接が 1961 年に再書。

表紙○・雑記（2-8 頁）・表紙（9 頁）・大宗世系図（10-18 頁）・阮氏家譜序説（19-26 頁）・本論（27-69 頁）・附録出神事跡（70-71 頁）・附録正宗事跡（71-73 頁）・附近年諸祭文（74-90 頁）・裏表紙（91 頁）

表紙に「長支十七代孫阮廷鶴字万桂号明達先生」が「越南民主共和三年（1948）」に書いたとあり、裏表紙には「越南民主共和十七年（1961）」に裴接が「奉抄依如正本」したとある。「大宗世系図」は、阮廷鶴が保大 16 年（1941）に書き写した。「阮氏家譜序説」は嗣徳 21 年（1868）に阮光署が書いたものである。光署の兄は光暄（1817~1848）であり、そのひ孫が廷鶴である。廷鶴の長兄廷雀の生没年は 1892~1945 年である。

[173] 2411 阮家譜記 Nguyễn gia phả kí A.2450 : なし。

表紙○・碑文（23 基）（3-156 頁）

碑文類。

[174] 2412 阮家譜記 Nguyễn gia phả kí A.2351 : なし

表紙×・旧譜（3-4 頁）・御製詠題義国公……石碑（5-6 頁）・褒封福神（7-8 頁）・大司徒超郡公勅（9-10 頁）・加封太保秉郡公勅（11-13 頁）・田（目録）（15-18 頁）・宏郡公阮公笋字諱説（20 頁）・家系（21-46 頁）・未詳（47 頁）・本文（家系）（49-151 頁）・裏表紙（152 頁）

「褒封福神」、「大司徒超郡公勅」「加封太保秉郡公勅」はそれぞれ景興 18 年（1757）、13 年（1752）、28 年（1767）に発行されたものである。家譜の中に「先考」「我父」とされるのは阮嘉珪（1741~1798）である。嘉珪の正室の生没年は 1739~1789 年である。黎朝を「皇朝」と呼んでおり、黎朝の避諱を使っていることから、まだ阮朝が成立する前のものであると推量される³¹。

[175] 2413 阮家世譜 Nguyễn gia thế phả A.2817 : なし

表紙×・阮家世譜序（1 頁）・重輯家譜序（2-6 頁）・祠堂対聯（6-7 頁）・春秋禘祭文（7-12 頁）・本文（13-60 頁）・第十六派即次男十五祖阮伯野奉事略編（61 頁）・阮伯運承嗣（62-63 頁）

「重輯家譜序」は、「十三世孫六科秀才行齋」が嗣徳 20 年（1867）に書いた。行齋は、[182]『阮氏家譜要』に十三代祖として出て、生没年は 1803~1876 年である。しかし、家譜の中に十五代までの記録があり、十五代祖伯擢の生没年は 1852~1912 年である。伯擢の息子世代が追記したと思われる。

※ [182] における割注は、この写本では書き写されていない。

[176] 2414 阮河氏世譜 Nguyễn hà thị thế phả VHv.1748 : なし

表紙○・阮何氏世譜第一譜（5-41 頁）・阮何氏祀事録（43-46 頁）・列先忌日（47-52 頁）・阮何氏忌田（53-56 頁）

家譜の主語は「余」。阮憫（1825~1886、1848 年挙人）の息子、おそらく長男の傲であると思われる。憫の次室の卒年が 1887 年である。憫の父親は、阮保（1799~1855、1821 年挙人）である。※阮傲の末裔の家系である。

[177] 2421 阮氏家譜（奉録宗譜） Nguyễn thị gia phả (Phụng lục tông phả) VHb.249 : 阮連茹が編集。

表紙×・序（1 頁）・奉録宗譜（2-8 頁）

「序」は、阮連茹が「辛卯年」に書いた。家譜の中に「生徒」・「郷貢」と述べていることから 1825 年以前に書かれたと推測される（男子中生徒諸婚三中郷貢、我支之財源文脈、乃公（一世祖福信）徳沢所貽也）。阮連茹は家譜の中で九世祖とされており、壬辰年に死んだ。辛卯年には 1711、1771、1831、1891 が想定されるが現段階では判断できない。

[178] 2422 阮氏家譜 Nguyễn thị gia phả VHv.1745 : 重複（ [176] VHv.1748）

[179] 2423 阮氏家譜 Nguyễn thị gia phả A.2049 阮雅が編集し、嗣徳丁丑（1877）に序文をつけた。

³¹ Nguyễn Văn Nguyên (dịch và chú thích), 2004, *Nguyễn Gia phả ký: Liễu Ngạn - Bắc Ninh*, Hà Nội: Nhà xuất bản Thế giới.

表紙○・内外忌日列編恭弁（3 頁）・阮家世系図本（5-11 頁）・阮氏家譜序（14-19 頁）・譜記跋後（20-22 頁）・阮家甲支乙派祠堂記（22-28 頁）・阮家全族世系譜（28-49 頁）・阮家分支小宗譜（50-75 頁）

「阮氏家譜序」に「皇朝嗣德丁丑（1877）秋七月既望後序」とある。この阮族の故郷はハノイである。九代祖（=我祖考）の徳沢は「勅詔召来京」とされた。ここで「京」はフエを意味すると思われる。また、徳沢の生没年は 1770~1830 年であると推測される。その第四男の、徳晋の生没年は 1814~1852 年であり、「吾別派始祖」とされている。晋の次男、文紹（1839~1885）は「顕考」とされる。徳沢を「我祖考」と呼んだのは文紹であり、その後、文紹の息子（文忠・文啓）が追記したものではないか。ここでは仮に 1885 年以降の写本であると決めたい。

- [180] 2424 阮氏家譜 Nguyễn thị gia phả A.798 : 阮輝が撰述。吳徳甫が嗣德 26 年（1873）に序文を作成。
表紙×・阮氏家譜序（1-3 頁）・家譜凡例（3-4 頁）・家譜（4-174 頁）

「阮氏家譜序」は、五科秀才の吳力甫が嗣德 26 年（1873）に書いた。

※家系が体系的に合わない。

- [181] 2425 阮氏家譜（無題） Nguyễn thị gia phả (Vũ đế) VHV.1749 : なし。

表紙×・祀田・禘祭文式（1-68 頁）

家規類。

- [182] 2426 阮氏家譜集要 Nguyễn thị gia phả tập yếu A.2808 : なし。

表紙○ [小宗抄本]・右侍郎官中進士帳文（3-11 頁）・尚書館中進士帳文（12-25 頁）・尚書官中東閣帳文（38-51 頁）・通政使官帳文（52-60 頁）・祭先祖文（61-62 頁）・阮家世系序（63 頁）・家譜（63-113 頁）・陳由事跡（115-117 頁）・家庭秘語（118-119 頁）

「陳由事跡」は、阮悌が書いたものである。家譜の中で悌は十一代祖となっており、その生没年は 1728~1790 年である。悌の第五男は忠誠（1775~1812）であり、その息子が行齋（1803~1876）である。家譜の中に忠誠の妻、阮・慈源（1778~1858）の改葬が成泰 11 年（1899）に行ったという情報がある。行齋の息子についても、「第十四祖考」と称していることから、1899 年以降まで追記されたと理解できる。

- [183] 2427 文会社阮氏家譜実録 Văn Hội xã Nguyễn thị gia phả thực lục A.1288 : 阮輝珍が明命 4 年（1823）に編集。

表紙○・歴代世編（3-84 頁）・勅文類：49 通（徳竜元年-景興 46 年）（85-209 頁）・裏表紙（210 頁）

裏表紙に「曾孫阮輝珍」が明命 4 年（1823）に書いたとある。家譜によれば、輝珍は戊子年（1768）に生まれた。輝珍の長姉、氏勲は裴輝壁（1744~1802、1769 年進士）と婚姻した。

- [184] 2429 阮氏世譜 Nguyễn thị thế phả A.653 : 阮思恭（字君接、号江樵）が同慶丁亥（1887）に編集。

表紙○・東阮重修族譜序（3-5 頁）・凡例（6-10 頁）・東阮同族世譜（11-238 頁）

「東阮重修族譜序」は、「十四代江樵子阮思恭」が同慶丁亥（1887）に「編輯」し、「十四代举人阮文洽」が「校記」した。阮文洽の名は『国朝郷科録』に見当たらない。

- [185] 2430 阮氏世譜寔録 Nguyễn thị thế phả thực lục A.2258 : 阮国珙が撰述し、嘉隆 15 年（1816）に序文を作成。

表紙○ [旧譜草本]・阮氏世譜寔録（3-4 頁）・書例（5 頁）・年紀（6 頁）・登科次第（6-8 頁）・大宗系図（9 頁）・小宗系図（10-11 頁）・世譜寔録（13-22 頁）・甲支略支（23-30 頁）・丙支略支（31-43 頁）・乙支略支（45-56 頁）

「阮氏世譜寔録」は、儒生阮国珙が嘉隆 15 年（1816）に編纂したものを成泰 9 年（1897）に「奉編」したものである。国珙は家譜の中で七代に位置づけられる。乙支の七代の文会は 1848 年に举人となった人物で、乙丑年（1865）に死んだ。成泰までの情報を入れた写本であると思われる。

- [186] 2431 阮氏族譜 Nguyễn thị tộc phả A.1594 : 杜春吉などが嗣德壬戌（1862）に撰述。

表紙○・丑系孟房乙丑正譜（3-11 頁）・丑系孟房乙丑別譜（12-17 頁）・丑系孟房丁丑支譜（17-20 頁）・丑系仲房己丑支譜（21-31 頁）・丑系仲房辛丑支譜（31-40 頁）・丑系季房癸丑支譜（41-46 頁）・誥勅録

四行状紀三（47-74 頁）・誥勅録四伝（勅類）：38 通（正和 10 年-明命 6 年）（75-132 頁）・方安居記五（133-138 頁）・外戚編（138-146 頁）

杜春吉は、清化省弘化県安域社出身であり、1841 年に挙人となった。家譜によれば、この家譜は杜春吉と八代の輝介が書いたものである。七代の「黎朝本府試中校生」の珣（1754~1819）の第三女の氏派は、安域社出身で知府の杜春泰と婚姻し春吉と春永を生んだ。珣の第三男である珉（1790~1853）の第四男が輝介である。つまり輝介にとって春吉は従兄弟となる。

- [187] 2432 阮姓家譜輯要 Nguyễn tính gia phả tập yếu A.1574: 13 代孫阮忠恒が編集し、嗣徳丁卯年（1867）に序文を作成。

表紙○・重輯家譜序（3-8 頁）・原序（9-10 頁）・祠堂奉事各項（11 頁）・祠堂對聯（12-14 頁）・写文式（15-16 頁）・先祖忌日祭文（17-18 頁）・阮姓家譜集要（19-42 頁）・卷二（93-106 頁）・卷三（93-106 頁）・卷四（107-158 頁）・府黃家發福墓記（159-166 頁）・卷五（167-197 頁）

表紙に「嗣徳十二年（1859）」に「十四世孫阮忠清拜誌」とある。「原序」は [182] の「阮家世系序」を書き写したものである。

※ [182] をもとに [187] を書き写したと思われる。

- [188] 2433 阮族家譜 Nguyễn tộc gia phả A.1049: 阮廷濬が撰述。

表紙○・家譜実録引（3-4 頁）・家譜続編引（5-6 頁）・家譜寔録（7-74 頁）・裏表紙

「家譜実録引」は、「指揮使」の阮廷濬が書いた。「家譜続編引」は「丙午」に明听が作成した。裏表紙に「辛丑年」に千戸の廷林が「奉抄原一」したとある。家譜の中で廷濬は「曾祖」となっており、生没年は 1762-1820 である。そのひ孫にあたる林（1858-?）が辛丑年（1901）に書いた写本である。

- [189] 2434 阮族家譜 Nguyễn tộc gia phả A.1959: 阮勤が嗣徳庚申（1860）に序文を作成。

表紙×・阮族家譜序（1-2 頁）・阮族譜記（3-30 頁）・阮族忌日（31-36 頁）・外譜記（37-38 頁）・外譜（38 頁）・告家先文（39-44 頁）・告忌日文（45-49 頁）

「阮族家譜序」は、阮勤が嗣徳庚申（1860）に書いた。ただ、家譜の中で勤は「祖考」となっており、その生没年は 1807~1849 年である。没年を間違っていると思われる。勤とその妻、范・克勤（1805~1849）には二人の息子があったが、長男は「早没無子媳」であり、「次男即我之顯考」とされている。次男の名は琪であり、その生没年は 1837~1910 年である。この写本は琪の息子が書いたと思われる。

- [190] 2435 阮族家譜 Nguyễn tộc gia phả VHV.55: 阮保が紹治辛丑年（1841）に序文をつけ、癸卯年跋を作成。

表紙×・家祠祀儀説（1-19 頁）・歴代家先忌辰（21-23 頁）・新贖祀田畝高处所（25-34 頁）・諸辰節祭告文式（35-45 頁）・家譜卷目（47-50 頁）・家譜卷首序（51-56 頁）・原序（57-60 頁）・原序（61-66 頁）・家譜年表（67-125 頁）・家譜世次之図（128-152 頁）・凡例九則（153-158 頁）・歴代賛（159-163 頁）・家譜卷一（世譜正編）³²（165-168 頁）
文集類。

- [191] 2436 阮族家譜 Nguyễn tộc gia phả VHV.2488: 阮廷琦が景興 38 年（1777）に編集し、序文を作成。武如達が 1963 年に書き写した。

表紙○・阮族家譜序（3-5 頁）・清軒堂叙事集〔国音〕（7-31 頁）・奏効正妃疏（33-41 頁）・先諱日譜記（43-45 頁）・阮家先譜畧（45-64 頁）・清穆堂自序（65-66 頁）・清穆堂叙録（67-132 頁）・清穆堂名譜（133-138 頁）

「阮族家譜序」は、「特進金紫榮祿大夫侍内正言工部右侍郎嗣孫阮廷琦」が「皇黎朝景興三十八年仲秋」に書いた。清軒堂は阮廷琦である。「清軒堂叙事集〔国音〕」も景興 38 年（1777）に書かれた。家譜において、廷琦は六代祖に該当し、彼の長男である瑯は景興癸酉科（1753）に郷貢となった。家譜は瑯を「是本祖」と称し、彼の三男である清穆堂も「是本支始祖」と称される。瑯は、鄭・慈愷との間で、9 男 1 女

³² 途中、切れている。

をもうけたが、第七男である盛のひ孫、圭（1857~?）が己丑科進士（1889）である。清穆堂の家系は書かれていない。「清穆堂自序」・「清穆堂叙録」・「清穆堂名譜」はすべて明命元年（1820）に書かれた。19世紀後半あるいは20世紀前半の写本か。138頁に「越南民主共和十八年」に武如達が正本に依拠し書き写したとある。

[192] 2437 阮族家譜 Nguyễn tộc gia phả A.670 : 13代孫阮奎が編集し、壬辰年（?）に序文を作成。

表紙○・阮族家譜序（3-4頁）・新輯家譜序（5-8頁）・阮族家譜（9-40頁）・阮家告祭文式（41-46頁）

「阮族家譜序」は「皇朝歲次壬辰仲春」に書かれた。「新輯家譜序」は十三世孫秀才阮奎が「皇朝世在壬辰秋季」に執筆した。まず「新輯家譜序」の中に「至嗣徳三十五年（1882）正月十六日復造三間」という内容がある。八代祖の阮致恭（1678~1746）は1703年に進士となった。そのひ孫の（十一代）春陽の生没年は1772~1828年である。壬辰は1892年である可能性が高い。

[193] 2438 阮族家譜（西僑譜記） Nguyễn tộc gia phả (Tây Đam phả kí) A.2357 : 重複（[194] A.1500）

[194] 2438 阮族家譜 Nguyễn tộc gia phả A.1500 : 阮弘毅が嗣徳6年（1853）に編纂。

表紙○・阮族家譜序（3-5頁）・家譜略五言（6-10頁）・修譜総説（11-13頁）・西僑功臣阮族家譜卷上（15-37頁）・阮族家譜卷下（39-83頁）・家譜略編（85-89頁）・丙支家譜略編（90-92頁）・本族后忌（105-108頁）・后忌口数（190-112頁）・祠堂歳辰享祀祭文（113-123頁）

表紙に景興21年（1760）に長支阮有草が「承抄正本」とある。「阮族家譜序」に嗣徳6年（1853）に阮弘毅が著したとある。

[195] 2439 阮族家譜 Nguyễn tộc gia phả VHv.369 : 希思が編集。

表紙○・又安宜春阮家世譜（+希思の年報）（3-45頁）・阮家支派（45-58頁）・家譜（59-65頁）・添差翰林院承旨春嶺伯謹（71頁）・裏表紙（72頁）

希思の名は阮儼（1708~1775）である。「又安宜春阮家世譜」の最初に「裔孫希思編纂」とある。希思、つまり阮儼（1708~1775）は1731年に進士となった。儼の長男である侃（1760~1768）は1760年に進士となっている。裏表紙には「先考遜齋公」について「景興三十四年癸未九月壬戌二十四日戊寅亥丑辰生、明命五年甲申（1824）六月末十八日子辰卒」とある（ただ年癸年は景興24年（1763））。嗣徳5年（1852）に祠堂を建てたという情報がある。

[196] 2440 阮族家譜 Nguyễn tộc gia phả A.1860 : なし。

表紙×・遺詔など（1-19頁）・省属生祠碑文（21-32頁）……（-119頁）
文集類。

[197] 2441 阮族家譜系記 Nguyễn tộc gia phả hệ kí VHv.2577 : 裴接が1964年に再書。

表紙×・阮族家譜系記（1-39頁）・春秋会忌祭文（41-42頁）・阮公碑記（成珍）（43-48頁）・報答碑記（49-52頁）・祭例事儀（53-58頁）・恵田各所（59-63頁）・本支譜記（65-66頁）・時祭儀節（67-71頁）・裏表紙（72頁）

「阮公碑記」は正和20年（1699）に書かれた。「報答碑記」・「祭例事儀」・「恵田各所」は正和18年（1697）に作成された。「本支譜記」は正和20年に書かれた。この家譜は「子孫中心」の形式であり、始祖を第十一代とする。ただ「顕祖」の雅鎮は、黎克純（1668~1730、1710年進士）の娘を庶室として迎え、その間で四男を生んだ。その次男である成春の生没年は1749~1813年である。「本支譜記」には、「己未年五月二十七日京北道順安府嘉林県場鉢社前総兵使司総兵詹事林寿侯、阮族甲支長曾孫阮成○乙支長阮成春……全族等重記家訓具列各条」とある。京北道は明命12年（1831）の行政改革により北寧省などになった。そうすると、この己未年は1799年となる。成春の兄の珲が「顕伯考」と称されるため、成春が「顕考」となるべきであるが、世代数を数えた時、第三代となる。実際成春の長男、成忠が「顕考」となっている。ベトナムでは自分を「第一代」と数え、その結果「高祖」が「五代祖」となることはしばしばある。成忠は73歳で乙丑年に死んだ。そうすると、1793~1865年という生没年が想定されるが、あまりにも成春のそれとかけ離れている。

※妻接は〔172〕にも登場する。あくまで「承抄依原文」している。

[198] 2442 阮族譜 Nguyễn tộc phả A.3190 : 阮有翼が編纂し、明命 17 年 (1836) に序文を作成。

表紙○・呈状為被本坊人擅売土与他人 (景興 2 年) (3-5 頁)・理断売土訟事 (景興 2 年) (7-8 頁)・嘱書・売買文書 (永盛・保泰・景興・光中・景盛年間) (9-55 頁)・江湖雜記 (57-107 頁)・阮族家譜図引 (109)・阮族家譜序 (111-113 頁)・譜引 (113-117 頁)・阮派家譜世次之図 (119-131 頁)・阮派家譜詳編先祖忌日 (133-149 頁)

「譜引」は、明命 17 年 (1836) に監守祠堂阮有翼が書き、親弟阮有志が写した。家譜の中で、有志は珥 (1745~1824) の次男とされる。珥の長男である朋 (つまり有翼)、は「祖考」と称され、その生没年は 1772~1836 である。有翼の息子=「顕考」は、有章である。その妻=「顕妣」の胡・慈柔は嗣徳 31 年 (1878) に死んで、息子の卓が嗣徳 35 年 (1882) に改葬を行った。

[199] 2443 阮族譜記約誌 Nguyễn tộc phả kí ước chí VHv.588 保大 3 年 (1928) に書き写された。

表紙○・立譜約誌 (3-10 頁)・祭祖先文 (11-13 頁)・阮族全四支奉事 (14 頁)・阮族譜記 (15-30 頁)・阮文蓮奉事分支 (31 頁)・家系図 (34-35 頁)・阮書架分支 (36 頁)・阮文来分支 (37-38 頁)・阮文間分支 (38-42 頁)・為嘱誌事 (43-44 頁)・葬妣墓 (45-51 頁)

「立譜約誌」は、保大 3 年 (1928) に作成された。「為嘱誌事」は維新 4 年 (1910) に書かれた。

[200] 2444 光裕堂阮族譜記 Quang Dị đường Nguyễn tộc phả kí A.1889 : 阮旺が編纂。策軒寿域が校編。徳旺が筆写。

表紙○・前冊光裕堂譜図 (3-6 頁)・阮氏世譜前冊壺 (7-18 頁)・光裕堂第五世乙支附録 (19-32 頁)・阮氏世譜前冊式 (33-51 頁)・慶裕堂第五支分支略録 (52-60 頁)・表紙 (慶裕堂) 阮氏譜記 (60 頁)・河内城 (61-62 頁)・譜例考 (63-65 頁)・阮族譜叙説 (65-67 頁)・新編光裕堂宗派事寔叙 (68-73 頁)・阮族家譜序記 (73-75 頁)・清軒堂叙事集 [国音] (76-95 頁)・奏劾正妃疏 (96-98 頁)・政歌 (99-102 頁)・慶裕堂扁文 (103-107 頁)・先諱日譜記 (107-109 頁)・清穆堂自序 (109-110 頁)・清穆堂叙事録 (111-187 頁)・清穆堂名譜 (188-191 頁)・阮族名譜 (192-209 頁)・裏表紙 (210 頁)

表紙に「竜飛戊午季春月吉日」・「支孫池亭生徳旺書于本館」とある。「阮氏世譜前冊壺」は「支孫策軒寿域」が稿編した。「光裕堂第五世乙支附録」には、「節録解元公新編、吏目琨校補」とある。家系図によれば、寿域の兄は国寔であり、景興 8 年 (1747) に書算科に合格し、県丞となった。そして家譜には、寿域が辛卯科 (1771) 解元であつたという情報がある。(十代) 寿域一 (十二代) 琨が編纂したものを旺が総合したものであると思われる。「阮族名譜」は維新 6 年 (1912) に阮旺が書いた。したがって、戊午年は 1918 であると思われる。

[201] 2445 阮族譜記 (無題) Nguyễn-tộc-phả-kí (Vũ đế) VHv.1751 : 成泰年間 (1889~1907) に撰述。文集類³³。

[202] 2446 阮族譜記 Nguyễn tộc phả kí A.666 : 阮材が編集し、嗣徳 18 年 (1865) に引を作成。

表紙○・阮大族譜記引 (3-6 頁)・阮族譜記 (7-53 頁)・附記大宗祠堂奉事對聯列編 (53-54 頁)・小宗祠堂奉事對聯 (55-56 頁)・先祖祭文各節 (57-62 頁)・本族春秋祭聖文 (62-66 頁)

「阮大族譜記引」は、「遠孫阮材」が嗣徳 18 年 (1865) に書いた。ただ、家譜の中で、阮材の弟である舜平を「我曾祖」と呼んでいる。材と舜平の祖父は琳であり、「次支六代祖」と称される。その兄である性は「長支七代祖」と書かれ、世代数がおかしくなっている。その性から五代に渡る長支系について書いているものの、「舜平」の家系については全く書いていない。

※明らかに改ざんの形跡がある³⁴。

³³ 成泰年間の「文詞」と訴訟文書。

³⁴ 家譜によれば、阮族の始祖は阮珩 (1490~1564、1532 年進士) である。その息子である阮良 (1519~1586) は 1550 年に進士となった。ところで、阮良の孫が阮倣 (1674~1735、1700 年進士) であると述べている。一見して生没年が合わないこと

[203] 2447 阮族世譜 Nguyễn tộc thế phả A.1765 : 重複 ([184] A.653)

[204] 2448 阮族世譜 Nguyễn tộc thế phả VHv.1753 : なし。

表紙○・恭録先考醇静公³⁵行状誌言 (3-7 頁)・凡例五則 (9-11 頁)・恭録先考醇静公行状四十二年年表 (13-18 頁)・恭録尊諡 (19-22 頁)・本支世次 (23 頁)・恭録先考醇静公行状 (25-31 頁)・恭録慈闈懿範小引 (33-36 頁)・慈闈懿範恭録先妣小伝 (37-40 頁) 行状類。

[205] 2450 阮族世次家譜編記 Nguyễn tộc thế thứ gia phả biên kí A.2699 : なし。

表紙×・阮族世次家譜編記 (1-14 頁)・第六代祖考尚郡相公登黎朝辛未進士科正榜承抄 (15-23 頁)・稟啓 (24-47 頁)・尚郡官正夫人親生父母碑記 (47-48 頁)・尚郡官女子后神碑記 (49-50 頁)・甲支自八代祖丙午科解元侍講兵部左侍郎慎忠男 (51-52 頁)・大族祠堂事例編記 (53-57 頁)・仲諸祭礼俟知礼君子然後可行茲例 (57 頁)・文契類 (嗣徳 3-18 年) (59-66 頁)・阮族祠堂祭文略叙次世譜 (67-73 頁)・再請先賢配享列位 (73-77 頁)・丁支小尊先秋祭文 (78 頁)

「辛未進士」は阮文濯 (1598~1672) であり、辛未年は 1631 年である。家譜の中で文濯は六代祖に当たる。「丙午科解元」は文濯の孫 (=八代祖) にあたる智識 (1651~1680) であり、丙午年は 1666 年である。そのひ孫 (=十一代) に当たる輝瑜 (1749~1830) は、1783 年に郷貢となった。輝瑜の第三男、汪の生没年は 1791~1853 年であり、その次男である輝榮の生没年は 1823~1894 年である。輝榮は秀才という肩書を持っていた。そして輝榮の正室阮・温和と側室阮・妙重の生没年はそれぞれ 1830~1902 年と 1825~1907 年である。

[206] 2451 阮致族家譜 Nguyễn Trí tộc gia phả A.669 : 維新 2 年 (1908) に筆写。

表紙○・阮致族家譜 (1-12 頁)・分派家譜 (13-16 頁)・家用常行礼序 (17-32 頁)

「維新貳年 (1908) 歳在戊申玖月十八日、阮族為旧家譜世遠言湮、陳簡錯可歴詳述以便乎……」とある。

[207] 2458 阮子家譜 Nguyễn tử gia phả A.1391 : 阮子恣が編集し、嗣徳 5 年 (1852) に序文を作成。嗣徳 乙亥 (1875) に重訂した。

表紙○・序 (2-4 頁)・凡例 (5-9 頁)・重訂家譜叙語 (10-11 頁)・世代長編疑式 (12-13 頁)・譜記 (14-26 頁)・長編 (27-87 頁)・本貫歴代沿革備考 (89-90 頁)・本族先代旁親備考 (91-93 頁)・第二代登科公行状略記 (93-96 頁)・第三代出支行状 (97-109 頁)・本社券約二十四条 (景興 33 年) (110-139)・郷礼俗例儀式 (139-147 頁)・追記共事辰姓名 (景興 28 年) (147-152 頁)・李氏口軒范書 (152-158 頁)・第六代第七系行状 (嗣徳 29 年) (159-183 頁)・祠堂修理 (嗣徳 28 年) (185-198 頁)・本宗九族王服正服 (200-201 頁)・妻為夫族服図 (202-203 頁)・妾為家長族服之図 (205 頁)・出妻女為本宗降服之図 (207 頁)・阮子濟奉計 (208 頁)・下支第一代之外族譜記 (209-214 頁)・下支第二代之祖外宗譜記 (215-219 頁)・下支祠堂諸置忌田列位附記 (202 頁)

表紙には「阮子衰」が「嗣徳五年 (1852) 壬子夏編成、嗣徳二十八乙亥 (1875) 重訂」したとある。これを阮子濟が「奉検」した。「序」は「紹治辛丑恩科舉人原知果」の子恣が嗣徳 5 年に書き、「乙酉科秀才子彦・庚戌科秀才子序・戊申科舉人子亨」が会訂した。子彦と子恣 (1816~1901、1841 年舉人) は兄弟であり、その父親は第三系の支派祖の式である。子亨 (1825~1870、1848 年舉人) は第七系に属する。第五系に属する子序 (1822~1858) の兄、子塾 (1816~1867) の次男が子衰であり、1845 年に生まれた。家譜の中に子濟は見当たらない。

が分かる。さらに阮傲の本籍地は清化省農貢県香溪社である (『大越歴朝登科録』による)。また、[104]『香溪阮氏丙別支家譜』、[105]『香溪阮氏家譜』、[74]『徳沢阮氏家譜』などによれば、阮傲は潘佐忠の第四男である。潘佐忠はもともと何氏であったが、ハノイ徳沢社の潘氏の養子となった。その第四男である阮傲は、潘佐忠の妹である何氏騰の養子となった。何氏騰の夫、阮有法の姓に従って阮氏となった。

³⁵ 僊 (1760~1811) である。正室潘氏碧 (1770~1810) との間で、長女氏芳 (1790~?)、長男伝 (1794~?)、次男保 (1799~?) をもうけた。[190] の阮保と関係があると思われる。

[208] 2460 月盞劉氏家譜 Nguyệt Ánh Lưu thị gia phả A.811: 劉暉(号は可斎)が編集し、景興 42 年(1781)に序文を作成。

表紙○・続編家譜(3-6 頁)・続編青池月盞劉族家譜記(7-63 頁)・劉氏外族各支譜記(63-81 頁)・自叙(81-110 頁)・附記所生男女日月于後(110-115 頁)

「続編家譜」は、劉暉([136] 参照)が景興 42 年(1781)に書いた。家譜の中に暉の長兄と次兄について「我親兄」と「我第二兄」と称している。しかし「附記所生男女日月于後」では、暉が「顕考」とされる。その息子の琅(1785~1862)と璠(1787~1851)は二人とも 1821 年に挙人となった。

[209] 2461 月盞劉族世譜 Nguyệt Ánh Lưu tộc thế phả A.650: なし。

表紙○・劉族前譜記(3-28 頁)・劉氏族譜記(28-46 頁)

[136]と同様、劉揆(1811-?)を「顕考」としている。揆の一人娘、氏棣の夫について「阮御史侯長子」としている。[136]は彼を「挙人阮瑄(不明)」と書いている。揆の弟である盛の生没年は 1822~1892 年であり、その次男の没年が 1906 年である。

※「劉族前譜記」は[136]と[208]と同様であるが、世代表示タイプに大きい相違が見られる。[208]は「自己中心タイプ」であるが、[136]と[208]は「祖先中心タイプ」である。世代表示タイプについては[末成 1995]を参照されたい。

[210] 2464 月東阮家世譜 Nguyệt Đông Nguyễn gia thế phả A.1135: 阮知遠(字疏通、号鄂池、別号鶴客)が編集し、維新 9 年(1915)に序文を作成。

表紙×・重修月東阮家譜序(1-5 頁)・凡例(6-17 頁)・世系瓜瓞全図引(18-19 頁)・家系図(19-22 頁)・世系源本支派図表(23-51 頁)・本文(一~十三代)(53-240 頁)・編年花甲記(241-253 頁)・皇朝官制略編(253-256 頁)・襲蔭例略(256-258 頁)・金江阮家世譜例録(258-260 頁)・家規新約(261-270 頁)・裕祭文(270-276 頁)・忌日恭記(277-279 頁)・世表年表略編(280-281 頁)・第十四代甲支(知遠本人与家族)(283-297 頁)・第十五代甲一二三(299-305 頁)

「重修月東阮家譜序」は、「十四代孫知遠」が維新 9 年(1915)に書いた。知遠は 1861 年生まれである。

[211] 2476 御制玉譜記 Ngự chế ngọc phả kí VNv.241: 景興 41 年(1780)に阮譜と黎朝廷臣等が編集。鄧春卿が 1962 年に筆写。

字喃³⁶

[212] 2551 蕊溪楊家世譜 Nhị Khê Dương gia thế phả A.3009: 第 8 代孫の瑞潮が編纂。阮堅甫が明命 12(1831)に跋を作成。第 10 代孫の楊伯恭(号は良亭)が明命 13 年(1832)に続編を書き、序文を作成。伯恭は明命 14 年(1833)に凡例を作成。

表紙×・良亭楊先生乃黎朝進士參政公之五世孫也……(1-4 頁)・賀本県蕊溪楊貴侯登進士……(5-32 頁)・未詳①(33-36 頁)・凡例(37-39 頁)・歴代年表(40-55 頁)・楊家世譜口引(56-71 頁)・蕊溪楊家世系卷之一(73-77 頁)・蕊溪楊家世系卷之二(79-129 頁)・跋(131-133 頁)・譜後引(135-136 頁)・正和四年癸亥科進士十八名(137-138 頁)・勅命類(139-161 頁)・芸文類(161-190 頁)・未詳②(191-198 頁)

「凡例」は伯恭が明命 14 年(1833)に作成した。「歴代年表」は弘定 15 年甲寅(1614)から嗣徳己未(1859)までを表す。「蕊溪楊家世系卷之一」は「第八世庶孫瑞潮」が編纂し、「第十世庶孫伯恭」が「続次」した。「蕊溪楊家世系卷之二」は「第八世長孫瑞潮」が編纂し、「第十世長孫伯恭」が「続次」した。

「跋」は丁未科進士阮堅甫が明命 12 年(1832)に書いた。黎朝進士參政公は黎公度(1640~1702、1683 年進士)を意味する。「蕊溪楊家世系卷之一」は始祖の福善から五代祖の寛毅までを扱う。寛毅の長男は真

³⁶ 3 頁に「臥冬至臆近没辭次罕近没年号景興御制玉譜記羅牌記希諱玉譜(Người đồng chí thảng mười một năm thứ bốn mươi một niên hiệu Cảnh Hưng Ngự chế ngọc phả kí là bài kí vua dựng ngọc phả)」とある。太祖から昭統帝までの記録は[123]『黎皇玉譜』とはほぼ一致すると推測される。

儒であり、公度は次男に当たるため、「卷之一」で瑞潮（1710~1785）と伯恭（1795~?、1821 年挙人）は「庶孫」と自称した。ただ、「卷之二」に世次十として伯恭の伝がたっており、「歴代年表」で追記された己未年（1859）までの記録があると推量される。

[213] 2552 蕊溪阮氏家譜 Nhị Khê Nguyễn thị gia phả A.944 : なし。

表紙○・蕊溪阮氏大宗家譜（3-264 頁）

「故黎試中三場」という表現があることから、阮朝の写本であることが分かる。ただし、阮廌が六代祖となっており、阮廌が亡くなった翌年に生まれた鸚鵡から五代孫までの家系が記されているぐらいである。

Ô

[214] 2599 翁亭武族譜記 Ông Đình Vũ tộc phả kí A.1166 : 嗣徳己未（1859）に編纂された。

表紙×・翁亭武族譜叙（1-4 頁）・奉土神対帖（5 頁）・武家譜記（6-24 頁）・câu đối（25-26 頁）

「翁亭武族譜叙」に「嗣徳十二年己未（1859）秋成編壬戌（1862）春重訂」とある。「顕祖」伯盛（1773~1851?）と阮・慈景（1774~1840）の間には、氏熙（1796~1822）、伯康（1804~?）、伯竜（1807~1827?）、伯奮（?~1827）、伯間（1810~?）がいた。「長嗣」した伯康には「男某女某」とある。そして伯間は「別為小宗」となったと書いてある。編纂者は伯間の息子か。

P

[215] 2603 范宗家譜 Phạm tông gia phả A.1368 : 第七代孫范廷により嘉隆 14 年（1815）に筆写された。
コピーなし。

[216] 2603 范宗家譜 Phạm tông gia phả A.1165 : 陽和 9 年（1643³⁷）につけられた序文がある。

表紙○・范宗家譜叙引（1-4 頁）・丞相范公年譜題辭（5-6 頁）・諭祭文（6-7 頁）・吏部薦恩命事（9-10 頁）・范相公遺跡（11-25 頁）
文集類。

[217] 2607 范大王玉譜 Phạm đại vương ngọc phả A.706 : 武輝盛が誌を作成。

表紙○・范大王玉譜（3-27 頁）・陳朝封贈等加贈（27-31 頁）・詩云（31-33 頁）・慶成祭文（33-34 頁）・対聯（34-38 頁）
神譜類。

[218] 2609 范家世譜乙支 Phạm gia thế phả át chi A.911 : 維新 9 年（1915）に再写。

表紙○・家系図（3-8 頁）・唐安丹鑾范家世譜引（9-13 頁）・本文（13-60 頁）・新輯第三支（61-70 頁）・奉輯本支屬於大利坊祠堂世次（70-74 頁）・裏表紙（76 頁）

「唐安丹鑾范家世譜引」は、「坦明公第十一世孫范廷琥」が明命元年（1820）に書いた。裏表紙に「維新 9 年（1915）」とある。

※「譜引」は [75] を参照されたい。

[219] 2615 范氏家譜 Phạm thị gia phả A.1833 : 范福基が引を作成。

表紙○・盟詞（3-4 頁）・范家譜引（5 頁）・本文（6-23 頁）・丙分作具（囑書：景盛 2 年）（25-34 頁）・丁卯年正月初四日甲乙丙等均作内外忌分（35-36 頁）・范惟家先墳図本社（37-45 頁）・本文（46-48 頁）・辛巳年正月初三日為編高舍社〔外譜〕家先忌日（49-58 頁）・囑書（嘉隆 2 年）（49-58 頁）

「盟詞」に「甲子科中四場范福基詞」とある。「范家譜引」に「福安県乙県堅徳子范筆列内外忌臘遺列」とある。家譜によれば、范福基は「顕高高高高祖」に当たる。そして堅徳は甲戌年に生まれ、「侍黎朝右

³⁷ [漢喃遺産] には 1627 とあるが誤りであろう。

番進功庶郎」であった。「范惟家先墳図本社」には堅徳の父親、福善が「顕考」となっている。「丙分作具」は、范維聡と妻阮氏柔の遺言状である。維聡は福善である。阮氏柔の父親は、丁丑科第三甲同進士の「法卿」であるが、特定できない。ただ嘱書の日付は「景盛 2 年（1794）」であり、福善の子供、堅徳（＝允謹）、乙女、廷旺に財産を分配している。家譜によれば、堅徳は甲戌年に生まれたので、1754 年であることが分かる。堅徳の長男、允謙は 1790 年生まれで、その第四男、允認の生年は 1821 年である。

[220] 2616 范氏世譜 *Phạm thị thế phả* A.1197：景盛乙卯（1795）に凡例が作成された。

表紙○・族譜凡例（3-4 頁）・范氏世系（5-364 頁）・略載列先登第（365-366 頁）・続載本族登第（366-368 頁）

「族譜凡例」は「歳在乙卯孟夏穀日」に「顕考」が書いた。「范氏世系」の最後（364 頁）に「十二世孫光邁」が「丙午紹治 6 年（1846）」に書いたとある。家譜によれば、光邁は景興 38 年（1777）に生まれた。「顕考」と称される光邁の父親、呉の生没年は 1740~1810?年である。

[221] 2618 范族丙支第三派譜 *Phạm tộc bính chi đệ tam phái phả* A.1029 范廷榮が同慶 3 年（1888）に志を作成。

表紙○・范族第三支乙派譜記（3-4 頁）・後編列外譜（5-21 頁）・外譜附編（23-30 頁）・祭文類（37-64 頁）

「范族第三支乙派譜記」は、「丙支第三派孫廷榮」が同慶 3 年（1888）に書き、同派の婿子陶伯発が「成泰 4 年（1892）」に書き写した。ただ、家譜の中で、廷榮は「堂伯」とされる。むしろ「顕考」は、廷榮の兄、尊である。尊の息子は廷整である。

[222] 2619 范族家譜 *Phạm tộc gia phả* A.1646：范進が撰述。

表紙○・范族家譜（1-6 頁）・賦意疏（6-9 頁）・寿丁説（9-31 頁）・楊礼劉平伝³⁸（33-54 頁）
主要人物のみ³⁹。

[223] 2619 范師孟世譜 *Phạm sư mệnh thế phả* VHv.1348：范進が撰述。

表紙×・范族家譜（1-4 頁）・賦意疏（5-7 頁）・寿丁説（7-31 頁）・嚴姓家稽序（33-34 頁）・伝（肇昌公-寿期公）（34-67 頁）

「嚴姓家稽」は、嚴益が黎景統元年（1498）に書いた（[154] 参照）。寿期公の生没年は 1877~1931 年である。その父親、慎泰公の生没年は 1824~1888 年であり、1852 年に秀才となっていた。范進は見当たらない。

[224] 2619 范族家譜 *Phạm tộc gia phả* A.2420：重複（[222] A.1646）

[225] 2620 范族家譜 *Phạm tộc gia phả* A.2301：范伯先が癸亥年に編集。

表紙○・忌日文儀（1-15 頁）

表紙に「長支族范伯先」が癸亥年に書いたとある。「黎朝」と「皇朝」という表現が使われているため、阮朝であることが分かる。その候補としては、1863、1923 年がある。

※祭祀用備忘録であるため、忌日だけ収録。家系は判然としない。

[226] 2623 范族譜記 *Phạm tộc phả kí* A.1259：寿禎が序文を書いた。

表紙○・世次備考（3-4 頁）・述譜系序（5-6 頁）・統譜系序（7-8 頁）・重修譜序（9-10 頁）・譜系述編（11-12 頁）・登科録（11-12 頁）・大宗祠堂對聯（15-16 頁）・初四日墓祭文（16-17 頁）・地師告文（17-18 頁）・週年正月初六日省墓告辞（18 頁）・譜系前編（19-110 頁）・譜系統編（111-240 頁）・干支（241-266 頁）・領河寧督總延祐子の文章（明命 15~16 年）（267-276 頁）

³⁸ 字喃で記されている。

³⁹ 范進が書いたのは「賦意疏」と「寿丁説」のみである。

「述譜系序」は寿禎が「歳在辛」に記した。統譜系序は公寛が「歳在庚」に作成した。「重修譜序」は「歳在壬」に書かれた。家譜によれば、寿禎の生没年は1616~1681年であり、1642年に郷貢となった。寿禎の次男である公宅（1653~1716）は、1683年に進士となった。家譜の中に公寛は見当たらない。ただ、「譜系統編」には、「我顕考生三男、我字克慎改光元」とあり、嘉隆6年（1807）に郷貢となったという。光元は1775年に生まれた。その弟の光位の生没年は1785~1840年である。

- [227] 2623 范族譜記 *Phạm tộc gia phả* A.1227：寿禎と蘭亭侯などが序文を作成。
コピーなし。

- [228] 2623 范族譜系 *Phạm tộc phả hệ* A.657：寿禎が序文を作成。

表紙○・述譜系序（3-4頁）・統譜系序（5-6頁）・重修譜序（6-7頁）・族譜凡例（7-8頁）・范族世次譜系（9-232頁）・略載列先登第（233-237頁）・附録本社登第（237-238頁）

「述譜系序」は寿禎が書いた。統譜系序は公寛が書いた。「族譜凡例」は「紹天知府」が書いた。家譜の中に「紹天知府」は「顕曾祖」と称され、名前は世家である。世家は光完（1665~1718、1694年進士）の孫であり、生没年は1739~1810年である。「略載列先登第」の最後の人物は、公満であり。家譜には「公宅公高祖之孫」と称され、嗣徳2年（1849）に進士となったと書いている『大越歴朝登科録』には「光満」とある。この情報より、[219]以降作成されたと思われる。

- [229] 2623 東鄂范族譜 *Đông Ngạc Phạm tộc phả* A.656：范嘉璠が紹治5年（1845）に序文を作成。

表紙○・東鄂范族譜参訂永鑑序（3-10頁）・按…（10-12頁）・范族世系（12-236頁）

「東鄂范族譜参訂永鑑序」は、「嘉璠〔三甲進士〕」が紹治5年（1845）に書いた。嘉璠（1791~?）は1832年に進士となった人物である。[219]の「略載列先登第」最後の「続」に入っている。

- [230] 2623 范氏世系 *Phạm thị thế hệ* A.2020：寿禎が序文を作成。

表紙×・述族譜世系序（1-2頁）・統族譜世系序（2-3頁）・譜系重修記（3-4頁）・族譜凡例（4-6頁）・「范氏世系」（7-45頁）

「述族譜世系序」は寿禎（十世祖）が書いた。「統族譜世系序」は公寛が作成した。「譜系重修記」は紹天知府公が執筆した。43頁に「紹治六年（1846）本支、合議行立春祭先祖礼……」とある。この情報はほかの写本にはない。

- [231] 2624 万福范族世譜 *Vạn Phúc Phạm tộc thế phả* A.2927：維新6年（1912）に序文が作成された。

表紙×・万福范族世譜序（1-5頁）・范族世譜解記（5-8頁）・范族大尊世譜（8-13頁）・范族大宗乙支世譜（13-14頁）・范族大宗丙支世譜（15-16頁）・范族小宗世譜（17-20頁）・范族小尊乙支世譜（20-27頁）・字喃①・②（28-36頁）

「万福范族世譜序」は維新6年（1912）に書かれた。「范族大尊世譜」は六世孫〔范聚・范洽〕が一緒に作成した。家譜の中で、范洽の父親、乙支の文詩は「我父」とされる。文詩と妻褚・妙馨の生没年はそれぞれ1837~1889年と1839~1909年である。范聚は族兄であり、恐らく甲支の属すると思われる。

- [232] 2630 潘族世祀録 *Phan tộc thế tự lục* A.2691：潘輝炯が明命丙戌（1826）に編集。

表紙×・潘族世祀録原引（1-4頁）・潘族世祀録（5-119頁）・本宗祠堂世祀説（120-122頁）・潘族宗祠追替文（123-130頁）・附録（131-141頁）・未詳（143-146頁）・裏表紙（146頁）

「潘族世祀録原引」は「遠孫潘輝炯」が明命7年（1826）に書いた。「潘族宗祠追替文」は輝炯が作成した。裏表紙に、「明命十七年（1836）青威潘溥横海氏拜書」とある。顕祖に当たる文遠（渾、1722~1789）は1754年に進士となった。その長男である文憲（輝益、1750~1822）も1775年に進士となった。家譜の中で、文憲と「顕考」と称され、文憲の長男が潘輝炯である。輝炯の生没年は1775~1844年であり、郷貢に合格していた。溥は文憲の弟であり、1753年に生まれた。

- [233] 2631 潘家実録附家先墳墓記 *Phan gia thực lục phụ gia tiên phần mộ kí* A.1221：潘輝球が景興3年（1742）に序文を書いた。

表紙○・目録（3頁）・潘家譜系序（5-8頁）・潘家世系実録（9-13頁）・甲支世系実録（13-60頁）・潘族乙支世系実録卷之貳（61-65頁）・卷之三（67-82頁）・家先墳墓記（無子息本分田産還宗）（83-90頁）・歴代積年書（91-93頁）

「潘家譜系序」は「甲支十四孫義興府儒学訓導潘輝球」が景興31年（1770）に書いた。家譜には十四代までの記録がある。家譜によれば、潘輝球の生没年は1739~1775年であり、1768年に郷貢となった。球の弟、琰（1749~1805）の孫に輝真がいる。輝真は明命12年（1831）に挙人となった。この年が年号が分かる最後の年である。

- [234] 2632 潘家宗譜 Phan gia tông phả VHv.1340 : 己丑科（1829）副榜潘文雅が編集し、明命10年（1829）に序文と跋を作成。

表紙×・潘家宗譜類編序（1-4頁）・凡例（4-5頁）・潘家世譜類編集（6-77頁）・続編①（78-120頁）・続編②（120-136頁）・跋（137-149頁）・東泰潘族前譜略編（150-192頁）・祠堂対聯（193-194頁）・歴代科官譜（195-198頁）・成泰丁未仲春月次支孫海珠恭金永祠堂碑銘（199-201頁）

「潘家宗譜類編序」は、次支孫己丑科副榜中峯慎斎潘文雅が明命10年（1829）に書いた。「続編①」は潘文柳が「維新5年（1911）」に作成した。「続編②」は孫潘廷壇が作成した。「跋」は次支潘海珠が成泰19年（1907）に執筆した。文雅（1802~1877）は明命10年（1829）に進士となった。家譜の中では「堂叔祖」と称される。文雅の兄、選の一人息子が惟貞であり、「我先考」と称される。惟貞の生没年は1819~1864年である。文雅の弟、固翠の一人息子が海珠である。

- [235] 2636 潘氏家譜 Phan thị gia phả A.807 : なし

表紙×・潘氏家譜（1-10頁）・分支先祖列位（11-184頁）

- [236] 2637 潘族公譜 Phan tộc công phả A.2963 : 潘輝湧が編集。引と凡例を成泰庚寅（1890）に作成。維新元年（1907）に「新編序」を作成。

表紙×・潘族公譜原引（1-4頁）・本族公譜新編序（5-6頁）・本族公譜新編（7-80頁）・列祠典蹟（81-96頁）・左間甲支亡靈列位（98-99頁）・山貫乙支祠堂（100-101頁）・本族祠堂（101頁）・附各所后列（102-106頁）・祭文（106-111頁）・后神碑記（113-114頁）・未詳（115-117頁）・家系図・風水図（118-127頁）・春祭祀儀補擬（129-138頁）・祭期陳設之図（139-140頁）・恭永賀文（141-145頁）・賦（147-150頁）・未詳（151-153頁）・碑文（155-159頁）

「本族公譜新編序」は「第十一世孫山西按察潘輝湧」が成泰庚寅（1890）に書いた。「本族公譜新編」が「平定布政使休致潘輝湧」が維新元年（1907）に書いた。家譜は十五代まで続く。輝湧（1842~1912）は十一代に当たる。

- [237] 2638 潘族家譜 Phan tộc gia phả A.1373 : 潘世立が撰述。伯彦が明命己丑（1829）に序文を作成。潘世永が嗣徳32年（1879）に抄録。

表紙○・潘族家譜（3-4頁）・家譜凡例承列（4-5頁）・潘氏家譜目録（7-11頁）・潘族家譜（12-61頁）・告家先文（63-73頁）・潘家貴叙録之式（75-99頁）・抄（勅類）：正和7、10、16、18年（101-110頁）

「潘族家譜」は伯彦が明命己丑（1829）に執筆した。「潘族家譜」は嗣徳33年（1880）に「後嗣潘世立」が書き「長子范世永」が写した。「潘家貴叙録之式」は「皇朝陽徳万万年之三（1674）」に阮樸が書いた。家譜の中で「祖」と称される仲宗（1807~1849）の孫が世立であり、その長男が世永である。仲宗の子=世立の父親、{卓+爾}の生没年は1837~1910年である。仲宗の長兄が伯彦（1795~1836）であり、明命15年（1834）に挙人となった。

- [238] 2640 潘族譜記 Phan tộc phả kí A.1770 : 潘世奠が明命16年（1835）に筆写。

表紙○・潘族譜記（3-15頁）

潘孚先（?~?、1429進士）の祭祀に関する覚書。

- [239] 2640 潘族譜記 Phan tộc phả kí A.1222 : 重複（[238] A.1770）

[240] 2641 潘族世譜 Phan tộc thế phả A.1766: 銀川子潘仕銀が景興 32 年辛卯(1771)に撰述。

表紙○・辛卯年仲秋穀日潘族八世孫寺卿銀川子照具先祖芳遠口伝来諸先祖考妣祀号与墳塋各処所(3-8 頁)・嘉林県東鄂社潘族銘修(10-26 頁)・祭文類(27-50 頁)

「嘉林県東鄂社潘族銘修」は、「景興 32 年(1771)」に「潘族九世孫寺卿銀川子潘仕銀撰」とある。

[241] 2693 浮溪阮族家譜 Phù Khê Nguyễn tộc gia phả A.3051: 阮有条が嗣徳 31 年(1878)に編集。

表紙○・阮氏家譜序(3-4 頁)・家譜題辭(5-8 頁)・所寄十本詳下(9-11 頁)・譜記新式例説(11-17 頁)・本文(19-118 頁)・附記(外家忌日)(119-120 頁)

表紙に「後裔溪亭菊生静真夫字長軒阮有条」が嗣徳 31 年(1878)に書いた。「阮氏家譜序」は「十代祖述斎公」が「景興 40 年庚子(1799?1780?)」に書いた。阮有条の生年は 1825 年である。

[242] 2739 福陵陳相公世譜 Phúc Lăng Trần tướng công thế phả A.980: 陳伯璋(号は温如)が成泰壬辰(1892)が編集。

表紙○・序(3-7 頁)・誌例(8-11 頁)・本文+家系図(13-460 頁)・忌日逐編(461-465 頁)・旁支及諸故子孟位(466-476 頁)・墳墓略抄(477-486 頁)・附抄申定本族条例(487-489 頁)・祠堂諸節告文体式(490-499 頁)

「序」は「九代孫陳伯璋」が成泰 4 年(1892)に書いた。伯璋は 1853 年に生まれた。

[243] 2767 鳳陽阮宗世譜 Phượng Dương Nguyễn tông thế phả VHv.1354: 阮輝甲が紹治辛丑(1841)に撰述。阮輝璋が保大 17 年(1942)に抄録。

表紙○・鳳陽阮宗世譜序(3-6 頁)・鳳陽阮宗世譜図(7-78 頁)・鳳陽世譜(79-101 頁)・裏表紙(102 頁)

「鳳陽阮宗世譜序」は「庚子恩科解元〔裔孫〕阮輝理」が紹治辛丑(1841)に書き、阮輝璋が書き写した「鳳陽世譜」は「丁未仲秋裔孫輝似」が編纂し、「庚戌孟春裔孫輝儋」が書き写した。裏表紙に「保大 17 年(1942)」とある。家譜の中で輝似は「顕考」と称され、その生没年は 1743~1790 年である。輝似の長男、希仁(文雅)の生没年は 1769~1818 年である。希仁と次室阮・慈妙の間で生まれたのが儋(1822~1902?)である。「丁未」と「庚戌」はそれぞれ 1787 と 1850 となる。「庚子恩科」は 1841 年行われたが、輝理の名は『国朝郷科録』で見当たらない。

Q

[244] 2795 蘭⁴⁰蘭川社杜族譜 Quan Lan Xuyên xã Đỗ tộc phả A.2036: 杜厳が編纂した。嘉隆元年(1802)に写された。

表紙×・杜族世系図(2-3 頁)・杜族家譜序(5 頁)・蘭川杜族家譜(6-24 頁)・蘭川杜族家譜(忌日・墳墓)(25-40 頁)・杜族及各外族修造祠堂譜勸詞(41-46 頁)・杜族条例(46-48 頁)・裏表紙(49 頁)

「杜族家譜序」は杜厳が「皇朝嘉隆元年」に書いたとある。「杜族及各外族修造祠堂譜勸詞」は嗣徳 2 年(1849)に「秀才阮剛蘭川社杜厳」が「拝書」とある。「杜族条例」は、杜有厳が嗣徳 3 年(1850)に書いた。裏表紙に「鄭春燮奉抄依原正本」とある。「蘭川杜族家譜」(13 頁)に「嗣徳六年癸丑五月十三日」に「郷貢付岩社阮致知」が「謹誌」とある。阮致知は杜氏斯の夫である。「蘭川杜族家譜(忌日・墳墓)」(28 頁)に「氏斯妻付岩社郷貢阮致知、生奇圻・秀特・氏恬。奇圻生央特改名剛……」とある。家譜の中で氏斯の父親、延は「考」と称される。延の高祖である興の生没年は 1684~1749 年である。興の第四男、成允(1700~?)は 1733 年に進士となった。そのひ孫にあたる世俊は嗣徳 35 年(1882)に死んだ。「蘭川杜族家譜」の最後(24 頁)に「自春徳(=始祖)生於黎朝永祚八年丙寅(1626)至世俊卒於阮朝同慶三年丁亥(1882?1883?)共二百八十年」とある。「杜(有)厳」と関わる家系は「杜族世系図」だけに現れるが、春徳との関係ははっきりしない。

⁴⁰ 家譜の記述に「蘭今避諱改爲開」とあり、避諱により「蘭」が「開」に改められたことが分かる。「蘭」は嘉隆帝の母である阮慈妃の諱であったため、1803 年から避諱の対象となった。その代わりに、「香」や「関」が用いられた。『漢喃遺産』には「関 Qaun」とあるが、これは避諱の結果を反映したものののだろうか。

S

- [245] 2979 山桐阮家世譜 Sơn Đồng Nguyễn gia thế phả A.1408 : 嗣徳 20 年 (1867) に序文が付けられた。
表紙○・世譜歴代国語歌 (3-7 頁)・告祭文式 (8-13 頁)・阮家世譜序 (14-15 頁)・重輯家譜序 (15-18 頁)・阮家世系原序 (18-19 ページ)・春秋禘祭文 (19-20 頁)・阮氏世譜 (21-118 頁)

「世譜歴代国語歌」は通政使官が書いた。「重輯家譜序」は「十三世孫六科秀才行斎阮忠恒」が嗣徳 20 年 (1867) に書いた。[182] によれば、阮忠恒の生没年は 1803~1876 年である。家譜の中の最後の世代は十四代であり、明厚 (1842~1887) は阮・妙興 (1846~1904) の間で三男二女を生んだ。家譜では、長男の霜について忌日 (五月八日命終) が書かれており、三男の慎についても没年 (庚戌) を書いているため、次男の紹 (1885 年生まれ) が基準であることが分かる。紹の叔母=明厚の妹、氏本の夫である純淑の生没年は 1854~1910 年である。1910 年が年度が分かる最後の年である。

- [246] 2980 山桐阮族世譜 Sơn Đồng Nguyễn tộc thế phả A.636 : なし

表紙○・阮家甲支世譜 (3-56 頁)・阮族乙支世譜 (57-80 頁)・春秋禘祭文 (81-82 頁)

「阮家甲支世譜」は [182] の第八代祖の詞宗 (1644~1692、1664 年進士) を「分支第一祖」とする家譜である。詞宗から第七代祖に当たる従明 (1803~1836) と妻阮・妙鳳 (1809~1884) までを記した。「阮族乙支世譜」の第一祖は明哲 (号は福純、1650~1723) であり、按語に「吾家分支第一祖、祖諱年阮知虞」とある。甲支と同様に八代祖まで記されている。ただ、生没年が分かるのは六代祖の明正 (1793~1846) と妻阮・慈和 (1798~1846) であり、その息子と孫、璵と璠はそれぞれ 67 歳と 42 歳で死んだという。三代祖の雅慎 (1703~1775) から分支する次支は六代まで書かれている。

- [247] 2983 山南安中鄧門世譜 Sơn Nam An Trung Đặng môn thế phả A.1063 : 黎汝梅が維新乙卯 (1915) に記録。

表紙○・鄧門世譜 (3-5 頁)・恭録外鄧氏詳編 (6-10 頁)・附枝 (11-27 頁)・附旁親譜 (28-30 頁)・裏表紙 (30 頁)

裏表紙に、黎汝梅が維新乙卯 (1915) に書いたとある。家譜の中で、第五世祖に当たり「顯祖」と称される珍 (1828~1889) は、嗣徳己卯科 (1879) で挙人となった。その息子であり「顯考」と称される瑋 (1860~1888) と妻武氏の間には娘二人 (氏蘭と氏恵) しかいなかった。黎汝梅は、氏蘭 (1887~1908) あるいは氏恵の夫ではないか。

T

- [248] 3203 新輯驩州石河瓜牙吳氏伝家集録 Tân tập Hoan Châu Thạch Hà Trảo Nha Ngô thị truyền gia tập lục A.3077 : 吳福林が景興 7 年 (1746) に編纂。吳福長が明命 18 年 (1837) に続編を書いた。

表紙×・叙 (1-2 頁)・序 (3-4 頁)・歴代正派之図 (5-6 頁)・統緒原譜 (7-8 頁)・統緒原譜卷之一 (9-74 頁)・附録 (74-90 頁)・漕郡公名記 (91-95 頁)・福亀庵奉道董陽真人名記 (96-99 頁)・吳家集録続編序 (101-103 頁)・驩州石河瓜牙吳氏第九派伝家集録続編小引 (105-106 頁)・世祀嫡派諡号 (107-110 頁)・驩州石河瓜牙吳氏第九派伝家集録続編 (111-146 頁)・彙編 (146-148 頁)・附雜録 (148-167 頁)・跋 (168 頁)・勅 (景興 27、27、30 年) (169-170 頁)

「叙」は「毅軒阮希思」が「景興之戊辰 (1748)」に書いた。「歴代正派之図」は「孫述齋吳福臨」が景興 7 年 (1746) に描いた。「統緒原譜卷之一」に「石河述齋吳福臨洪銘輯著」とある。「吳家集録続編序」は「丙子科進士珠峯」が明命 2 年 (1821) に書いた。「驩州石河瓜牙吳氏第九派伝家集録続編小引」は「孫黙齋吳福長永夫」が明命 18 年 (1837) に作成した。阮希思は阮儼 (1708~1775、1731 年進士) を意味する。吳福臨 (1722~1784、1766 年進士) は儼の弟子である。家譜の中で福臨は第三派の一代に当たる。福長は福臨の息子である。「勅 (景興 27、27、30 年)」は福臨が進士に合格した時に授かった勅である。

- [249] 3204 新輯乂安天禄英留場阮氏大宗総記 (1) 阮族家譜 Tân tập Nghệ An Thiên Lộc Phù Lưu trường Nguyễn thị đại tông tổng kí (1) Nguyễn tộc gia phả A.3161 : なし。
登科録。

[250] 3204 新輯乂安天祿英留場阮氏大宗總記(2) 劉族家譜 Tân tập Nghệ An Thiên Lộc Phủ Lưu trường Nguyễn thị đại tông tổng kí (2) Lưu tộc gia phả A.3161 : 劉達が成泰 6 年(1894)に編集。

表紙×・序(1-5 頁)・劉氏家譜(6-29 頁)・序(30-31 頁)・顯祖礼部郎中劉公譜(32-36 頁)・劉衡甫記(37-39 頁)

「(前)序」は「次孫解元劉公道」が明命元年(1820)に書き、「次支曾孫劉到」が成泰 6 年(1894)に書き写した。「(後)序」は咸宜元年(1885)に仲禎が書いた。「顯祖礼部郎中劉公譜」は咸宜元年に「次支孫劉文善」と「次支曾孫劉文邁」が書いた。「劉衡甫記」は「第三兄劉仲邁」が嗣徳 19 年(1866)に書いた。劉公道(1778~1877)は嘉隆 12 年(1813)に挙人となった人物であり、家譜の中で仲禎(1775~?)を「長兄」と呼んでいる。公道には四名の息子がいて、公遜(試生)・公述(秀才)・公邁(1817~1850)・公選(試生)である。公邁については戊申(1848)秀才・庚戌(1850)挙人とあるが、『国朝郷科録』には見当たらない。

[251] 3204 新輯乂安天祿英留場阮氏大宗總記(3) 阮景家譜 Tân tập Nghệ An Thiên Lộc Phủ Lưu trường Nguyễn thị đại tông tổng kí (3) Nguyễn cảnh gia phả A.3161 : 陽徳元年(1672)に作成された引がある。

表紙×・驩州阮景家記引(1 頁)・驩州阮景家歴代宗図(2 頁)・驩州阮景家記提系図：初祖-顯祖(13 代)(3-61 頁)

十二代に当たり「顯祖」と称される櫛の生没年は 1739~1805 年である。彼の次男、樑の生没年は 1768~1847 年となる。樑には子供が 13 人いた。長男の清と次男の勇は夭折(早没)したため、第三男の達(本総企総)や第四男の治が書いた可能性がある。ただ、家譜では樑も「顯祖」と称される。

[252] 3261 西就阮氏家譜 Tây Tựu Nguyễn thị gia phả A.1038 : 進士阮衡の写本に従い、阮楨が成泰 17 年(1905)に編集。

表紙○・阮氏合族世次之図(3-10 頁)・家譜新譜序(11-12 頁)・譜引(13 頁)・譜例(14-19 頁)・奉録左溪相公旧譜序(20-22 頁)・奉録左溪相公旧譜例(23-25 頁)・唐魁西甲阮族譜誌(27-30 頁)・唐魁西甲阮族乙支譜(31-36 頁)・唐魁西甲阮族乙支分派譜(37-45 頁)・左青威社阮族第九代西就乙支分派譜(45-50 頁)・左青威社阮族第十一代西就乙支分派譜(51 頁)

「家譜新譜序」は「十三世孫西就乙支住持興慶三教寺比丘僧清楨」が成泰 17 年(1905)に作成した。「奉録左溪相公旧譜序」は乙米科(1775)進士阮衡(1750~?)が甲寅年(1794)に書いた。

[253] 3281 石河爪牙吳氏伝家集録 Thạch Hà Trảo Nha Ngô thị truyền gia tập lục VHv.1344 : 重複 ([248] A.3077)

[254] 3339 清藍阮派譜記 Thanh Lam Nguyễn phái Phả Kí A.3184 : 阮廷超が啓定甲子年(1924)に編纂。コピーなし。

[255] 3348 青池裴氏家譜 Thanh Trì Bùi thị gia phả VHv.1343 : 重複 ([256] A.640)

[256] 3348 青池裴氏家譜 Thanh Trì Bùi thị gia phả A.640 : 裴輝壁が撰述。

巻上：表紙○・青池裴氏家譜目次(3 頁)・青池裴氏家譜序(4-10 頁)・校編青池裴氏家譜誌言(12-16 頁)校正編輯(18 頁)・続編凡例(19-23 頁)・裴氏家譜序(24-26 頁)・青池裴氏家譜(28-108 頁)・巻中：外氏列譜(1-19 頁)・瑩兆総誌(21-34 頁)・勅命類(35-120 頁)、巻下：文章類(3-99 頁)・五公遺文跋(101-105 頁)

巻上の表紙に「繼烈堂本」・「丙子年冬仲抄録」とある。「青池裴氏家譜序」は裴壁が戊午年(1798)に書いた。「裴氏家譜序」は永佑丙辰(1736)に「昌嗣」が作成した。「青池裴氏家譜」に「裴昌嗣編輯、庶孫裴壁校閲」とある。巻中・巻下に「裴壁」が書いたとある。裴輝壁(1744~1802)は 1769 年に進士となった。昌嗣(1656~1728)は輝壁の祖父であり、郷貢であった。ただ、表紙にある「繼烈堂」とは輝壁が繼烈侯であったことから起因する祠堂名であり、丙子年は輝壁死後の 1817、1876、1936 の一つである。

[257] 3349 青池黃梅杜氏家譜 Thanh Trì Hoàng Mai Đỗ thị gia phả A.644 : なし

表紙○・青池黃梅杜族譜序（3-5 頁）・杜族家譜（6-36 頁）・賦・韻類（36-134 頁）・公年六十辰嘉隆癸亥一陽月開賀席など（135-144 頁）

家譜の中に、明命 12 年（1831）に山南下が南定になった記録が含まれている。家譜によれば、安斎の生没年は 1744~1826 年である。1803 年には 60 歳を迎えたため、「公年六十辰嘉隆癸亥（1803）一陽月開賀席」は安斎のためのものであったことが分かる。安斎は妻の阮氏瞻（1753~1826）の間で 2 男 2 女（端斎・袞・氏匡・氏永）を生んで、養子を一人（琪）受け入れた。家譜に端斎と袞を除いた三人の生没年の情報がある。琪（1776~1811）、氏匡（1786~1814）、氏永（1792~1814）。

- [258] 3351 清池県延長社阮族家譜（功臣孫監生阮嘗家譜記）*Thanh Trì huyện Diên Trường xã Nguyễn tộc gia phả*（*Công thần tôn giám sinh Nguyễn thường gia phả kí*） A.2267：阮嘗が景興 28 年（1767）に撰述。

表紙×・阮家譜序（1-2 頁）・本文（3-28 頁）

「阮家譜序」に「景興二十八年（1767）」・「河東常信青池延長社功臣孫阮嘗撰」とある。河東省の名称は 1904 年 12 月から使われた。

- [259] 3352 清池阮氏世譜 *Thanh Trì Nguyễn thị thế phả* A.2500：阮望が編集し、嗣徳 9 年（1856）に序文を作成。

表紙×・清池阮氏家譜序（1-4 頁）・凡例（5-6 頁）・本文（7-41 頁）・紹治壬寅春美堂七旬双慶帳文……（42-51 頁）・中書公襄事祭文（嗣徳庚戌）（52-56 頁）・呂安人襄事祭文対聯（紹治乙巳）（57-61 頁）・中書公房：陳姓繼室伝・馮姓繼室伝・三元巨士伝（63-71 頁）

「清池阮氏家譜序」は「玄孫翰林望」が嗣徳 9 年（1856）に書いた。四代祖に当たる中書公（佳境、1767~1850）は景興壬寅科（1782）で稍通に合格し、吏部司務となった。中書の元配は呂・純謹（1775~1846）である。そして中書の次室阮・貞信（1791~1847）の第二男が輝望（1380~?）である。第三男玉燭の生没年は 1834~1864 年である。

- [260] 3352 月盞潘族家譜 *Nguyệt Áng Phan tộc gia phả* A.2638：重複（[259] A.2500）

- [261] 3353 清池阮氏世譜 *Thanh Trì Nguyễn thị thế phả* VHv.1760/1-2：阮仲合が成泰 4 年（1892）に編纂した。

表紙○・Q1：阮氏世譜（1 頁）・清池阮氏世譜例言（3-14 頁）・清池阮氏世譜前冊（15-70 頁）・清池阮氏世譜後冊（71-89 頁）・Q2：清池阮氏世譜後冊二（1-47 頁）・序（49-56 頁）・清池阮氏世譜図（57-64 頁）・[硃点] 奏窃 [臣] ……（95-98 頁）・清池阮氏祠堂記（99-108 頁）・辛卯科南定場拳人榜（109-110 頁）

「阮氏世譜」は「京都印書堂」で成泰辛卯（1891）に写された。「清池阮氏世譜例言」・「前冊」・「後冊」は「十世孫仲合」が書いた。「後冊二」は「曾孫仲合」が書いた。「序」は仲合が成泰 3 年（1891）に執筆した。「清池阮氏世譜図」は成泰 3 年に仲合が書いた。「清池阮氏祠堂記」は「成泰四年（1892）歲在壬辰曾孫乙丑科同進士……仲合」が書いた。仲合（1834~1902）は、1858 年に挙人となり、1865 年に進士となった。仲合の父親=九世祖の文居（1799~1853）は 1831 年に挙人となった。

- [262] 3353 青池阮氏世譜 *Thanh Trì Nguyễn thị thế phả* A.182：重複（[261] VHv. 1760）

- [263] 3353 青池阮氏家譜 *Thanh Trì Nguyễn thị gia phả* Paris. SA. HM. 2109：阮仲合が成泰 4 年（1892）に撰述。

コピーなし。

- [264] 3382 沈家世譜 *Thẩm gia thế phả* A.758：沈徳弘が明命 13 年（1832）に序文を付け、補充した。明命 21 年（1840）に書き写した。

表紙○・世系図序（3-4 頁）・家系図（5-21 頁）・我沈宗図世譜（22-31 頁）・譜録序（33-34 頁）・歴代世譜（35 頁）・東漢以後至晋朝時祖（37-56 頁）・開詔始祖（57-61 頁）・按南來世譜明叙（63-64 頁）・南來譜序（65-66 頁）・読沈家譜序（67-70 頁）・沈氏世譜（71-89 頁）・祠堂密傳諸文（89-91 頁）・先聖師灶神土公辰節儔文（91-93 頁）・沈家世譜卷終（94 頁）

「南来譜序」は明命 13 年（1832）に「三科秀才沈弘字含軒」が作成した。「読沈家譜序」は成泰甲午（1894）に「居士阮徴」が書いた。沈弘は、家譜の中で第七代祖徳弘に当たり、生没年は 1793~1849 年である。弘は明命 12 年（1831）に秀才に合格した。「読沈家譜」は彼の秀才合格の翌年に書かれたと推量される。しかしこの写本には徳弘の次男、徳穩（1824~1865?67?、1848 年挙人）が第八代祖として登場する。家譜の中に、穩の子供たちの生没年があり、末女の氏研の生没年は 1851~1880 年である。ただ穩の長男、沈履坦（1853~?）は 1879 年に挙人となったが、その情報は載せられていない。乏嗣した第四男の恕を除く、次男徳懿、第三男徳愿、第五男徳稔、第六男徳忍には「此支別譜」が付け加えている。この写本の作成者は履坦であると思われる。

- [265] 3573 盛列東邑裴氏甲支列祖行状 Thịnh Liệt Đông ấp Bùi thị giáp chi liệt tổ hành trạng A.942 : 秀才紹間が撰述した。

表紙○・盛列東邑裴氏甲支列祖行状（3-80 頁）・奉編列祖遺壘（81-108 頁）・希哲公遺文（108-350 頁）・奉抄族内古例（35 款）（351-368 頁）・奉編族内諸節忌祭文（369-388 頁）・祭祀儀節（387-389 頁）

「盛列東邑裴氏甲支列祖行状」に「承祀長系嫡孫秀才〔延〕聞謹撰」とある。「奉抄族内古例」は永佑 3 年（1737）に書かれた。家譜によれば、十二代祖に当たる総（1762~1815）は、第二妻黎氏との間で 4 男 5 女を生んだ。その第四男、鳳（1788~1847）に「即延之考也」とある。

- [266] 3575 盛光杜族世次譜記 Thịnh Quang Đỗ tộc thế thứ phả kí A.799 : 杜熙が編集。杜徳廉、杜徳軸が景興 3 年（1742）に校訂。楊立が成泰己丑（1889）序文を撰述。

表紙○・序（3-8 頁）・杜族世次譜記（9-39 頁）・乙支世次譜記（39-78 頁）・略編（78-80 頁）・附編杜族四支譜記（80-84 頁）・附録靈蹟（84-90 頁）・奉編杜族大宗祠堂碑記（90-97 頁）・奉編祠堂對聯（97-100 頁）・奉編族内条例（101-113 頁）・奉編祠堂祀田（113 頁）・祀器（113-115 頁）・奉編族内祀儀（116-117 頁）・名花集詠（117-175 頁）・奉編族時節祭文（175-184 頁）・奉編十二年行遣天神（184-186 頁）

「序」に「族内十二孫〔徳清〕拝誌、乙榜進士大理寺少卿原宣太巡撫山農楊〔名立〕先生撰」・「皇南成泰己丑（1889）」とある。「奉編杜族大宗祠堂碑記」は、景興 3 年（1742）に「大理寺少卿徳熙」が書き、「男徳廉・次徳軸」が一緒に校正した。家譜の中で、第五世の寛量（熙、1612~1700?）の長男が廉、次男が軸であり、それぞれ長支と乙支の始祖となった「乙支世次譜記」によれば、徳清は軸の六代孫にあたる。楊名立（1839~?）は、1864 年に挙人となり 1865 年に進士となった。

- [267] 3582 寿春府三弄総雑誌 Thọ Xuân Phủ Tam Lộng tổng tạp chí A.3129 : なし。
文書集。

- [268] 3583 寿昌東作阮氏世譜 Thọ Xương Đông Tác Nguyễn thị thế phả A.1331 : 阮文理が明命 19 年（1838）に撰述。

表紙○・壽昌東作阮氏世譜（3-36 頁）

表紙に「皇朝□□十六年甲辰春季」・「雲孫拝書」とある。甲辰でありながら 16 年に当たる年号は「成泰」、つまり 1904 年である。

- [269] 3584 寿昌東作阮族玉譜 Thọ Xương Đông Tác Nguyễn tộc ngọc phả A.1712 : 阮多士が維新 8 年（1914）に筆写。

表紙○・寿昌東作阮氏家譜（3-31 頁）・祭祀（33 頁）・族例条編（34-41 頁）・我家譜誌（43-53 頁）・裏表紙（54 頁）

表紙に「皇朝維新歲乙卯」とある。裏表紙に「阮多士」が「維新 8 年（1914）」に正本に基づいて拝抄した。「我家譜誌」は有幹を基準に書かれた。有幹の父親の有措は「顛考」と称され、その生没年は 1810~1886 年である。有幹は有措と継室阮氏軒（1828~?）の間で次男として生まれた。有幹の生年は書かれておらず、24 歳で死んだとある。有幹の弟（=有措の第四男）、有立の生没年が 1864~1894 年である。

- [270] 3587 寿昌阮氏宗譜 Thọ Xương Nguyễn thị tông phả VHv.2136 : 鄧春卿が 1962 年に記録。

表紙○・発迹福墳（3-4 頁）・序（5-8 頁）・宗譜凡例（9-15 頁）・発心福地讃（16-18 頁）・寿昌阮氏宗譜（19-245 頁）・〔附録〕由長支世栄伝述（247 頁）・跋（249-251 頁）・東作坊中寺村界碣（竜徳 2 年）（253-258 頁）・該勘官付断跡（永治 2 年）（259-262 頁）・壺口聯（263 頁）・壺齋自伝（265-278 頁）

表紙に「越南民主共和国拾柒年（1962）」に「首都科学書院中央梅峯鄧春卿」が記したとある。「序」に「皇朝紹治三年癸卯（1843）・成泰八年丙申（1896）秋」に「十世孫貴奉抄・進士按察文理首序」とある。「跋」は辛亥科（1851）進士の黄春洽（1825~?）が嗣徳 7 年（1854）に書いた。阮文理（1795~1868）は 1832 年に進士となった。「壺齋自伝」は同慶丙戌科（1886）举人、貴（1858~?）が書いた。『国朝郷科録』には「阮有貴」とある⁴¹。

[271] 3688 上福仁賢阮相公世譜 Thượng Phúc Nhân Hiền Nguyễn tướng công thế phả A.924 : なし。

表紙○・阮族祠堂対聯奉抄（3-4 頁）・列先忌日（5-17 頁）・阮相公世譜叙（19-21 頁）・第一代図系一始祖付記……（24-216 頁）

「阮族祠堂対聯奉抄」は維新 5 年（1911）に庚辰科進士杜文心、維新元年（1907）段忠定、維新 4 年（1901）に阮文珪が書いた。「阮相公世譜叙」は成泰 6 年（1894）に「孫仲巨仲遠」が「拝誌」し、倩孫原国子館承佐段忠定が「拝撰」した。杜文心は『大越歴朝登科録』に見当たらない。

[272] 3690 上福陳氏家譜 Thượng Phúc Trần thị gia phả A.643 : 陳俊彦が明命 10 年（1829）に撰述。阮仲実が嗣徳 27 年（1874）に引をつけた。

コピーなし。

[273] 3690 上福陳氏家譜 Thượng Phúc Trần thị gia phả A.1001 : 陳俊彦が明命 10 年（1829）に撰述。阮仲実が嗣徳 27 年（1874）に引をつけた。

表紙○・上福陳氏家譜目錄（3-5 頁）・家先序次宗子世紀（7-12 頁）・小宗（13-14 頁）・本支祠堂（15-26 頁）・大宗内族列譜（45-49 頁）・本支内族列譜（51-59 頁）・外族列譜（61-72 頁）・上福陳氏家譜跋（73-78 頁）・本支祠堂対聯（79-84 頁）・上福県文会等賀文甲社陳貴侯進士叙第家門（竜徳二年）（85-105 頁）・竜徳二年癸丑科（1733）進士題名記（106-114 頁）・淡如公詩文遺草（115-156 頁）・文以下代雲齋人挽奉公業師文（157-200 頁）・純質公詩文（201-315 頁）

「上福陳氏家譜目錄」は、長孫陳俊彦が明命 10 年（1829）に書いた。「小宗」は紹治元年（1846）に書かれた。「上福陳氏家譜跋」は、長孫陳静齋が明命 10 年に作成した。五代祖に当たる福盛の第六男が純直であり、小宗の始祖である。純直の次男は、俊偉である。俊偉の孫（=九代祖）が純直（1695~?）であり、竜徳二年（1733）に進士となった。純直の息子と孫がそれぞれ淡（1730~1801、1759 年郷貢）と純質（1747~1794、1771 年郷貢）である。

※引は見当たらなかった。

[274] 3709 仙懷阮族譜 Tiên Hoài Nguyễn tộc phả VHv.1752 : 阮登貺が撰述。嘉隆 13 年（1814）に再写。登科録。

[275] 3715 仙源撮要譜前編 Tiên nguyên toát yếu phả tiền biên VHv.1758 : 啓定 2 年（1917）に印刷。

表紙○・仙源撮要譜序（3-8 頁）・（本文）（9-116 頁）

「仙源撮要譜序」は皇朝啓定二年（1917）に書かれた。

[276] 3715 仙源撮要譜前編 Tiên nguyên toát yếu phả tiền biên VHv.1744 : 重複（[275] VHv.1758）

[277] 3715 仙源撮要譜前編 Tiên nguyên toát yếu phả tiền biên A.3151 : 重複（[275] VHv.1758）

⁴¹ 『漢喃遺産』には、この写本が[269]『寿昌東作阮族玉譜』から抄写したと書かれているが、何を根拠にしているのか明確に書かれていない。『漢喃文献』には「拠『寿昌東作阮族玉譜』重編」とある。

[278] 3740 小杜家譜 *Tiểu Đỗ gia phả* A.645 : なし。※『青池黄梅社杜氏家譜』を見ること。

表紙○・小杜家譜(3-44 頁)・帳文祭文対聯(45-298 頁)

「小杜家譜」(25 頁)に嗣徳 33 年(1880)に「良」が書いたとある。家譜の中で、「考」と称される安斎(1744~1826)の長男、端斎(1790~1862)は明命丁酉科(1837)に挙人となった。端斎と後妻阮・慈順の間では双良と希賢がある。

[279] 3839 陳家玉譜 *Trần gia ngọc phả* A.2046 : なし。

表紙○・陳家世族記序(3-11 頁)・集例(11-12 頁)・世次紀(13-84 頁)・養族各支(85-96 頁)

「陳家世族記序」の最後に「遂以為記序龍輯戊辰孟春上澣、至戊子仲春又抄旧譜」とある。最後のページに「庚寅年季冬月上浣」とある。36 頁に「故黎」という表現が登場し、「実」と「寔」を混用している点から、阮朝の写本であると思われる。阮朝における戊辰、戊子、庚寅は、1808/1868/1928、1828/1888、1830/1890 がある。「世次紀」は陳朝太祖の陳承を基準に始まるが、その 19 代孫に該当する忠悃(1665~1727)は甲子年(1684)に郷貢となり、正和十五年(1694)に知県となった。忠悃以降、純智(1685~1712)―福溪(1711~1787)―宗派(1739~1792)―名銓(1773~1847)の家系が続く。また、この写本に名銓の 3~4 代の子孫も記されていることから、1868(記序)、1888(抄旧譜)、1890 である可能性が高いと思われる。

[280] 3840 陳家世譜 *Trần gia thế phả* A.642 : 舜花氏が編集。陳伯質(字は殷輅)が嗣徳壬子(1852)に続編を書いた。

表紙×・凡例(1-5 頁)・陳家世譜(5-24 頁)・家史統編①(24-33 頁)・家史統編②(33-40 頁)・雲峯公行状(40-52 頁)・辛峯居士先生行状(52-59 頁)・本族登科世次(60-71 頁)

「凡例」には嗣徳壬子(1852)に家孫[伯質]殷輅が続編を書いたとある。「陳家世譜」は舜花氏が作成した。「家史統編②」に「嗣徳三十三年庚辰(1880)、[秀才]陳伯質輯撰」とある。「雲峯公行状」は嗣徳 30 年(1877)に陳伯質が書いた。「辛峯居士先生行状」は辛峯居士の「第三弟礼科給事中」が書いたものを伯質が写したものである。「陳家世譜」は舜花氏を基準に始祖から顕考の陳賢までの家系を記したものである。陳賢(1684~1742)は 1733 年に進士となった。「家史統編①」は舜花氏(1737~1808)を「顕考」と称する。舜花氏の息子、文度(1758~1815)が書いたと思われる。文度は「家史統編②」では「曾祖」と称される。「雲峯公行状」と「辛峯居士先生行状」はそれぞれ伯質の祖父、伯堅(1777~1829、1807 年郷貢)と父親、伯璫(1801~1833)の行状である。辛峯居士の弟であり、伯堅の第三男である山立(1811~1880)は 1855 年に挙人となった。山立の死後、その甥の陳伯質(1831-?)がまとめた家譜であると思われる。

※[307]の「本族登科録」によれば、陳伯質は戊午科(1858)秀才である。

[281] 3848 陳氏家訓 *Trần thị gia huấn* VHV.2958 : なし。

神譜類。

[282] 3849 陳氏家譜 *Trần thị gia phả* A.1480 : なし

表紙×・陳氏家譜卷一(目次)(1 頁)・世次(3-5 頁)・家系図(7-13 頁)・海煥公行状(14-15 頁)・勅文類(景興 44 年-嗣徳 18 年)(17-61 頁)・明命陸年乙酉科北城郷試場郷貢二十八名(63-66 頁)・嗣徳三年庚戌郷科河内士望挙人(67-70 頁)・勅文(嗣徳四年)(71-74 頁)・陳尊家誌(75-96 頁)・附祖外祖忌諱(96-99 頁)・賢婦家忌諱(99-100 頁)・先考陳府君先妣宜人懿行録(101-117 頁)・欽定大南一統志[河内人物](119 頁)・陳家世譜(121-138 頁)・通年忌日(139-141 頁)・外族忌日(142 頁)・祠堂に関わる記録(143-157 頁)

「陳尊家誌」は、「嘉隆万万年之壬戌(1802)」に「十四世孫陳有壙」が記述した。「先考陳府君先妣宜人懿行録」は「男子文為」が明命 16 年(1835)に書き、嗣徳 34 年(1881)に陳輝積が書いた。「陳家世譜」は嗣徳 34 年(1881)に陳輝積が書いた。「世次」の中に、有壙は第十四代祖に当たり、その息子と孫が文為と輝積である。海煥は有壙の父親である。「陳尊家誌」中に海煥は「顕考」と称される。明命 6 年(1825)挙人は文為(1798~1861)であり、嗣徳 3 年(1850)の挙人は輝積(1829~?、1851 年進士)である。

[283] 3850 陳氏家譜 *Trần thị gia phả* A.3053 : なし

表紙×・陳氏家譜序（1 頁）・本文（2-22 頁）

[284] 3851 陳氏家譜 Trần thị gia phả A.1266 : 紹治 4 年（1844）に筆写。

表紙○・序（3-6 頁）・南昌人瑞序（6-10 頁）・陳氏世譜（11-68 頁）

「序」に「皇朝明命二（1821）」とある。「陳氏世譜」は「玄孫陳光釧編撰、雲孫陳光較訂」とあるが、最後のページに「紹治肆年（1844）捌月初捌日手編家譜顯祖光釧命終。嫡孫光稠仍拋祖編写成正本、許族内各抄一本、以明統緒云」とある。

[285] 3851 陳氏家譜 Trần thị gia phả A.680 : 重複（ [284] A.1266）

[286] 3854 陳族家譜 Trần tộc gia phả A.795 : 黎元和元年（1533）に撰述。

表紙×・序（1-2 頁）・凡例（2-3 頁）・本文（4-58 頁）・第十代分支……（59-164 頁）

「序」は「黎莊宗元和元年（1533）」とある。甲支始祖考に当たる世根が庚子科（未詳）郷貢である。家譜の中に生没年が書かれているが、年度を特定できる証拠がないため、推定できない。「序」に「黎莊宗元和元年、迨我族全族十四代孫、会在祠堂、催取各支旧譜、遍查族中世次……」ということから、始祖から十四代に当たる末裔が集まって書いたのではいかと推測される。

※一部のページが混ざっている。

[287] 3855 陳族家譜 Trần tộc gia phả A.772 : 陳文近が成泰 15 年（1903）に序文を作成。

表紙×・陳族家譜目次（2-6 頁）・陳族家譜（7-8 頁）・通年忌日（9-10 頁）・本文（11-244 頁）

「陳族家譜」は第九代孫文近が成泰 15 年（1903）に書いた。陳文近は成泰甲午科（1894）に挙人となった。

[288] 3867 陳朝世譜行狀 Trần triều thế phả hành trạng A.663 : なし。

神譜類。

[289] 3880 知止阮族家譜一本 Tri Chi Nguyễn tộc gia phả nhất bản A.806 : 嚴士敦が撰述。阮廷佳が筆写。作者の序文が同慶 3 年（1888）につけられた。

表紙○・知止阮族家譜卷上：姓氏考（4 頁）・叙（3-8 頁）・目錄（9 頁）・凡例（10-13 頁）・大宗（15-49 頁）・知止阮族家譜卷下：墳墓（52-58 頁）・列先忌日（59-93 頁）・歲辰告文・松軒公遺文（95-157 頁）・德原公遺文（159-171 頁）・春軒公文集（173-272 頁）

知止阮族家譜卷上に「同邑挙人原青河県知県嚴士敦著、嗣孫阮廷佳拝書」とある。「叙」は同慶 3 年（1888）に嚴士敦が書いたとある。嚴士敦は 1878 年に挙人となった。

[290] 3917 鄭家譜記 Trịnh gia phả kí A.2492 : 鄭文週が編集。成泰 10 年（1898）に作成された引がある。

表紙○・鄭家譜記（3-6 頁）・本文（7-15）・祠堂有対聯（16 頁）

「鄭家譜記」の小引は「承重孫鄭文週」が成泰 10 年（1898）に作成した。

[291] 3918 鄭家世譜 Trịnh gia thế phả A.1821 : 鄭機が嘉隆元年（1802）に撰述。

表紙○・鄭家世譜（3-43 頁）・補遺（43-45 頁）・附前四祖睿号並四位夫人並忌辰統記（45-48 頁）・附録列朝某王位生下衆子男女干銜統記（49-60 頁）・正宮廟生辰等礼（61-71 頁）

表紙に「嘉隆元年（1802）八月十日」に「本族権守員本支親侄鄭機承撰」とある。鄭機の家系は不明。

[292] 3919 鄭家世譜 Trịnh gia thế phả A.808 : 鄭春詠が編集。景興 38 年（1777）に序文がつけられた。

表紙×・序（1-8 頁）・凡例（9-11 頁）・内宗正引（12-102 頁）・詳編世譜内外詳引（103-160 頁）

「序」は「文孫東岸華林太堂東知県祭亭男鄭春詠」が景興 38 年（1777）に書いた。家譜の中で「顯考」と称される春澍（1704~1763）は 1748 年に進士となった。春澍は妻丁・慈慧（1711~1761）との間で長男、碩を生んだが夭折し、次男の春泳が後継ぎとなった。

[293] 3920 鄭氏家譜 Trịnh thị gia phả A.641 : なし。

表紙×・管家都博大王神記 (1-5 頁)・金鑑寔録 (5-68 頁)・附録皇上慰祭鄭王文 (69-72 頁)・国朝恩典 (73-74 頁)・叙用例 (74 頁)・原禄例 (75 頁)・賜恤例 (76 頁)・正旦延寿二節 (76 頁)

「附録皇上慰祭鄭王文」は、金鑑進士阮公案が「撰」した。「国朝恩典」に「皇朝嘉隆元年九月二十三日詔、外家嫡派鄭楮欽知……」とある。鄭楮 (1775~1819) は、晏都王鄭槿 (1749~1791) の長子である。阮公案 (1684~1758) は、永盛 11 年 (1715) に進士となった人物である。

[294] 3921 鄭族世譜 Trịnh tộc thế phả VHv.1756 : 鄭燭が編集。嗣徳 17 年 (1864) に序文がつけられた。嗣徳 4 年 (1851) に跋がつけられた。

表紙○ (目次を含む) 序 (2-5 頁)・跋 (5-9 頁)・凡例 (9-12 頁)・王家宮廟之図 (13-16 頁)・奉編諱諡爵号 (17-33 頁)・卷一 : 金鑑集抄 (33-128 頁)

表紙から「序」、「跋」、「金鑑集抄」などにすべて「耳孫鄭燭輯編」とある。「序」と「跋」は「嗣徳 4 年 (1851)」に書かれた。鄭燭は鄭楮の三男である鄭欖の長男である。

※「第十三世」から欠損があり、卷二と卷三はない。

[295] 3923 鄭王譜記 Trịnh vương phả kí A.676 : なし

表紙○・奉撰家譜留伝記註 (3-19 頁)・王家古跡留伝万代 (20-25 頁)・王系列聖留伝代代 (25-35 頁)

作者は未詳。34 頁に「景興」とある。33 頁に「今皇上 諱維祧純宗長子。庚申年即位、辛巳年十二月初五日大明国 封王」とある。顯宗 (1717~1786) の在位期間は 1740~1786 年であり、辛巳年は 1761 年である。つまり、この写本は 1761 年から 1786 年の間に書かれたものである。ただ、「清」ではなく「明」とした理由は判然としない。

[296] 3958 東鄂社重訂潘氏家譜 Đồng Ngạc xã trùng đính Phan thị gia phả A.1768 : 潘仲藩が編集。景興 41 年 (1780) に序文をつけた。

表紙○・重訂家譜 (3-5 頁)・本文 (7-31 頁)・続編 (33-56 頁)・附録外族祠堂 (57-59 頁)・外族日昭祠堂 (59 頁)

「重訂家譜」は「丁丑科第三甲同進士……字仲藩」が景興 41 年 (1780) に「訂」した。潘仲藩 (1735~1798) は景興 18 年 (1757) に進士となった。「続編」は、仲藩の長兄、雅慎 (1721~1785、1747 年郷貢) から始まる家譜であり、家譜の中で「顕考」と称される。しかしその息子の正道 (1748~1800、1768 解元) が「顕祖考」と称されており、その妾鄭氏悦との間で生んだ末子、達応の生没年は 1799~1823 年である。正道は正室杜・慈厚の間で 2 男 (正本・達炳) 3 女 (氏順・氏媚・氏鶴) を生んだ。「附録外族祠堂」で「氏順」は「姨」と称されるため、その甥が主体であることが分かる。

[297] 3981 張嘉祠堂世譜全集 Trương Gia từ đường thế phả toàn tập A.3186 : 張振族が同慶丙戌 (1886) に記録。

表紙○・張家祠世譜目錄 (2 頁)・張嘉祠天始世譜集 (2-4 頁)・張家門第一代世譜集……七代 (4-86 頁)

表紙に「亨川張根族」が同慶丙戌 (1886) に記したとある。

[298] 3987 張氏家譜 Trương thị gia phả A.793 : なし。

表紙○・張家譜録 (3-6 頁)・凡例 (6-8 頁)・本文 (8-28 頁)・戊申年正月二十二日奉先祖墳墓在何処所 (29-32 頁)・附録張族譜系記 (33-40 頁)・附録譜系記 (41-42 頁)・張族先賢先祖列位 (43-58 頁)・祭祖文式 (59-95 頁)・奉撰祭祀礼儀与諸額条例 (97-128 頁)・張祠堂對聯 (129-136 頁)・張公冬夜述懷 (137-180 頁)・裏表紙 (181 頁)

表紙に「戊申正月拾五日」・「張族合支為立家譜正記」とある。裏表紙にも「戊申年正月拾五日敬書」とある。「附録張族譜系記」に「戊申年九月河東省常信府青池県美亭総仁穆旧社下亭村」と書かれている。河東省の名称は 1904 年 12 月から使われたため、戊申年は 1908 であると思われる。

[299] 4000 帳賀碑記行狀雑文（無題） ~~Trương hạ bi ký hành trạng tạp văn~~ (Vũ đế) A.2909 : なし。

文集類⁴²。

[300] 4050 慈安阮族世譜 ~~Từ An Nguyễn tộc thế phả~~ A.946 : なし。

表紙○・慈安阮族世譜（3-32 頁）・外家世譜（33-51 頁）・外家先祖祠堂碑記（53-65 頁）・勅（保泰 3 年）（65-66 頁）・涉履事狀（昭統元年）（77-100 頁）・生墳地局（101-103 頁）・附囑書（105-221 頁）
家譜の中に「先嚴」と称される任（1719~?）の継室、阮・慈禧が生んだ璠（世歴、1750~1829）は 1775 年に進士となった。「附囑書」は、旧進士郷老阮の遺言状である。囑書によれば、嘉隆 14 年（1815）に遺言状を作ったが、いま八十歳となり改めて作った。璠の遺言状であると思われる。家譜の中で璠は景興乙未科（1775）に登第したという情報がある。

[301] 4065 徐氏小宗甲支丁派世譜 ~~Từ thị tiểu tông giáp chí đình phái thế phả~~ A.2925 : なし

表紙×・徐氏小宗甲支丁派世譜（3-5 頁）・後閩族姓根原記（7-10 頁）・先伝世次来歴記（10-30 頁）・横扁（30-42 頁）・河溪徐小宗甲支丁派祠堂碑記（43-48 頁）・徐小尊甲支丁派世譜国歌（49-56 頁）・仲堂世譜（57-60 頁）・先伝次世来歴記（60-71 頁）

2 頁に「我小宗甲支举人徐济乃九世孫奉撰大小宗世譜」とある。「河溪徐小宗甲支丁派祠堂碑記」は「庚辰科進士叫能静」が成泰 2 年（1890）に書いた。「仲堂世譜」は「仲堂会孫……徐渠」が成泰 3 年（1891）に執筆した。徐济は嗣徳 32 年（1879）に举人となった。徐渠の生没年は確定できない。叫能静（1835~1818）は 1880 年に進士となった。

[302] 4134 湘枚阮氏家譜 ~~Tương Mai Nguyễn thị gia phả~~ A.819 : 阮文江が明命 5 年（1824）に撰述。

表紙○・湘枚阮氏家譜序（3-4 頁）・湘枚阮氏家譜（5-266 頁）・阮族附記家譜〔並序〕（267-277 頁）
「湘枚阮氏家譜序」と、「湘枚阮氏家譜」「阮族附記家譜〔並序〕」すべてに、長孫阮文江が明命 5 年（1824）に書いたとある。家譜の中に「顕考」と称される茂松は、「皇朝試生」であり己丑科（1829）郷試の二場で合格しているため、生没年は 1804~1830 年である。茂松の妻杜・妙義の生没年は 1806~1890 年である。時期的に文江が 1824 年に家譜を書くことは難しい。家譜の中に文江の名は見当たらない。

[303] 4137 祥族譜記 ~~Tường tộc phả kí~~ A.1642 : 祥惟瑣が撰述。祥永綵が啓定 2 年（1917）に筆写。

表紙○・祥家譜序（3-5 頁）・歴代世次（5-34 頁）

「祥家譜序」は啓定 2 年（1917）に「十二世孫試生祥惟瑣」が「奉撰」し、「本支試生祥永綵」が「奉書」した。

[304] 4181 〔上福文会〕黄甲丁相公世譜 ~~〔Thượng Phúc Văn Hội〕 Hoàng giáp Đinh tướng công thế phả~~ A.820 : 丁允敦が嘉隆 2 年（1803）に編集。

表紙○・姓氏考（3 頁）・叙（5-6 頁）・凡例（7-9 頁）・墳塋総誌（11-17 頁）・上福丁氏家譜（19-315 頁）・奉編列先忌日（319-325 頁）

「姓氏考」は「孫允敦」が「皇朝嘉隆 2 年（1803）」に書いた。

V

[305] 4210 文族譜記 ~~Văn tộc phả kí~~ A.1926 : なし

表紙×・文族譜記序（1-6 頁）・按（7-8 頁）・一本支譜記（9-50 頁）

「一本支譜記」に「長杜文郎監奉」とある。文郎の父親、文鯨は皇朝において壬寅年と丙午年の恩科で秀才となった。壬寅年に恩科があったのは 1842 年である。したがって、文鯨の生没年は 1808~1854 年と推定できる。

[306] 4218 文舍黎族世譜 ~~Văn Xá Lê tộc thế phả~~ A.679 : なし

⁴² 詩文・雑記・行状に加え、「外家陶氏譜記」（37-38 頁）と「外家陶氏譜記」（39-42 頁）が収録されている。

表紙○・黎族世譜（3-60 頁）・現今在本郷為祠堂仲支（60-66 頁）・黄甲黎公祠堂碑（67-83 頁）・恭錄故黎進士科国子館碑記（景治 8 年庚戌科進士題銘記）（84-114 頁）・先考椿庵府君年譜①（115-116 頁）・先考椿庵府君年譜②（117-134 頁）・遜齋年譜（135-176 頁）・遜齋履歷記（177-182 頁）・恭錄頒彩旗對句八聯（182-183 頁）・祠宇春祭文（183-184 頁）

「現今在本郷為祠堂仲支」に「右本支今為本族祠堂季支述樸齋公編畢」とある。「黄甲黎公祠堂碑」は景興 16 年（1755）に「季男戊戌科進士有喬」が書いた。「先考椿庵府君年譜①」は竜徳 4 年（1735）に「男有謀有喬」が「拝識」し、孫有讚が「拝書」した。「先考椿庵府君年譜②」は「次男有謀」と「有喬」が一緒に書いた。「遜齋年譜」は景興 17 年（1754）に遜齋居士が「自叙」した。椿庵（有名、1644~1675、1670 年進士）の第九男は樸齋（有謀、1675~?、1770 年進士）、第十男は遜齋（有喬、1691~1760、1718 年進士）である。有讚（1722~?、1748 年進士）は有謀の息子である。有喬の長男、有謹の生没年は 1716~1755 年である。

[307] 4221 雲耕陳家世族譜 Vân Canh Trần gia thế tộc phả A.664 : 景興 45 年（1784）に撰述。

表紙○・陳家世譜（3-17 頁）・祭田・祭物（景興 45 年）（17-22 頁）・本族登科記（23-27 頁）・寄附額（田・錢）（27-32 頁）・祭田の寄附（景興 46 年）（34-36）・吏科給事中陳瓚（昭統 2 年）（37-39 頁）・閩族原例（40-42 頁）・後來増減例（43-47 頁）・行禮儀節並祭文忌臘（47-62 頁）・祀田の寄附（紹治 7 年・嗣徳元年）（62-68 頁）・歴代祖墓記（68-69 頁）・外祖諸墓（69-70 頁）・猛祖猛姑諸墓（70-71 頁）・本族諸忌田（71-74 頁）・東閣公忌田疑例（74-82 頁）・祠堂香火諸園池土宅（82-84 頁）・辛峯先生行狀（84-91 頁）・恕齋先生行狀（92-96 頁）・翰林典籍葛海県訓導玉韞先生行狀（97-100 頁）

「陳家世譜」は始祖を十一代と称し、「顕考」まで至る。顕考に当たる丕肇とその妻、阮・慈肅の生没年は 1712~1758 年と 1722~1797 年である。丕肇には二人の息子がいて、長男の仕宣の生没年は 1740~1785 年である。「陳家世譜」は丕肇の次男により編纂されたと思われるが、次男は「生徒」と称するだけで名前を書いていない。「本族登科記」は第六代祖の丕視（1602~1665、本府校生）から陳縁までの情報がある。「辛峯先生行狀」は[280]に収録されている「辛峯居士先生行狀」と同様で、陳山立（1811~1880、1855 年挙人）が書いたものである。恕齋先生と玉韞先生は父子関係にあり、「本族登科記」には山立と山輝（1844~1907）とある。山立は伯堅（1777~1829、1807 年郷貢）の第三男であり、伯質は伯堅の嫡孫である。東閣公は伯堅の父親、文度（1758~1815）である。ただ、「寔」などの表現が登場することから「陳家世譜」は阮朝において書き写されたと思われる。

※[280]は丕視の嫡長男系の家系であり、[307]は丕視の第三男丕保の家系である。

[308] 4223 雲葛黎族玉譜 Vân Cát Lê tộc ngọc phả A.3181 : 阮国貞が黎永寿 5 年（1623）に撰述。保大 15 年（1940）に書き写した。
祭文類。

[309] 4231 雲恬榆林阮族合譜 Vân Diễm Du Lâm Nguyễn tộc hợp phả VHv.2416 : 重複（[310] A.1008）

[310] 4231 雲恬榆林阮族合譜 Vân Diễm Du Lâm Nguyễn tộc hợp phả A.1008 : 阮思僊（文富）が撰述。1962 年に再写。

表紙×・原始（1-4 頁）・前譜第一冊（5-41 頁）・附録（43-45 頁）・前譜第一冊別録（7-22 頁）・前譜第二冊別録附（23-120 頁）・正譜甲冊乙冊別録（121-199 頁）

「雲孫文富〔又名思僊〕述」とある（[309]には「曾孫」とある）。「正譜乙冊別録」は温厚の行狀であり、温厚の父親は端謹である。端謹は 1813 年に挙人となった。阮思僊（1822~1890）は 1844 年に進士となった。

[311] 4245 雲齋阮氏家譜 Vân Trai Nguyễn thị gia phả A.796 : 阮貴算が成泰元年（1899）に撰述。

表紙○・雲齋阮氏家譜卷上：姓氏改説（4 頁）・叙（4-8 頁）・目録（8 頁）・凡例（9-13 頁）・譜系図（14 頁）・世次（15-26 頁）・卷下：墳墓改説（28-29 頁）・墳墓（30-34 頁）・列先忌字（35-36 頁）・字様音義（37-38 頁）・列先忌日（39-42 頁）・節日忌日（43-47 頁）・雲齋阮族追遠壇序（48 頁）・阮

族祀所譜序（49-50 頁）・祠堂對聯（51-52 頁）・族規類（53-56 頁）・祭禮儀節（56-57 頁）・祀所完成祭文（58-68 頁）

「雲齋阮氏家譜卷上」に「平望秀才慶馬阮季算竹亭著、次孫阮德禧拜書、壻孫秀才陳文料拜書」とある。「叙」は「平望秀才慶馬阮季算竹亭」が成泰元年（1899）に書いたとある。陳文料は、德禧の妹、氏雅の夫であり、成泰 6 年（1894）に秀才となった。文料が秀才に合格した後の写本であると思われる。阮季算との関係は判然としない。

[312] 4365 武江社介村黎氏譜記 Vũ Giang xã Cá thôn Lê thị phả kí VHV.1212：黎文妙が撰述。
行狀類。

[313] 4403 武氏家譜 Vũ thị gia phả A.2941：啓定元年（1916）に撰述。武仲珉が校訂し、阮伯活が校閲。
表紙×・武氏家譜考訂伝序（1-3 頁）・（本文）（4-11 頁）
祭文類。

[314] 4406 武族八派図譜 Vũ tộc bát phái đồ phả A.3137：なし。
[144] A.3136 の要約本。

[315] 4407 武族各支家譜 Vũ tộc các chi gia phả A.794：武行権が嘉隆元年（1802）に撰述。
表紙×・本支（1-70 頁）・二支（71-131 頁）・三支（131-244 頁）
「本支」と「三支」の最後（70 頁・244 頁）に「武族長孫武行権」が嘉隆元年（1802）に「奉編」したとある。

[316] 4408 武族家譜 Vũ tộc gia phả A.1254：武陳輝が景興 19 年（1758）に撰述。
表紙○・序（3 頁）・計（3-24 頁）・辛丑年（25-32 頁）・嗣德三十三年（32-37 頁）・嗣德十五年甲支（37-40 頁）
「計」に「武陳輝為編本族世次支属諱忌日辰為家譜一卷」（3 頁）・「皇越景興拾玖年（1758）季秋穀日家譜成」（24 頁）とある。「辛丑年」、「嗣德三十三年（1880）」、「嗣德十五年甲支（1862）」はその以後編纂された家譜である。

[317] 4410 武族譜記 Vũ tộc phả kí A.1629：武楊光が嗣德 33 年（1880）に撰述。
表紙○・序（3-5 頁）・本文（5-14 頁）・墓誌図（16-18 頁）・裏表紙（19 頁）
表紙に「武楊光奉録」とある。裏表紙に楊光が嗣德 33 年（1880）に書いたとある。家譜によれば、「顕考」の福良と妻蔡・美春の生没年は 1799~1850 年と 1809~1849 年である。

[318] 4420 王族家譜 Vương tộc gia phả A.3021：王廷植が紹治 5 年（1845）に序文を作成。武維禎が嗣德辛未（1871）に跋を作成。
表紙×・序（1-7 頁）・風水（8-14 頁）・本文（15-20 頁）
「序」は紹治 5 年（1845）に王廷植が書いた。家譜の中には維禎が庚午年（1870）に挙人となった情報だけではなく、嗣德 33 年（1880）から維新 8 年（1914）までの「憑文」発行の情報がある。家譜の中で廷植は「曾祖」と称される点からも、20 世紀以降の写本であることが分かる。

X

[319] 4429 春早尚書阮進士家譜 Xuân Tảo thượng thư Nguyễn tiến sĩ gia phả A.1418⁴³：阮致遠が嗣德 12 年（1859）に編纂。阮文理（号は志亭）が嗣德 2 年（1849）に序文を作成。
表紙○・春早阮尚書家譜序（3-6 頁）・阮族家譜世次（8-147 頁）・祠堂對聯（148-149 頁）・嚴祠祭文（150-166 頁）・附：后忌（166-169 頁）・外祖（169-173 頁）・双鸞輿圖（173-174 頁）

⁴³ 『漢喃遺産』と『漢喃文献』に A.1481 とあるが A.1418 が正しい。

表紙に「嗣徳十二年」に「世嗣遠奉録」とある。「春早阮尚書家譜序」は「同郡東作進士阮文理」が嗣徳2年（1849）に作成した。

Y

[320] 4506 綺羅社楊氏家譜 Y La xã Dương thị gia phả A.760 : なし。

表紙×・行状（1-20 頁）・先生碑記（21-27 頁）・先生詩集（27-38 頁）・附録大宗家譜（39-118 頁）
「行状」に嗣徳己未（1859）に「門人初編重編校訂」とある。「先生碑記」に嗣徳14年（1861）に「門契戊戌科三甲同進士……上福黎誠齋」が書いた。ここで「先生」とは、麗（字は登用、号は虎致）を意味する。楊登用（1804~?）は1828年に挙人、1829年に進士となった。黎誠齋は黎惟忠（1795~1863、1838年進士）であると思われる。「行状」によれば、登用の高祖は福静である。「附録大宗家譜」では第二代祖に当たり、第四男は寧齋である。寧齋の生没年は1744~1826年である。

国家図書館

C

[321] 国1 朱族家譜 Chu tộc gia phả R.28 : 「1955」。

表紙○・朱族世次譜（2-3 頁）・（本文）（4-48 頁）・賀寿儀節（50-52 頁）・岳家忌日（54 頁）・全家生日諱計列后（56-58 頁）・按兇不幸命設計后（59 頁）・朱進士祠堂祭文（60-84 頁）・雲畝聖母事蹟（86-87 頁）・張公尊神事跡（87-107 頁）・（祭文類）（108-115）
表紙に「陽曆老千玖百伍拾伍年」「陰曆甲午年孟春〔望日〕敬書」とある。

D

[322] 国2 段族譜 Đoàn tộc phả R.952 : 「第十代孫挙人段仲暄春韶拜題、太平署守永川進士武文理黃中題序」、「明命拾參年歲在壬辰仲冬吉日（1832）」。

表紙×・序（1-4 頁）・段族譜序（5-10 頁）・段族譜凡例（11-14 頁）・段族譜世次図（15-26 頁）・本文：第一代誌-第十一代誌（27-138 頁）・合祀各礼引（139-150 頁）・附録外孫（151-154 頁）・紹治貳年陸月吉日第十一代孫段仲暄奉編家先歴代封銜諡号（155-159 頁）・紹治貳年陸月吉日五代外孫段仲暄奉編家先歴代封銜諡号（161-164 頁）・紹治二年六月吉日奉編内外家先諸忌辰（165-169 頁）

「序」は紹治五年（1845）に永川進士武文理が作成した。「段族譜序」は明命13年（1832）に「第十代孫挙人段仲暄」が書き、乙未（1835）に「北城文温上挙人杜培元」が写した。武文理（1809~?、1841年進士）は、段仲暄（1808~1882、1831年挙人）と「文契」である。杜培元は1834年に挙人となった。

[323] 国3 東稠段族譜 Đông Trù Đoàn tộc phả R.951 : 「第十代孫挙人段仲暄春韶拜題、太平署守永川進士武文理黃中題序」、「嗣徳十一年戊午仲冬（1858）」。

表紙×・東稠段族譜序（1-4 頁）・東稠段族譜序（5-9 頁）・東稠段族譜凡例（11-14 頁）・東稠段族譜世次図（15-26 頁）・東稠段族譜：第一代誌-第十一代誌（27-134 頁）・礼典引（135-154 頁）・附録外族（153-156 頁）・周舍村図（157 頁）

G

[324] 国4 江氏家譜 Giang thị gia phả R.1910 : 「江文顕」、「嗣徳二年（1849）」。

表紙×・月沼波心詩（2 頁）・江氏家譜序（3-5 頁）・附録（6 頁）・甲乙二支祖考妣墳墓忌辰日具列（7-10 頁）・江氏祠堂対聯（11-15 頁）・江族祠堂記（17-21 頁）・榮郡公江探花文忠先生行状（23-27 頁）・忌祭儀節（29-30 頁）・通年春首祭文（31-35 頁）・祭文（37-45 頁）・本文：始祖-四代祖（47-56 頁）・第五代甲支祖（-十二代祖）（57-69 頁）・第五代乙支祖（-十三代祖）（70-101 頁）・家系図（103-104 頁）・祖先（105-110 頁）

「月沼波心詩」は「甲午科応試解元江貴公」が記した。「江氏家譜序」は嗣徳2年（1849）に「乙支九世孫江文清」が奉考し、「乙支十世孫〔甲午科解元……〕江文顕」が作成した。「江族祠堂記」は江文顕

が嗣徳2年に書いた。江文顕は明命15年(1834)に挙人となった。榮郡公探花文忠先生は江文明(1573~1638、1628年進士)である。四代祖に当たる文明の長男と次男がそれぞれ五代祖の甲支と乙支となった。六代以降は、祖先の名前と息子の名前を書くだけで、妻や娘は省略している。文顕は文明の6代孫にあたる。

M

[325] 国5 慕沢黎氏家譜事跡記 *Mộ Trạch Lê thị gia phả sự tích ký* R.2242 : 重複 ([142] A.658)

[326] 国6 阮堂譜記 *Nguyễn Đường phả ký* R.2011 : 「阮自瑤」、「啓定壬戌(1922)」。

表紙○・阮堂家譜序(3-7頁)・家譜凡例(8-9頁)・本文(11-31頁)・附録我族大尊小尊之事跡(33-34頁)・附録我族小尊構作祠堂(35-36頁)・表紙:阮族外譜(附録外家世譜)(37頁)・阮族外譜序(38頁)・本文(38-51頁)・附録今舅裴秀才公常記(51-59頁)・附録裴外族家譜序(60-63頁)・阮堂家世譜序(65-66頁)・本文(旧譜)(67-80頁)

表紙に「九世孫丙支阮自繼」が啓定壬戌(1921)に書いたとある。「附録裴外族家譜序」は裴秀才公が書いた。「阮堂家世譜序」は紹治4年(1844)に「三科秀才阮自備」が作成した。「本文(旧譜)」の最後(80頁)に「曾祖三科秀才阮福忠」が書いたとある。阮自備(福忠)の生没年は1803~1857年であり、その息子と孫の福信と嚴明の生没年はそれぞれ1829-1889と1871-1912である。裴秀才公は嚴明の義父である。

※R.2012には「阮族外譜」以降がない。

N

[327] 国7 阮堂譜記 *Nguyễn Đường phả ký* R.2012 : 重複 ([326] R.2011)

[328] 国8 阮堂譜記 *Nguyễn Đường phả ký* R.2013 : 「九世孫繼奉訳」、「皇保大丙子(1936)之春」。字喃。

[329] 国9 阮族家譜 *Nguyễn tộc gia phả* R.217 : 重複 ([270] VHv.2136)

T

[330] 国10 統会大族石譜 *Thống hội đại tộc thạch phả* R.676 : 「紹治5年(1845)」 「杜炎搜尋考校以成之也、子快州府知府杜炯謹記」。

表紙×・統会大族石譜序文(1-3頁)・本文(4-19頁)・次族譜誌(20-24頁)・親族譜記(24-29頁)・杜氏長支族譜(30-34頁)・訛伝譜記(35-38頁)・歴代譜系(39-53頁)・杜氏譜序(54-55頁)・杜氏寔録(55-105頁)・大宗祠堂対聯(106-107頁)・図(108-109頁)

「統会大族石譜序文」は「嚴堂」杜炎が書いたものを杜炯が紹治5年(1845)に記した。「歴代譜系」は成泰17年(1905)に杜善闡が書いた。三代祖圓安の長男圓忠の十一代孫が炯であり、善闡は次男圓誼の十三代孫である。『国朝郷科録』によれば、炎(1828年挙人)の息子、炯と煊は二人とも1847年に挙人となった。「親族譜記」の最後(29頁)に「[丁未]家二男子杜炯杜煊赴义安場合試[紹治七年丁未]並登榜」とある。ただ、炯を基準に高祖までを記した「親族譜記」によれば、「正考」と称される正懿の生没年は1757~1820年であり、景興44年(1783)に生徒に合格しており、西山朝においては「吏部弁事」となったが、嘉隆元年(1802)には「不受辞帰」したという。杜炯が書いた部分を基準とする。

[331] 国11 瑞応家譜 *Thụy Ứng gia phả* R.5860 : 「阮金芝奉写」、皇朝維新六年(1912)歳在壬子秋月穀日祭文類。

[332] 国12 状元樗寮先生家譜 *Trạng nguyên Hu Liêu tiên sinh gia phả* R.1983 : 「阮力行」

表紙×・状元樗寮先生家譜(1-60頁)・貝溪阮族家譜世次(61-88頁)

「壮元樗寮先生家譜」に「洪徳万万年之二十七（1496）」に洮江府知府の阮力行が親父の樗寮先生家譜を「余」に示し、「叙」を願ったとある（示余請叙）。「余」は不明。樗寮先生は阮直（1417~1474、1442年進士）である。「貝溪阮族家譜世次」には阮力行の諱が阮炯となっている。『大越歴朝登科録』によれば、阮炯（?~?）は1478年に進士に合格した人物であるが、阮直との関係は記されていない。特に「貝溪阮族家譜世次」は黎朝を「前朝」とし「実」の代わりに「寔」を使用しているため、阮朝に書き写されたと考えられる。つまり、「壮元樗寮先生家譜」を参考して、阮朝に「貝溪阮族家譜世次」が書かれたと推量される。